

1 全学共通科目（教養科目）

人文科学	哲学
	論理学
	宗教学
	心理学概論（心理学）
	日本近現代史
	アート論
哲学の人間学	

社会科学	社会学A
	社会学B
	法学
	憲法
	政治学
	国際関係論
	社会思想史

自然科学	科学史
	生物学
	化学
	物理学
	統計学
	情報科学
	環境科学
	数学概論

総合科目	人権論
	ジェンダー論（女性学）
	現代社会と嗜癖
	性教育学
	ケアリング・サイエンス
	グローバル社会論
	入門・数字で見る日本社会
	ライフキャリア論

※入学年によって、（斜体）の科目に読替になります。

全学共通科目（基礎科目）

必須外国語	英語Ⅰ－（１）
	英語Ⅰ－（２）
	英語Ⅱ－（１）
	英語Ⅱ－（２）
	英語Ⅲ－（１）
	英語Ⅲ－（２）
	リーディングⅠ
	リーディングⅡ
	ライティング
	オーラルコミュニケーションⅠ
	オーラルコミュニケーションⅡ
	オーラルコミュニケーションⅢ

選択外国語	英語Ⅳ－（１）
	英語Ⅳ－（２）
	リーディングⅢ
	韓国語Ⅰ－（１）
	韓国語Ⅰ－（２）
	韓国語Ⅱ－（１）
	韓国語Ⅱ－（２）
	韓国語Ⅲ－（１）
	韓国語Ⅲ－（２）
	中国語Ⅰ－（１）
	中国語Ⅰ－（２）
	中国語Ⅱ－（１）
	中国語Ⅱ－（２）
	中国語Ⅲ－（１）
	中国語Ⅲ－（２）
	仏語Ⅰ－（１）
	仏語Ⅰ－（２）
	仏語Ⅱ－（１）
	仏語Ⅱ－（２）
	独語Ⅰ－（１）
	独語Ⅰ－（２）
	独語Ⅱ－（１）
	独語Ⅱ－（２）
	海外語学実習事前指導
	海外語学実習
	Introduction to studying in English

情報処理	情報処理の基礎と演習
	情報処理応用演習
	情報処理演習Ⅰ
	情報処理演習Ⅱ

健康科学	保健理論
	健康スポーツ論
	健康科学実習Ⅰ
	健康科学実習Ⅱ

基礎 セミ	教養演習……………
----------	-----------

発展 セミ	社会人基礎力演習…………… Advanced English Achievement……………
----------	--

全学横断型科目
(両学部で学ぶ専門的連携科目)

◇	不登校・ひきこもり援助論…………… 子供学習支援論…………… プレ・インターンシップ…………… 専門職連携入門…………… データベース論…………… 情報ネットワーク論…………… 問題解決演習…………… 日本語ライティング……………
---	--

I. 科目情報

科目名（日本語）	哲学	単位	2
科目名（英語）	Philosophy	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	後期
担当教員	神谷英二		
授業概要	価値観の多様化する現代社会においては、人々は日々さまざまな価値観や利害の衝突に出会い、これらをルールに基づいて調整しなければならない。社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目として、この授業では、自由主義、パターナリズム、功利主義、義務論、共同体主義などの社会哲学的・倫理的理論を具体的事例にもとづいて学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。		
テキスト	なし。		
参考図書 ・教材等	授業時に配付する。		
実務経験を 生かした授業		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	現代社会における規範の基礎的内容を理解したうえで、各自の判断に活用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	現代社会における課題について自ら考え、常識や先例を相対化し、自分自身の意見をつくりあげる能力を身につける。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代社会を動かしている規範やルールについての理解を深め、現代社会で発生する問題について自ら考え、常識や先例を相対化し、自分自身の意見をつくりあげることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
現代社会を動かしている規範やルールについて理解し、現代社会で発生する問題について自ら考えることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	60				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	ガイダンス	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「哲学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「哲学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。(以下、15 回まで同様。)
2	自由主義と自己決定(1) 事例研究	「哲学講義資料」による講義	
3	自由主義と自己決定(2) 自由の理論	「哲学講義資料」による講義 小レポート (第 1 回)	
4	自由主義と自己決定(3) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義	
5	パターナリズム(1) 理論と事例研究	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
6	パターナリズム(2) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義 小レポート (第 2 回)	
7	功利主義(1) 理論と事例研究	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
8	功利主義(2) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義 小レポート (第 3 回)	
9	義務論(1) 理論と事例研究	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
10	義務論(2) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義	

11	共同体主義、寛容、共生社会	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
12	新しい公共とボランティアの思想	「哲学講義資料」による講義 小レポート（第4回）	
13	ソーシャルビジネスの可能性	「哲学講義資料」による講義	
14	ソーシャルデザイン／コミュニティデザイン	「哲学講義資料」による講義 小レポート（第5回）	
15	復習とまとめ	学習内容全体についての復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				グループ・ディスカッションを随時行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	論理学	単位	2
科目名（英語）	Logic	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	神谷英二		
授業概要	現代社会においては、論理的な理解能力・思考能力・表現能力が重要な職業上のスキルとして強く求められている。この授業ではこれらの論理的基礎能力を養うために、論理思考と日本語表現の論理トレーニングを行う。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。		
テキスト	なし。		
参考図書 ・教材等	授業時に配付する。		
実務経験を 生かした授業		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	専門職業人に日常業務のなかで求められる、論理的に表現するスキルの基礎を習得する。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代社会における専門職業人に求められる、論理的スキルの基礎を習得し、実務で活用できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
現代社会における専門職業人に求められる、論理的スキルの基礎を習得する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	30				30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○				○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	授業プランの説明 例題を使ったトレーニング	「論理学オリジナルテキスト」により授業内容を復習すること。欠席した場合は、必ずその回のトレーニングを各自行うこと。
2	論理思考と日本語の論理	毎回、授業時に配付する「論理学オリジナルテキスト」にしたがい、重要事項の解説をした後、すぐに授業中に実践的トレーニングを行う。	
3	接続の論理(1)	解説とトレーニング	
4	接続の論理(2)	解説とトレーニング	小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。
5	議論の組み立て	解説とトレーニング 小テスト (第1回)	
6	演繹と推測	解説とトレーニング	
7	質問力	解説とトレーニング	
8	クリティカルシンキング	解説とトレーニング	
9	MECE(1)	解説とトレーニング	小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。
10	MECE(2)	解説とトレーニング 小テスト (第2回)	
11	So What? /Why So?(1)	解説とトレーニング	
12	So What? /Why So?(2)	解説とトレーニング	小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。

13	ロジックツリー(1)	解説とトレーニング 小テスト (第3回)	
14	ロジックツリー(2)	解説とトレーニング	
15	復習とまとめ	学習内容全体についての復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容				毎回、自分が出した解答を複数名で相互に検討する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	宗 教 学		単位	2
科目名（英語）	Comparative Religions		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	2年	開講時期	後期集中	
担当教員	白川 琢磨			
授業概要	<p>宗教は人類の文化を構成する3大コードの1つである。特定の宗教として成立する以前の基層宗教は、主に宗教人類学の領域で研究されてきたが、その中からアニミズム（スピリチュアリズム）・シャーマニズム・呪術（magic）・妖術（witchcraft）の概念や現象について解説する。今日の世界宗教は、大きく分けると2つの系列に分けられる。1つは、世界人口の約半分が帰属しているユダヤ教・キリスト教・イスラームである。これらの宗教は預言者の共通性に着目して「アブラハム信仰」と呼ばれるが、唯一絶対的な神観念をその特徴としている。それ以外に、預言者の存在、直線的な時間観などがあるが、今日の宗教紛争の根本的な原因ともなっている異教及び異教徒の位置づけが最大の問題であろう。</p> <p>もう一つの系列が、日本宗教が属するところの「アジア宗教」である。講義では、その中で日本宗教とつながりの深いヒンドゥー教と仏教を取りあげる。ヒンドゥー教から引き継いだ「輪廻転生」と大乘仏教に由来する『六波羅蜜』が8世紀頃、我が国に定着し、それまでに存在していた神祇信仰と融合して「神仏習合」とも呼ぶべき独特な状態を作り上げる。しかもこの状態が明治元年（1868）に「神仏分離」という強硬な文化政策で一挙に崩壊する。以降、我が国の近代化（合理化）の歩みは、正に神仏習合の対極にあったのであり、アブラハム信仰圏とは、全く異質な宗教と民衆との関係をもたらしたのである。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	パワーポイントを用いて授業を進め、必要に応じて映像教材も使用する。資料も配布するが、重要な点はノートを取りながら聴講することが必要である。			
テキスト	授業ごとに資料を配付する。			
参考図書 ・教材等	祖父江孝男『文化人類学入門（増補改訂版）』中公新書 560 関一敏・大塚和夫編『宗教人類学入門』弘文堂 白川琢磨『頭密のハビトゥス：神仏習合の宗教人類学的研究』木星舎 安丸良夫『神々の明治維新：神仏分離と廃仏毀釈』岩波新書黄版 117			
実務経験を 生かした授業			授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業中に質問を受け付けるほか、メールでの質問にも回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	宗教に関して偏見によることなく、正しく客観的に捉えることができる。
		(DP2)	日本人の宗教環境が正しく理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
肯定が3割、否定が7割というのが戦後一貫した日本人の宗教に対する態度である。この理由と背景をきちんと説明することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
アブラハム信仰とアジア宗教の違いを説明することができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		80					20	100
知識・理解	(DP1)	○					○	
	(DP2)	○					○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	日本人の宗教	講義	シラバスをよく読んでおく。
2	日本人の霊魂観と死生観	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを学習する。
3	基層宗教①アニミズム（スピリチュアリズム）	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを学習する。
4	②シャーマニズム	講義 + DVD	前回講義の資料部分と自らのノートを学習する。
5	③呪術 ④妖術	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを学習する。
6	アブラハム信仰の特徴①唯一絶対神観念	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを学習する。

7	②預言者の存在 ③直線的 時間観	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
8	④異教及び異教徒の位置づ け エルサレムの現状	講義 + 映像教材	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
9	ヒンドゥー教、原始仏教	講義 + 映像教材	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
10	ガンダーラ：大乘仏教の出現	講義 + 映像教材	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
11	仏教伝来と神祇信仰	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
12	大宝律令と記紀神話	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
13	神仏習合の4段階	講義 + DVD	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
14	神仏分離の背景	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
15	日本宗教の現在：生（神道） と死（仏教）と霊（新宗教）	講義	前回講義の資料部分と自らのノートを 学習する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	心理学概論			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士 精神保健福祉士 社会福祉士		
標準履修年次	1	開講時期	前期		
担当教員	上野 行良				
授業概要	福祉社会を支える人材として必要な人の心についての知識を身につけるための科目です。この授業では心理学の基礎的な知識を「心理的支援」を中心軸として授業を行います。講義と課題を通して、人を心理学的に理解し、支援するために必要な心理学的知識を身につけてください。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問から数問を選んで授業中に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	人間の心理を理解するために必要な知識をもっている
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 人を心理学的に理解し、支援するために必要な心理学的知識を積極的に身につけることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 講義と課題を通して得た、人を心理学的に理解し、支援するために必要な心理学的知識をもっている。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)		○	○				
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
2	心と体 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
3	心と体 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
4	心と脳 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
5	心と脳 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
6	認知の誤り	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
7	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
8	欲求と感情 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
9	欲求と感情 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
10	欲求と感情 3	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
11	記憶	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
12	自己形成	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
13	受容 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
14	受容 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				全授業において課題を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本近現代史			単位	2
科目名（英語）	Modern History of Japan			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	有谷 三樹彦				
授業概要	戦後70年を経た現在においても、従軍慰安婦問題、空襲被災者による訴訟、靖国問題など、先の戦争についての諸問題が噴出し、またアジアの人々からの日本の戦争責任・戦後責任を問う声も鳴り止みません。果たして戦後の日本人は戦争について深く考え議論し総括する努力をしてきたといえるのでしょうか。あらためて日本人の歴史認識と日本の戦争責任・戦後責任が問われているといえます。本講義では、日本戦後史を歴史認識と戦争責任・戦後責任の観点から捉えなおすことにより、戦後の経済発展の影にかくれて忘れ去られていった過去を検証します。この科目は、社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目です。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト					
参考図書・教材等	参考文献：大沼保昭『「歴史認識」とは何か』中公新書、2015年。東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』岩波現代全書、2015年。荒井信一『戦争責任論』岩波現代文庫、2005年。吉田裕『日本人の戦争観』岩波現代文庫、2005年。波多野澄雄『国家と歴史』中公新書、2011年。栗原俊雄『戦後補償裁判 民間人たちの終らない「戦争」』NHK出版新書、2016年。日暮吉延『東京裁判』講談社現代新書、2008年。若宮啓文『戦後70年保守のアジア観』朝日選書、2014年。林房雄『大東亜戦争肯定論』中公文庫、2014年。山崎雅弘『日本会議 戦前回帰への情念』集英社新書、2016年。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	日本近現代史の学習を通じて、社会に貢献するための歴史的知識を身につける。
		(DP2)	歴史認識と戦争責任・戦後責任についての専門的知識を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	国家・政治・社会の諸問題について、感情論に流されず歴史学の知識に基づいて論理的に思考し判断することができる。
		(DP4)	歴史学の知識に基づいて、自己の考えを説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	国家・政治・社会の諸問題について、主体的かつ意欲的に探究することができる。
		(DP6)	歴史学の知識や思考を様々な社会貢献に活かすことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
歴史認識と戦争責任・戦後責任について、正確に理解し的確に詳しく説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	歴史認識と戦争責任・戦後責任について、ある程度理解しある程度説明することができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	歴史認識と戦争責任・戦後責任について、正確に理解し、自ら工夫して的確に詳しく説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	歴史認識と戦争責任・戦後責任について、正確に理解し的確に詳しく説明することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	歴史認識と戦争責任・戦後責任について、理解し詳しく説明することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	歴史認識と戦争責任・戦後責任について、ある程度理解しある程度説明することができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	歴史認識と戦争責任・戦後責任について、理解できず説明することもできない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内小テスト	学期末レポート	発表	授業態度・授業への参加度	講義内容説明文	合計
総合評価割合			50	40		10	プラス評価	100
知識・理解	(DP1)		○	○		○	○	
	(DP2)		○	○		○	○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	○		○	○	
	(DP4)			○				
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)			○				
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		2回の小テストと学期末レポートは必修です。無断遅刻・無断欠席は評価に影響します。無断遅刻・無断欠席常習者には、欠席補習レポートが課されます。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス 歴史認識とは何か	講義ガイダンス、講義、受講生は授業終了時に講義内容説明文を書く	上記の参考文献等を使って、人物や事件など基礎的な事項を調べておく。
2	歴史認識はどのように形成されるのか	講義、講義内容説明文筆記	同
3	戦争責任・戦後責任とは何か	同	同
4	大東亜戦争肯定論	同	同

5	十五年戦争とファシズム	小テストガイダンス、講義	同
6	植民地支配	講義、講義内容説明文筆記	同
7	太平洋戦争史観	第1回小テスト、講義	同
8	東京裁判	小テスト返却、学期末レポートガイダンス、講義、講義内容説明文筆記	同
9	昭和天皇	講義、講義内容説明文筆記	同
10	東京裁判の問題点	同	同
11	補償問題	同	同
12	日韓関係	同	同
13	靖国問題	第2回小テスト、講義	同
14	特攻隊	小テスト返却、講義、講義内容説明文筆記	同
15	日本人の歴史認識と戦争責任・戦後責任	講義、講義内容説明文筆記	同
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	アート論		単位	2
科目名（英語）	Theory of Art		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期集中	
担当教員	鮎川 真由美			
授業概要	「何が身体を動かすのか？」という問いを、アート・美学の領域で考察します。授業は、主に欧州で収集した多様な写真・映像・音楽（作品であるものもそうでないものも）を視聴しながら行います。そして西洋の芸術史（あるいは美学史）のなかで、とくに身体表現や身心問題に焦点をあてて作品・理論を検討し、最終的には、生きる身体の可能性を、現代のアートから広く生活実践のなかに見いだしてゆきます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	テキストは特に指定しない。			
参考図書・教材等	講義補足資料や文献リストを適宜配布します。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメント用紙で受け付け、授業時間のなかで回答します。また適宜、個別の質問にも、本集中講義期間内に応じます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	人間を自然的かつ文化的存在として捉える教養・知識を、社会生活において活用することができる。
		(DP 2)	アートを広く身体文化のなかで捉えることで、人間の身体の幅広い可能性を認識し、実践できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	アートの世界における身体の（ひいては人間の生の）表現可能性やその論理性を、生活世界、看護実践のなかでも活用することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	

		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
多様な視聴覚教材を用いる本授業では、受講生は毎日の授業終了時、講義内容について自らの考えを感想文として自由に記述、提出できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
本授業の履修により、1)自然的なものであると同時に、文化的、歴史的なものでもある身体表現の可能性や論理性について理解し、2)それらを生活世界において実践的に活用できる知識をもつことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		
不可：～59	到達目標を達成できていない。		

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			50				50	100
知識・理解	(DP1)		○				○	
	(DP2)		○				○	
思考・判断・表現	(DP3)		○				○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							

	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	イントロダクション (1): 自然か、人工か? - 身体における -	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
2	イントロダクション (2): アート (技術) と身体	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
3	イントロダクション (3): 美と身体 - ルネサンスまでの -	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
4	身体と舞踊	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
5	身体と衣装	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
6	身体と絵画	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
7	身体と機械	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
8	身体と風景	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
9	身体と貨幣	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
10	身体と音楽	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
11	身体と五感	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
12	身体と記憶	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
13	身体と映像	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。
14	身体と旅行	講義	講義中に提示されたキーワードをよく理解しておくこと。

15	まとめー生きる術としての アートー	講義 レポート記述	講義中に提示されたキーワードをよく 理解しておくこと。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	哲学的人間学		単位	2
科目名（英語）	Philosophical Anthropology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	樋渡 河・重松順二			
授業概要	「人間とは何か？」と改めて問われてみれば、誰もが答えに窮してしまう。本講義では、人間を主に、身体と人格の両面から取り上げる。身体は、自然および人工の環境に独自の仕方で適応しており、我われ自身よりも我われをよく知っている。また、保健福祉分野での人格の尊厳は切実な問題であり、人格への哲学的基礎論からのアプローチが重要な寄与をなす。本学での専門教育のための基礎科目として、現代社会において「人」にたずさわるための、哲学的基礎教養を学習する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	テキストはとくに設けない。			
参考図書・教材等	①メルロ＝ポンティ『知覚の現象学1・2』（みすず書房）②カッシーラー『人間』（岩波文庫）③アーレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	教養として、人間学、哲学、倫理学についての知識を幅広く身につけている。
		(DP2)	環境における人間の身体と社会における人格の尊厳についての知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	「人間とは何か」という問いを、自分の問題として哲学的に捉えて、他者に説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「人間とは何か」という問題に関して、哲学、倫理学の基本的知識を踏まえながら、自分なりの答えをまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
哲学、倫理学を踏まえた「哲学的人間学」における「人間」のとらえ方が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

「人間とは何か」という問題に関して、哲学、倫理学の基本的知識を踏まえながら、自分なりの答えをわかりやすくまとめることができ、その上さらに問題提起ができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
「人間とは何か」という問題に関して、哲学、倫理学の基本的知識を踏まえながら、自分なりの答えをわかりやすくまとめることができる
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
「人間とは何か」という問題に関して、哲学、倫理学の基本的知識を踏まえながら、自分なりの答えをある程度まとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
哲学、倫理学を踏まえた「哲学的人間学」の基本的知識が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
哲学、倫理学を踏まえた「哲学的人間学」の基本的知識が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		60		40				100
知識・理解	(DP1)	○		○				
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	哲学的人間学への導入 (樋渡)	「講義資料」による講義	参考文献②
2	こころともの 人間のいない世界と人間しかいない世界 (樋渡)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
3	存在論 存在するものには存在仕方の違いがある (樋渡)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
4	感覚の世界 音を味わい、色を聴く (樋渡)	「講義資料」による講義	参考文献①
5	身体と言葉 からだとことばが勝手に動く 小レポート (樋渡)	「講義資料」による講義	参考文献①

6	人間学 人間は働き、作り、活動し、遊ぶ (樋渡)	「講義資料」による講義	参考文献③
7	前半のまとめ (樋渡)	「講義資料」による講義	
8	哲学的思考と科学的思考 (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
9	理論哲学における「私」(1)・デカルトのコギト (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
10	理論哲学における「私」(2)・カントの理論哲学 (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
11	理論哲学における「私」(3)・カントの理論哲学 (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
12	実践哲学における「私」(1)・カントの実践哲学 (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
13	実践哲学における「私」(2)・カントの実践哲学 (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
14	カントにおける人格とパーソン論における人格 (重松)	「講義資料」による講義	講義資料の復習
15	全体のまとめ (重松)	授業全体の総括	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学 A		単位	2
科目名（英語）	Sociology A		授業コード	
必修・選択	選択（公共は必修）	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士	
標準履修年次	1 年次	開講時期	前期	
担当教員				
授業概要	社会学とは、社会現象を客観的に把握する学術である。この授業では、以下の（1）～（4）の議論をもとにした授業である。（1）それがなぜ発生したのか（2）発生した社会現象は、どのような過程を経て進行したか（3）発生した社会現象は逸脱的なものか。それとも創造的なものか。（4）逸脱的な社会現象を抑制すれば、社会はより良いものとなるのか。それとも創造的な社会現象を活かしながら、社会を成長させることができるのか。以上（1）～（4）の議論をもとに、テキストとの比較を行いながら、講義を展開してゆく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	アンソニー・ギデンズ 著・松尾精文ほか訳『社会学 第五版』而立書房. ¥3,960 ISBN-13: 978-4880593500			
参考図書 ・教材等	授業内で紹介します。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問やご意見はお気軽にお知らせ下さい。講義内でメールアドレスをお知らせします。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	社会学の基礎知識を、主にグローバル化、都市成長／地域再生や、消費文化の観点から修得することができる。
		(DP 2)	社会への参与が、逸脱的行動や病的性格を防ぐという社会学的考えを、具体的に修得でき、教養を深めることができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代の社会現象における因果関係を判断し、なぜ社会的流行や、社会問題が起きたのかという問いに対する答えを論理的に思考し、具体的に表現できるスキルを修得できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会学が、ある社会現象が発生した要因を追求する学術であることを修得することが本科目の履修目標。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ある社会現象が発生する問いを明らかにし、社会学の概念と結びつけながら、説明できる力を養うことが到達目標			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80～89	履修目標を達成している。
B : 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	15	5				100
知識・理解	(DP1)	○	○	○				
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	序論——社会学とはどのような学術か	講義(社会現象の因果関係)	講義資料とテキストの「1 社会学とは何か?」「3 社会学の問いを発し、その問いに答える」を順次読んでください。
2	近代化とは何か	講義(近代化の議論)	以下の資料を順次読んでください。 レジュメ『第1講近代化の帰結』 テキスト 「9 社会成層と階級」 「17 教育」 「18 労働と経済生活」 「19 犯罪と逸脱」
3	近代化の帰結(1)	産業革命以降の近代化を説明	
4	近代化の帰結(2)	講義(労働者と使用者の二極化を議論)	
5	近代化がもたらした逸脱・犯罪・病理的性格	講義(近代化がもたらした諸問題)	
6	近代化と社会分業—機械的連帯から有機的連帯	エミール・デュルケム『社会分業論』の講義	
7	近代化と自殺	エミール・デュルケム『自殺論』の講義	
8	ひとびとは、なぜ職業に就くのか	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の講義	
9	近代化と官僚制	マックス・ヴェーバーやロバート・K・マートンの研究を紹介する講義	
10	近代家族制度と世帯	近代家族制度に基づき形成された家族と核家族化の講義	

11	現代の社会変動ーグローバル化	講義(通信技術革新と旅客交通網の拡大)	以下の資料を順次読んでください。 レジュメ『第3講 現代の社会変動』 テキスト 「環境とリスク」 「政治、統治、テロリズム」 8 健康、病気、障害 10 貧困、社会的排除、福祉 14 現代社会における宗教 15 メディア
12	グローバル化は何をもたらしたのか(1)	講義(新興工業国の興隆と先進国の危機)	
13	グローバル化は何をもたらしたのか(2)	講義(貧困、社会的排除、福祉)	
14	グローバル化は何をもたらしたのか(3)	講義(不安と現代社会の宗教)	
15	グローバル化は何をもたらしたのか(4)	講義(不平等と排除が産みだすテロリズム)	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会学 B			単位	2
科目名（英語）	Sociology B			授業コード	
必修・選択	選択（公共は必須）	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	1 年次	開講時期	後期		
担当教員	三 田 知 実				
授業概要	前期に続いて、社会学の基礎知識を、身近な事例を交えながら、概要的に説明してゆき、理解を深めてゆく講義とする。おもに高度経済成長期、バブル経済の盛衰、脱工業化、グローバル経済の発達や、格差問題について議論を行う。グローバル経済は、現代社会に何をもたらしたのか。この問いにたいする答えを見出し、考察を深めながら、講義を展開してゆく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	アソニー・ギデンス著・松尾精文ほか訳『社会学 第五版』而立書房. ¥3,960 ISBN-13: 978-4880593500				
参考図書 ・教材等	授業内で紹介します。				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	質問やご意見はお気軽にお知らせ下さい。講義内でメールアドレスをお知らせします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	社会学を学び社会の最新動向を見定める力を養うことができる。
		(DP 2)	現代社会の動向を見定めるだけでなく、それが、どの領域の社会学で、議論が展開されているのかについて、理解し、社会学の知識を深めることができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	日常生活の変化を徐々に体験することにより、大きな社会変動が起きていることを理解でき、論理的に思考し、表現できるようにする。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会学の基礎知識を、事例を用いながら、修得してゆくことが、本科目における履修目標である。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会学の基本を理解し、それを事例と結びつけながら、自分の言葉で説明できることが、到達目標である。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	15	5				100
知識・理解	(DP 1)	○	○	○				
	(DP 2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP 3)	○	○	○				
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP 10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	序論——事例と理論を結びつける	講義(社会学と現実を結びつける技法)	下記の資料を用いて予習と復習を行ってください。 講義資料 「第1講 事例と理論を結びつける」 テキスト 「4 社会学における理論的思考」
2	現代の社会学(1) —全国総合開発計画と高度経済成長	講義(全国総合開発計画と高度経済成長)	下記の資料を用いて予習と復習を行ってください。
3	現代の社会学(2) —太平洋ベルト	講義(太平洋ベルトの形成と工場地帯の発達)	講義資料
4	現代の社会学(3) —太平洋ベルトを構成する工業地帯	講義(京浜・中京・阪神・瀬戸内海・北九州工業地帯の説明)	「第2講 高度経済成長——全国総合開発計画の観点から」
5	現代の社会学(4) —オイルショックとエネルギー転換	講義(オイルショックとエネルギー転換)	講義資料
6	現代の社会学(5) —エネルギー転換と九州	講義(エネルギー転換が北九州工業地帯に与えた影響)	「第3講 新興工業国の発達と先進国諸都市」
7	現代の社会学(6) —新興工業国の成長と東アジアの環境問題	講義(新興工業国における工場の急増と東アジアの環境問題)	テキスト
8	現代の社会学(7) —グローバル経済の発達と先進国諸都市	講義(グローバル経済の発達が生み出したグローバル都市)	「2 グローバル化と、変動する世界」 「21 都市と都市的空間」 「22 環境とリスク」
9	現代の社会学(8) —モノの生産から知識の生産へ	講義(知識生産によるグローバル経済の発達)	

10	現代の社会学(9)ーグローバル都市と多様性への寛容	講義(知識生産に従事する人々の多様性への寛容)	下記の資料を用いて予習と復習を行ってください。 講義資料「第3講 グローバル都市」 テキスト 「11 グローバルな不平等」 「12 セクシュアリティとジェンダー」 「13 人種、エスニシティ、移民」
11	現代の社会学(10)ーグローバル都市が産む多様な文化	講義(グローバル都市が産む多様な文化)	
12	現代の社会学(11)ーグローバル都市における不平等	講義(グローバル都市が産みだす不平等)	
13	現代の社会学(12)ー多様性への理解と現代社会	講義(多様性への理解と現代社会)	
14	現代の社会学(13)ー身近な地域を考える	講義(田川の成長と衰退の要因を具体的に考える)	
15	現代の社会学(14)ー地域の再成長は必要か?	講義(地域の再成長/地方創生を批判的に考える)	講義資料 「第4講 身近な地域を考えるー田川」
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	法学	単位	2
科目名（英語）	Law	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	教職（中学校社会・高等学校公民）
標準履修年次	1	開講時期	前期
担当教員	森脇敦史		
授業概要	本講義では、民法や刑法、労働法、行政法、憲法、国際法といった様々な法分野の議論を検討し、その共通点と相違点を対比することで、社会生活に必要な法的知識を習得し、また社会問題を専門的に学ぶ基礎を形成することを目的とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	池田真朗編『プレステップ法学 第3版』弘文堂、2016年		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	社会生活の基盤となっている法制度の内容とその意義を理解できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	社会生活に内在する法的視点を自ら探索することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会生活に必要な法的知識を知るとともに、社会問題を法的視点から理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会生活と法との関わりを、条文と結びつけながら説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	100
知識・理解	(DP1)	◎					
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎					
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	ガイダンス……法律(学)が社会で果たす役割	講義	教科書の該当部分を読む 1章(6-17頁)
2	契約法(1)……契約自由の原則、契約の成立と効果	講義	2章(18-26頁)
3	契約法(2)……契約の取消、行為能力の制限	講義	2章(26-29頁)
4	消費者保護……契約自由の原則の修正、クーリングオフ、取消権	講義	2章(29-30頁) 5章(62-66頁)
5	不法行為法(1)……不法行為の成立要件	講義	3章(32-41頁)
6	不法行為法(2)……阻却事由、効果	講義	3章(41-45頁)
7	労働法……労働契約、労働組合、多様な働き方	講義	5章(67-75頁)
8	家族法(1)……婚姻	講義	4章(46-54頁)
9	家族法(2)……親子、離婚	講義	4章(54-61頁)
10	刑事法……刑罰の目的、罪刑法定主義、刑事手続	講義	6章(76-87頁)
11	交通事故と法……故意犯と過失犯、危険運転	講義	7章(88-99頁)
12	憲法……選挙権、統治機構	講義	8章(100-113頁)
13	情報社会の法と行政……個人情報、プライバシー	講義	9章(114-125頁)
14	国際社会の法(1)……条約、国際機関、国際環境法、国際私法	講義	10章(126-135頁)

15	国際社会の法(2)……国籍、国際人権法	講義	11章 (136-145頁)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	憲法	単位	2
科目名（英語）	Constitutional Law	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	全ての教職
標準履修年次	1	開講時期	後期
担当教員	森脇敦史		
授業概要	憲法は、国家権力を制限する法であるのと同時に、国家権力を可能とする法でもある。本講義では、国民主権、基本的人権、平和主義といった憲法の基礎概念を、具体的な事案と照らし合わせて解説することで、社会問題をより深く学ぶ基礎を作り、社会に生きる市民として必要な知識及び推論方法を習得することを目的とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社・2017年）		
参考図書・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	市民社会の基盤である憲法（特に日本国憲法）の内容とその意義を理解できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	対立する当事者の主張を権利義務の視点から捉えられる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>具体的な社会問題が、憲法解釈においてどのような形で扱われるのかを理解する。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p> <p>具体的な社会問題を、憲法の条文及びその解釈と結びつけながら説明できる。</p>		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合		70					30	100
知識・理解	(DP1)	○						
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○						
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス、憲法総論	講義	教科書の該当部分を読む
2	人権総論①……人権の概念と主体	講義	同上
3	人権総論②……制約原理、適用範囲	講義	同上
4	幸福追求権	講義	同上
5	平等権	講義	同上
6	思想・良心の自由	講義	同上
7	信教の自由	講義	同上
8	表現の自由①……総論、特別のルール	講義	同上
9	表現の自由②……内容規制と内容中立規制	講義	同上
10	経済的自由……職業選択の自由、財産権	講義	同上
11	社会権①……生存権、教育を受ける権利	講義	同上
12	社会権②……労働者の権利	講義	同上
13	参政権	講義	同上

14	平和主義①……憲法 9 条と自衛権、自衛隊・日米安 全保障条約	講義	同上
15	平和主義②……冷戦終結後の安全保障		同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	政治学		単位	2
科目名（英語）	Politics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	岡本雅享			
授業概要	政治は利害調整のしくみであり、仲間内から全世界まで、人集まれば生じる。政治が身近で、誰でも関わっていることを理解した上で、国家とは、政府とは、自治とは何か、冷戦と崩壊の中で変化した右派・左派（保守・リベラル）など政治思想と政党、メディアや市民活動の働きなどのトピックから、日本を主とした政治状況を捉えていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。			
テキスト	村上弘『新版日本政治ガイドブック』法律文化社			
参考図書・教材等	石川真澄『戦後政治史』第3版、岩波新書ほか			
実務経験を生かした授業	NGO職員として国会議員、外務省や法務省、文部科学省や厚生労働省の担当者と協議、交渉してきた経験から、国会議員や中央省庁の職員と協同してきた実情を含めながら、日本の政治の現状を解説する。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	現代日本政治を理解する基礎を身につける。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	政治に深い関心をもち、主体的に学習できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代日本政治に関する基礎的な枠組みや用語を理解した上で、主体的に学習し、自らの考えを適切に他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
現代日本政治を理解する上での基礎的な枠組みや用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		各回講義 時の意見 や考察	学期内レ ポート課 題	期末レポ ート				合計
総合評価割合		45	20	35				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	権力とは何か (講義の概要)	講義	配付資料を読む。
2	二つの政治体制—中央政府と 地方政府	講義	テキスト第4章を読む。
3	自治体とは?—日米「自治体」 の比較	講義	テキスト第4章、資料Bを読む。
4	保守とリベラル: 護憲を唱え るのは保守?	講義	配付資料を読む。
5	右派と左派: 富の配分をめぐる 競争と平等	講義 第1回レポート課題	テキスト第6章、配付資料を読む。
6	55年体制と保革対立	講義	テキスト第5章を読む。
7	日米安保と自衛隊	講義	テキスト第9章、配付資料を読む。
8	冷戦と55年体制の崩壊: 多党 化、無党派現象の広がり	講義	テキスト第8章を読む。
9	ジャーナリズムと民主主義	講義	テキスト第2章、配布資料を読む。
10	メディアと世論と政治の関係	講義 第2回レポート課題	配付資料を読む。
11	選挙のしくみ: 選挙管理委員会 出前授業	講義	テキスト第2、8章を読む。
12	国会のしくみ	講義	テキスト第1章、資料Aを読む。

13	政官業の力と関係	講義	テキスト第3章、配布資料を読む。
14	ポピュリズム政治を考える： イタリアの五つ星運動	講義	テキスト第7章を読む。
15	日本の政治家：有権者の選択	講義 期末レポート課題	配布資料を読む。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際関係論		単位	2
科目名（英語）	International Relations		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	吉田 信			
授業概要	本講義の目的は近現代の国際関係を見ることにより、なるべく国際社会への理解を深め、現代の社会人として欠かせない国際的な感覚を養うことに貢献することにある。そのために、まず、国家や国際体系などの基本概念を学び、国際関係論の基礎的な知識を理解してもらう。次に、国際関係の構造と諸課題を概観することにより、今日の世界において特に注目されている民族や平和、人権問題などを考える。なお、必要に応じて注目される国際社会の時事問題を随時分析する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	『国際関係学第2版』滝田賢治，大芝亮，都留康子編 有信堂 2017年 3,200円			
参考図書・教材等	『国際関係学講義第5版』原彬久編 有斐閣 2016年 他，映像資料の視聴も予定している。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカード，メールによる質問受付			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	1、近現代の国際関係史の展開への理解 2、とくに冷戦後の国際情勢の特徴と課題への理解
		(DP2)	大学生と卒業後の社会人として今日の世界を理解するのに欠かせない基本を考える。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
国際社会の成り立ちと変化を理解することにより、急速に進展するグローバルな世界にどう向き合っていくのか自分なりの考えを整理する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
国家から成り立つ国際社会の歴史的背景，国際関係という学問の成立，グローバル化する社会の多様性を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

	国家から成り立つ国際社会の歴史的背景，国際関係という学問の成立，グローバル化する社会の多様性を理解したうえで，国際関係の展望について自分の観点から整理することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	国家から成り立つ国際社会の歴史的背景，国際関係という学問の成立，グローバル化する社会の多様性を十分理解している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	国家から成り立つ国際社会の歴史的背景，国際関係という学問の成立，グローバル化する社会の多様性をある程度理解している。
C：60～69	到達目標を達成している。
	国家から成り立つ国際社会の歴史的背景，国際関係という学問の成立，グローバル化する社会の多様性について基礎的な知識を習得している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	国家から成り立つ国際社会の歴史的背景，国際関係という学問の成立，グローバル化する社会の多様性について理解できていない

理解できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	60					40	100
知識・理解	(DP1)	○				○	
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	国際関係学ガイダンス	講義	テキスト序章
2	近現代国際政治①	講義	テキスト第Ⅰ部
3	近現代国際政治②	講義	テキスト第Ⅰ部
4	国際関係理論①	講義	テキスト第Ⅱ部
5	国際関係理論②	講義	テキスト第Ⅱ部
6	国際関係におけるアクター①	講義	テキスト第Ⅲ部
7	国際関係におけるアクター②	講義	テキスト第Ⅲ部

8	国際関係におけるアクター③	講義	テキスト第Ⅲ部
9	主権国家と安全保障①	講義	テキスト第Ⅳ部
10	主権国家と安全保障②	講義	テキスト第Ⅳ部
11	主権国家と安全保障③	講義	テキスト第Ⅳ部
12	主権国家と安全保障④	講義	テキスト第Ⅳ部
13	地球社会のアジェンダ①	講義	テキスト第Ⅴ部
14	地球社会のアジェンダ②	講義	テキスト第Ⅴ部
15	まとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会思想史		単位	2
科目名（英語）	History of Social Thought		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	朝倉 拓郎			
授業概要	<p>現在、私たちの社会は多くの困難な問題に直面しています。これらの問題を解決し、よりよい社会を作り上げていくためには、私たちが生きている社会の特徴を深く理解する必要があります。このために本講義では、思想と歴史という観点からアプローチします。具体的には、現在の社会の形成に大きな影響を与えた思想家を取り上げ、彼らの著作（いわゆる古典）を通じてその思想を理解していきます。その際に、たんに結論を紹介するのではなく、彼らがどのような問題に直面し、それに対してどのように答えようとしたのかというプロセスに重点を置いて説明します。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	テキストは指定しない。資料を配付する。			
参考図書・教材等	<p>参考文献：村松茂美ほか編『はじめて学ぶ西洋思想—思想家たちとの対話—』（ミネルヴァ書房、2005年）</p> <p>その他の参考文献は、講義の中で適宜紹介する。</p>			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	本講義に関する質問は、授業の前後に受け付ける。また、毎回配布する「コメントカード」でも受け付け、次回の授業でレスポンスする。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	社会について考察し議論する上で、基礎的な概念や語彙を理解する。
		(DP2)	上記の概念や語彙を用いて、現在の社会のあり方について批判的に検討できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会のあり方に関する多様で対立する価値観が存在することを認識した上で、他者の意見を傾聴し、また自らの意見を他者に対して論理的、説得的に展開することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>主要な社会思想家の議論を理解し、それをふまえて現在の社会の特徴や問題点を批判的に検討できる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
歴史的背景や鍵となる概念を理解した上で主要な社会思想家の議論を説明できる。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 主要な社会思想家の議論を説明でき、それをふまえて自らの意見を説得的に展開できる。
A：80～89	履修目標を達成している。 主要な社会思想家の議論を説明でき、それをふまえて現在の社会を批判的に検討できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 歴史的背景や鍵となる概念を理解した上で主要な社会思想家の主張を分かりやすく説明できる。
C：60～69	到達目標を達成している。 歴史的背景や鍵となる概念を理解した上で主要な社会思想家の議論を概ね説明できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 歴史的背景や鍵となる概念を理解しておらず、主要な社会思想家の議論を説明できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	80					20	100
知識・理解	(DP1)	○				○	
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)	○				○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業態度・授業への参加度は、毎回配布する「コメントカード」への記入内容によって評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：受講上の注意、「思想」を学ぶということ	講義	講義で取り上げた古典を読む。
2	古代ギリシャの社会思想（1）：社会思想の誕生	講義	講義で取り上げた古典を読む。
3	古代ギリシャの社会思想（2）：アリストテレスの社会思想	講義	講義で取り上げた古典を読む。
4	中世の社会思想（1）：キリスト教の社会思想	講義	講義で取り上げた古典を読む。
5	中世の社会思想（2）：宗教改革と近代社会思想の誕生	講義	講義で取り上げた古典を読む。
6	ホッブズの社会思想（1）：人間論	講義	講義で取り上げた古典を読む。

7	ホッブズの社会思想(2):社会契約による国家の設立	講義	講義で取り上げた古典を読む。
8	ロックの社会思想(1):所有権に基づく政治社会論	講義	講義で取り上げた古典を読む。
9	ロックの社会思想(2):政教分離と寛容の思想	講義	講義で取り上げた古典を読む。
10	ルソーの社会思想(1):文明社会批判	講義	講義で取り上げた古典を読む。
11	ルソーの社会思想(2):一般意志に基づく社会構想	講義	講義で取り上げた古典を読む。
12	19世紀の社会思想(1):民主化の時代における自由	講義	講義で取り上げた古典を読む。
13	19世紀の社会思想(2):マルクスの社会思想	講義	講義で取り上げた古典を読む。
14	現代の社会思想:ロールズの社会正義論	講義	講義で取り上げた古典を読む。
15	まとめ	講義	講義で取り上げた古典を読む。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	科 学 史	単 位	2
科目名（英語）	Science History	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	菊地原 洋平		
授業概要	現代のわれわれにとって科学技術は生活の一部として欠かせない。しかし同時に、環境破壊や原子力発電など、そうした科学技術による問題が表面化している。そこで、科学技術の基盤を形づくった西洋の歴史を中心にふり返り、科学という営みについて見直したい。授業では、宇宙、物質、人体、生き物、化石、病気、機械、さらには政治、経済、宗教、教育、文芸などを題材に、古い図版や写真などの画像を用いながら、歴史を通じて科学知識や科学技術について多面的に考えていく。（社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目）		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	理系の知識はとくに必要なし。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業前あるいは授業後。コメントカードでの質問も可。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	科学の歴史の基礎的な知識を身につける。
		(DP2)	政治、社会、経済、思想、文化などとの関連性を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	歴史にもとづく広い視野と多様なものの考え方や見方を学ぶ。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 科学知識や科学技術をその時代の歴史的背景とともに考察することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 科学の歴史が社会的な事象の上で成り立っていることを理解できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		85	5	5			5	100
知識・理解	(DP1)	○	○	○			○	
	(DP2)	○	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	はじめに	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
2	革命としての地動説	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
3	解剖劇場	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
4	錬金術から化学へ	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
5	化石の意味	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
6	博物学のススメ	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
7	病原菌と社会	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
8	科学とキリスト教	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
9	技術の躍進	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
10	科学と道具／メディア	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
11	科学とSF（サイエンス・フィクション）	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成

12	「科学者」の誕生	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
13	巨大科学の登場	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
14	捏造の科学史	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
15	「科学」という問題	講義	配布物や板書などをまとめてノートを作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	生物学	単位	2 単位
科目名（英語）	Biology	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1 年次	開講時期	前期
担当教員	芋川浩		
授業概要	生命の基本単位である細胞に関する基本的な知識を学び、さまざまな生命現象や生体反応のしくみを理解することで、社会人・職業人として身につけるべき生物学的な教養を学ぶことを主たる目的とする科目である。また、生命とは何か、生物はどのようにして生まれ、生きているのかを、最新の医学・生命科学の話題もまじえながら、概説する。本講義では、最新の遺伝子工学技術や医療技術などについての理解を深めることも目標に掲げている。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	ライフサイエンス 生命の神秘（芋川浩著、木星舎出版）		
参考図書 ・教材等	細胞の分子生物学 第6版（Newton Press）、 フロンティア生命科学(京都大学大学院生命科学研究科編、講談社)、 e-learning に載せたスライド資料、 その他の配布資料		
実務経験を 生かした授業		授業中 の撮影	×
学習相談 ・助言体制	質問は随時受付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時助言指導する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	生命の基本単位である細胞の構造や機能、多細胞生物の成立過程を理解・説明できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	からだの神秘やその総合的な機能メカニズムについて理解・説明できるとともに、最新のバイオテクノロジーについても知識を深め、応用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	①生命、②細胞、③体細胞分裂、④減数分裂、⑤受精現象、⑥初期発生、⑦形態形成、⑧ホメオボックス遺伝子、⑨昆虫と哺乳類、⑩最先端バイオテクノロジーなどについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で80%以上得点し、小テスト等でも同等の評価を得る)。定期試験や小テストでは、上述した生物や遺伝情報などを具体的に日常生活および自分まわりの生命現象としっかりと結び付けて他者にわかりやすく説明できる。		

①生命、②細胞、③体細胞分裂、④減数分裂、⑤受精現象、⑥初期発生、⑦形態形成、⑧ホメオボックス遺伝子、⑨昆虫と哺乳類、⑩最先端バイオテクノロジーなどについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で60%以上得点し、小テスト等でも同等の評価を得る)。定期試験や小テストでは、上述した生物や遺伝情報などを具体的に日常生活および自分まわりの生命現象としっかりと結び付けて他者に説明できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 定期試験で90%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
A：80～89	履修目標を達成している。 定期試験で80%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 定期試験で70%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
C：60～69	到達目標を達成している。 定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
不可：～59	到達目標を達成できていない。 定期試験で60%以下であり、小テスト、レポートでも未提出等目標に到達できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	15				15	100
知識・理解	(DP1)	50	10				10	70
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	20	5				5	30
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考	小テストやレポートは、授業到達度業状況に応じて実施する。							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介） （芋川 浩）	初回講義であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③教科書や参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズに入れるようにする。 初回の講義内容は、生物学総論として、①生命とは何か、②生物の基本、③生物学の基本、などについて学習する。	事前学習：初回の講義部分に相当する部分の参考書を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめる。（90分） 事後学習：初回の講義部分とそれと関連した質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90分）

2	<p>生命とは (芋川 浩)</p>	<p>地球に誕生した生命について、その生命誕生の歴史やその後の生命の進化について説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①生命の神秘性 ②生命の誕生について ③人類の誕生とその進化についてなど</p>	<p>事前学習：教科書の序章(p.8-10)やそれと関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、生命に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
3	<p>細胞とは① (細胞の構造について解説する) (芋川 浩)</p>	<p>細胞とは何かなどを解説し、細胞内小器官についても説明する。さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①細胞とは何か a.レーウエンフック b.細胞説 ②細胞の大きさ ③細胞内小器官 a.核 b.ミトコンドリア c.小胞体 d.ゴルジ体</p>	<p>事前学習：教科書の第1章(p11~16)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞や細胞の構造に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
4	<p>細胞とは② (細胞の機能を中心に解説する) (芋川 浩)</p>	<p>細胞内小器官および細胞の機能について説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①細胞内小器官 a. 細胞骨格 b. 細胞膜 ②植物細胞 a.細胞壁 b.葉緑体</p>	<p>事前学習：教科書の第1章(p16~22)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞の構造やその機能などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
5	<p>多細胞生物への道① (体細胞分裂などを解説する) (芋川 浩)</p>	<p>多細胞生物はどのようにして誕生したのか？また、細胞分裂とは何かを解説し、配布資料を記入することで理解を深める。</p> <p>①多細胞生物形成と生殖との関係 a. 無性生殖 b. DNA の半保存的複製 ②細胞分裂の過程 a. 間期とは b. 紡錘体と中心体 ③細胞周期 a. サイクリンと cdk b. チェックポイント</p>	<p>事前学習：教科書の第2章(p23~31)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞分裂や細胞周期などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
6	<p>多細胞生物への道② (減数分裂などを解説する) (芋川 浩)</p>	<p>有性生殖はなぜ誕生したのか？また、そのための減数分裂とは何かについて説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①無性生殖と有性生殖 a. 出芽や孢子形成など b. 同形配偶子と異形配偶子 ②減数分裂</p>	<p>事前学習：教科書の第3章(p32~39)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、無性生殖と有性生殖や減数分裂などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決</p>

		<ul style="list-style-type: none"> a. 減数分裂の特徴 b. 二価染色体 ③生殖細胞形成 <ul style="list-style-type: none"> a. 精子形成 b. 卵子形成 c. 生殖原細胞と生殖母細胞 	できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
7	多細胞生物への道③ (生命誕生の神秘などを解説する) (芋川 浩)	<p>生命はなぜ誕生したのか？またどのように進化してきたのか？など生命や生き物に関わる不思議など、これまでの学習内容をさらに詳しく解説する。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生命の誕生 ②進化 ③生命にかかわる疑問など 	<p>事前学習：これまで講義した教科書の第3章までやその部分と関連した部分を再復習し、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、生命の誕生や生物の進化などこれまでの講義内容、その質問や課題を各自で再確認し、整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問し、理解をより深められるようにまとめておく。(90分)</p>
8	多細胞生物への道④ (受精のメカニズムなどを解説する) (芋川 浩)	<p>個体としての一生の始まりである受精とは何か？卵に精子が侵入するだけの単純なものなのか？実は、受精には神秘的なメカニズムが多く存在していることを解説する。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①卵核と精核 ②先体反応 ③多精拒否反応 ④受精波 (白馬の王子現象！) ⑤表層回転 	<p>事前学習：教科書の第4章(p40~47)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、受精における様々なメカニズムなどに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
9	多細胞生物への道⑤ (初期発生のメカニズムなどを解説する) (芋川 浩)	<p>生物のからだ作りの基本である初期発生とそのメカニズムについて解説する。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①前成説と後成説 ②分化とは ③卵割 ④三胚葉 	<p>事前学習：教科書の第5章(p48~51)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、卵割や三胚葉形成などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
10	多細胞生物への道⑥ (形態形成のメカニズムなどを解説する) (芋川 浩)	<p>多細胞生物のからだ作りに重要な中胚葉形成とその分化・誘導メカニズムについて解説する。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①誘導 ②オーガナイザーとは ③中胚葉誘導 ④コンピテンス ⑤生殖細胞の分化 	<p>事前学習：教科書の第5章(p51~56)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、オーガナイザーや中胚葉誘導などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
11	からだの神秘① (ホメオボックスなどについて解説する) (芋川 浩)	<p>生命科学の分野で20世紀最大の発見の一つと言われているホメオボックス遺伝子と関連させて、遺伝子の機能や転写調節因子などについて解説する。</p>	<p>事前学習：教科書の第6章(p57~63)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p>

		<p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>① 個体発生と系統発生 ② 突然変異 ③ 遺伝子とその機能 ④ 恒常性 ⑤ ホメオボックス遺伝子 ⑥ 転写調節因子</p>	<p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、突然変異やホメオボックス遺伝子など転写調節因子や、それら遺伝子機能などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
12	<p>からだの神秘② (ヒトなど哺乳類と昆虫の違いについて解説する) (芋川 浩)</p>	<p>地球上の生命・生物に注目して、地上の生物や生命現象の共通性を眼球形成にかかわる遺伝子に注目しながら関連づけることで総合的に生命現象や生物を理解できるようにする。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>① 単眼と複眼 ② 遺伝病 ③ 眼球形成のマスター遺伝子 ③ 昆虫とヒトの遺伝子の違い</p>	<p>事前学習：教科書の第6章(p63~67)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、各種生物の眼球構造および眼球形成のマスター遺伝子であるPax6 遺伝子などや、それら遺伝子の機能発現に関する講義内容について、その質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
13	<p>生命の総合的メカニズム① (生命体の不思議などを解説する) (芋川 浩)</p>	<p>小さな子供のころには、いろいろな質問や疑問を両親に投げかけていたと思う。バイオテクノロジーの発展により、そのような不思議や疑問の一部が解明されてきた。生命現象に関するその神秘やその一部を解説することにより、生物や生命に対してより深い知識を得ることを目的として解説する。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>① 脊椎動物四肢の骨格構造 ② 親指と小指の違い ③ 四肢の形成のメカニズム ④ 細胞成長因子 ⑤ 前肢と後肢の違い</p>	<p>事前学習：教科書の第7章(p68~75)やその部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、各種生物の四肢構造や四肢形成遺伝子の一つである shh 遺伝子などに加え、それら遺伝子の機能発現に関する講義内容について、その質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
14	<p>生命の総合的メカニズム② (生命科学・医学の最先端トピックスについて解説する) (芋川 浩)</p>	<p>免疫反応、神経活動、がんなど生物の複雑な生命現象についてバイオテクノロジーや最先端医療について解説する。</p> <p>さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>① 生体防御機構(免疫反応) ② 神経活動 ③ がん ④ 最先端医療</p>	<p>事前学習：遺伝子工学などバイオテクノロジーや最先端医療などにかかわる部分についての教科書(第8,10章など)や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、生体防御機構(免疫反応)、神経活動、がんなど生物の複雑な生命現象などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
15	<p>まとめ (芋川 浩)</p>	<p>最後の講義であるため、これまで学習してきた生命現象に関するこれまでの講義と関連する内容を復習整理する。</p> <p>① 生命や細胞の重要ポイントのまとめ</p>	<p>事前学習：これまで学習してきた生命現象にかかわる教科書や参考書、および授業資料を読み、重要ポイントや疑問点を再確認し、まとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、これまで学習してきた生命現象や最先端医療などに関する半年</p>

	②細胞分裂の重要ポイントのまとめ ③受精や胚発生まとめ ④バイオテクノロジーと最先端医療のまとめ	間の講義内容、およびその質問や疑問点を各自で再確認し、しっかりと整理・身につける。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、講義終了後でもオフィスアワーを利用して質問し、解決する。(90分)
備考	講義への参加度なども重視しているため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるため、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学などを学んでいた方がよい。また、遺伝子発現バイオテクノロジーなどの内容もより深く理解するため、後期に開講される遺伝学の受講も強く勧める。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	化学	単位	2単位
科目名（英語）	Chemistry	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年次	開講時期	後期
担当教員	芋川浩		
授業概要	我々は多くの物質を手に取り、食べたり、利用して生活している。本講義では、主に我々のからだ(人体)を構成する生体物質について 化学の視点から理解できるようにすることで、社会人・職業人として身につけるべき教養を学ぶことを主たる目的とする科目である。また、生命体を構成するために必要な物質や、我々の身の周りの物質を理解し、我々の周りには多くの化学が存在し、それを利用・応用していることを理解し考察できるようにする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書 ・教材等	開講時に、系統看護学講座 化学基礎2(第6版)(杉田良樹著、医学書院)など参考文献を複数紹介する。 e-learning に載せたスライド資料、 その他の配布資料		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	×
学習相談 ・助言体制	質問は随時受付ける(教員室訪問・メールなど)。回答方法はその内容等によって教員が随時助言指導する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	有機化学の簡単な概要について理解・説明できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	生体(人体)を構成している物質である、糖質、タンパク質、脂質、核酸に関し、その構造や機能を理解し、応用できる。また、我々の生活に身近な化学についても幅広い知識を習得し、応用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①無機化学と有機化学、②生命の誕生と炭化水素、③酸素、窒素などを含む有機化合物、④カルボン酸と中性脂肪、⑤芳香族化合物、⑥糖質、⑦脂質、⑧美しくなるための化学、⑨アミノ酸とタンパク質、⑩核酸や遺伝情報、⑪バイオテクノロジーなどについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で80%以上得点し、小テスト等でも同等の評価を得る)。定期試験や小テストでは、上述した有機物質などを具体的に日常生活および自分まわりの物質や生体物質としっかりと結び付けて他者にわかりやすく説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	①無機化学と有機化学、②生命の誕生と炭化水素、③酸素、窒素などを含む有機化合物、④カルボン酸と中性脂肪、⑤芳香族化合物、⑥糖質、⑦脂質、⑧美しくなるための化学、⑨アミノ酸とタンパク質、⑩核酸や遺伝情報、⑪バイオテクノロジーなどについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で60%以上得点し、小テスト等でも同等の評価を得る)。定期試験や小テストでは、上述した有機物質などを具体的に日常生活および自分まわりの物質や生体物質としっかりと結び付けて他者に説明できる。
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。 定期試験で90%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
A : 80~89	履修目標を達成している。 定期試験で80%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 定期試験で70%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
C : 60~69	到達目標を達成している。 定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。 定期試験で60%以下であり、小テスト、レポートでも未提出等目標に到達できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15				15	100
知識・理解	(DP1)	50	10			10	70
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20	5			5	30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	小テストやレポートは、授業到達度業状況に応じて実施する。						

IV. 授業計画

回	授業内容(担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介) 化学とは(無機化学と有機化学とは) (芋川 浩)	初回講義であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③教科書や参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズに入れるようにする。	事前学習: 初回の講義部分に相当する部分の参考書を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめる。(90分) 事後学習: 初回の講義部分と無機化学と有機化学と関連した質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次

		初回の講義内容としては、化学総論として、①化学とは、②化学と暮らし、③無機化学と有機化学の違い、④有機化学の基本、などについて学習する。	の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
2	炭化水素とは(生命の誕生と炭化水素について) (芋川 浩)	生命の誕生と有機化学の関係について説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①宇宙での生命の誕生 ②炭化水素 ③飽和結合・不飽和結合 ④官能基 ⑤分子式・示性式・構造式 など	事前学習：参考書の有機化学に関するやそれと関連した文献を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、有機化学や炭化水素に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
3	有機化合物①(メタンからはじまる炭化水素) (芋川 浩)	炭化水素は脂肪族炭化水素と呼ばれる。その構造と性質などを解説・説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①アルカン a.単結合 b.正四面体 ②アルケン ③アルキン	事前学習：炭化水素は脂肪族炭化水素とその構造と性質その部分と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂肪族炭化水素の構造と性質に関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
4	有機化合物②(酸素、窒素などを含む有機化合物1) (芋川 浩)	アルコールを例にとり、炭化水素に酸素や窒素などを含む有機化合物について解説・説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①アルコールとは a.メタンとメタノール b.エタンとエタノール ②アルコールの分類 a.-OHの数による分類 b.-OHに結合している炭素の状態による分類 c.炭素の数による分類 ③アルコールの性質 a.水素結合 b.置換反応 c.酸化反応など	事前学習：アルコールとその構造や性質と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、アルコールとその分類や性質に関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
5	有機化合物③(酸素、窒素などを含む有機化合物2) (芋川 浩)有機化合物③(カルボン酸と中性脂肪) (芋川 浩)	エーテルを例にとり、炭化水素に酸素や窒素などを含む有機化合物について解説・説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①エーテルとは ②エーテルの性質 ③カルボニル化合物 a.アルデヒドとケトン b.フェーリング反応 c.銀鏡反応	事前学習：エーテルとその構造や性質と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、エーテルとその構造や性質などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
6	有機化合物④(カルボン酸と中性脂肪) (芋川 浩)	カルボン酸とは何か、さらに中性脂肪とはどのような物質なのかについて説明し、理解を深める。 さらに、配布資料の空欄等に記入	事前学習：カルボン酸と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)

		<p>することで理解を深める。</p> <p>①カルボン酸 a.ギ酸・酢酸 b.カルボン酸の性質</p> <p>②アルコールとアルデヒドとカルボン酸の関係</p> <p>③脂肪酸とは</p> <p>④エステルとは a.低級脂肪酸エステル b.高級脂肪酸エステル c.ニトログリセリン d.トリアシルグリセロール</p> <p>⑤油と脂肪の違い</p> <p>⑥医療と脂肪酸</p>	<p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、カルボン酸、脂肪酸、エステルなどに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
7	<p>有機化合物⑤ (脂肪酸の誘導体①) (芋川 浩)</p>	<p>脂肪酸の誘導体であるヒドロキシ酸やケト酸について説明し、理解を深める。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①ヒドロキシ酸 a.乳酸 b.鏡像異性体</p> <p>②ケト酸 a.ピルビン酸 b.ケトン体</p> <p>③アミドやアミノ酸</p>	<p>事前学習：脂肪酸の誘導体であるヒドロキシ酸やケト酸と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂肪酸の誘導体である乳酸やピルビン酸、ケトン体などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
8	<p>有機化合物⑥ (洗剤・石鹼) (芋川 浩)</p>	<p>脂肪酸の誘導体として洗剤や石鹼について説明し、理解を深める。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①石鹼 a.けん化 b.塩析</p> <p>②石鹼の構造と性質 a.界面活性剤 b.中性洗剤 c.生体の界面活性剤</p> <p>③多カルボン酸 a.シュウ酸 b.クエン酸</p>	<p>事前学習：脂肪酸の誘導体としての石鹼や洗剤と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂肪酸の誘導体としての石鹼や洗剤、多カルボン酸などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
9	<p>有機化合物⑦ (芳香族化合物など) (芋川 浩)</p>	<p>炭化水素の中でもう一つの大きなグループに構成している芳香族炭化水素の構造と性質などを解説・説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。</p> <p>①ベンゼン環 a.トルエン</p> <p>②ベンゼンの性質 a.置換反応 b.ハロゲン化、ニトロ化、スルホン化</p> <p>③フェノール類</p> <p>④芳香族側鎖誘導体 a.芳香族カルボン酸 b.サリチル酸</p>	<p>事前学習：芳香族炭化水素と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、芳香族炭化水素の構造と性質、フェノールやサリチル酸などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>

		c.芳香族多環化合物	
10	化学と生物（美しくなるための化学） (芋川 浩)	「日本海側には1県飛びに美人の産地がある」という。これまでの学んできた講義内容をもとに、化学と生物学の総合的な観点から美しいとは何かを考えてみる。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①日本海側には1県飛びに美人の産地があるのか？ ②美しくなるための条件とは ③皮脂膜とは？ ④皮脂腺から分泌される物質 ⑤皮膚の老化 ⑥美しくあり続けるためには!?	事前学習：美しいとはどういうことを考え、化粧品を含めそれと関連した化合物を調べ、重要物質や重要点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、皮脂膜や皮脂腺から分泌される物質などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
11	生体の化合物①（糖質） (芋川 浩)	生命活動に必要なエネルギーを得るために重要な物質である糖質について、その構造と性質などを解説・説明する。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①単糖類 a.グルコース b.フルクトース c.ガラクトース ②五炭糖と六炭糖 ③二糖類 a.スクロース b.マルトース c.ラクトース d.セロビオース ④多糖類 a.デンプン b.セルロース ⑤糖類の分解とその酵素	事前学習：生命活動に必要なエネルギーを得るために重要な物質である糖質と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、生命活動に必要なエネルギーを得るために重要な物質である糖質と、その種類や構造などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
12	生体の化合物②（脂質） (芋川 浩)	脂質を中心として、脂肪酸、リン脂質、コレステロールなどを理解・説明できるようにする。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①単純脂質とは ②複合脂質とは ③脂肪酸 ④リン脂質 a.グリセリン脂質 b.スフィンゴリン脂質 ⑤コレステロールの重要性 ⑥リポタンパク質	事前学習：脂質と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、単純脂質や複合脂質に加え、リン脂質・コレステロールなどに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
13	生体の化合物③（アミノ酸とタンパク質） (芋川 浩)	アミノ酸やタンパク質とは何かを理解・説明できるようにする。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①メタンとアミノ酸の関係	事前学習：アミノ酸やタンパク質と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、アミノ酸やタンパク質の

		②アミノ酸の構造 ③必須アミノ酸 ④アミノ酸の性質 a.両性化合物 b.両性イオン c.等電点 ⑤タンパク質 a.ペプチド結合 b.タンパク質の構造 c.熱変性 ⑥アミノ酸の誘導体	構造や性質に関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
14	生体の化合物⑤ (核酸や遺伝情報などに関連したバイオテクノロジー) (芋川 浩)	核酸とは何かを理解できるようにする。 さらに、配布資料の空欄等に記入することで理解を深める。 ①DNA と RNA ②二重らせん構造 ③ヌクレオシドとヌクレオチド ④塩基対とは ⑤ATP とは ⑥バイオテクノロジー	事前学習：核酸と関連した参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、核酸やヌクレオチドの構造や役割、バイオテクノロジーに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
15	まとめ (芋川 浩)	最後の講義であるため、これまで学習してきた化学物質に関するこれまでの講義と関連する内容を復習整理する。 ①炭化水素と生命の関連ポイントのまとめ ②モノカルボン酸の重要ポイントのまとめ ③生体に関わる各物質のまとめ ④バイオテクノロジーと最先端医療のまとめ	事前学習：これまで学習してきた化学物質にかかわる参考書、および授業資料を読み、重要ポイントや疑問点を再確認し、まとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、これまで学習してきた様々な化学物質などに関する半年間の講義内容、およびその質問や疑問点を各自で再確認し、しっかりと整理・身につける。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、講義終了後でもオフィスアワーを利用して質問し、解決する。(90分)
備考	講義への参加度なども重視しているため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるため、携帯電話等を持っていること。高等学校で化学などを学んでいた方がよい。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	物 理 学		単位	2
科目名（英語）	Physics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	大坪 慎一			
授業概要	物理学は「物の運動」を探求する側面と、「物は何でできているか」を明らかにする側面の2つの方向で、自然を数学的に捉えて客観的な法則化を行い、原理的理解を目指すという方法論を確立しながら発展してきた。この授業では、現代的な世界観の基盤を理解する教養科目として、17世紀後半から現在まで進展してきた物理学の基礎的事項と考え方を概観する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	随時、授業資料を配布する。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後に受付、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	物理学を背景とする現代的な世界観を基に、豊かな人間性や幅広い視野を修得する。
		(DP2)	生命科学を理解する基礎である物理学の基本的知識を修得する。
	思考・判断・表現	(DP3)	自然科学・技術の根幹をなす物理的な自然認識の考え方を修得する。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	身の回りの現象や物の仕組み・動作に関心を持つようになる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
身の回りの現象や物の仕組み・動作などを科学、特に物理学の原理や法則を修得する。ただし、定量的な理解をすることは数学の知識が必要であるから、主に定性的な理解を目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
物理学の基礎的事項と考え方を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
身の回りの現象や物の仕組み・動作などを物理学の原理や法則で論理的に説明できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
物理学の原理や法則を理解できている。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 物理学の基礎的事項と考え方を十分に修得できている。
C：60～69	到達目標を達成している。 物理学の基礎的事項と考え方を理解できている。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 物理学の基礎的事項と考え方を理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	演習	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50	10	20	10		10	100
知識・理解	(DP1)	○	○	○	○		○	
	(DP2)	○	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○		○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	単位と物質の階層構造：基本単位と組立単位、物質の成り立ち	講義と演習	配布資料等の学習
2	力と運動：ニュートンの運動の法則	講義と演習	配布資料等の学習
3	エネルギー：仕事、力学的エネルギー	講義と演習	配布資料等の学習
4	剛体の運動：剛体の回転、力のモーメント	講義と演習	配布資料等の学習
5	弾性体と流体：弾性と塑性、ひずみと応力、流体	講義と演習	配布資料等の学習
6	温度と熱量：温度とは何か、熱力学第1法則	講義と演習	配布資料等の学習
7	エントロピー：熱機関の効率。エントロピー増大の法則	講義と演習	配布資料等の学習
8	波動現象Ⅰ：重ね合わせの原理、反射、屈折、回折、干渉	講義と演習	配布資料等の学習
9	波動現象Ⅱ：共鳴、ドップラー効果、散乱	講義と演習	配布資料等の学習
10	電磁気学Ⅰ：電場と磁場、電流と電気抵抗	講義と演習	配布資料等の学習

11	電磁学気 II：電流の作る磁場、電磁誘導、電磁波	講義と演習	配布資料等の学習
12	量子の世界：光の粒子性、電子の波動性,放射線	講義と演習	配布資料等の学習
13	レーザーと核磁気共鳴：レーザーの原理、NMRの原理	講義と演習	配布資料等の学習
14	宇宙の進化：原子核の性質、核分裂と核融合、星の進化	講義と演習	配布資料等の学習
15	まとめ	講義と演習	配布資料等の学習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	統計学		単位	2
科目名（英語）	Statistics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士、認定心理士	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	統計学の基本的事項を理解することを目的に、統計学の考え方、記述統計学や推測統計学の基礎を学ぶ。また統計学が現実社会や研究にどのように活用されているのかについても解説する。（専門的教育の基礎を主たる目的とする科目）			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	必ず電卓を用意すること（初回に指示する）。高校で学習した統計に関する知識と重なる部分があるのでよく復習しておくこと。			
テキスト	講義資料（レジュメ）を配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：栗原伸一・丸山敦史『統計学図鑑』オーム社、2017。 廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか授業内で適宜指示する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。リアクション・ペーパーを配布するので質問は記入すること。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	データの要約や解釈を行うための統計学の基本的な知識を身につけている。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	統計学の基本的な知識に基づいて論理的に思考・判断することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
統計学の基礎的な知識と技能について、正確に理解したうえで、論理的に思考・判断することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
統計学の基礎的な知識と技能について、基本的な理解ができている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業態度・ 授業への参 加度・授業 内課題					合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP 1)	○	○					
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)	○	○					
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
2	統計について学ぶための基礎知識	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
3	統計の種類と具体例	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
4	度数分布、代表値と散布度①	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
5	代表値と散布度②、標準化	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
6	正規分布、図表の種類と効果的な表現方法	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
7	相関係数	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
8	回帰分析 確認小テスト①	講義、確認小テスト①ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。第1~8回までの復習。
9	クロス集計①	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
10	クロス集計②	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
11	記述統計学と推測統計学	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
12	統計的推定	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
13	統計的検定	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。
14	確認小テスト②	講義、確認小テスト②ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。第9~14回までの復習。

15	まとめ	講義ほか	授業で指示する授業資料の予習と復習。授業全体の復習。
備考	授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくる。積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報科学			単位	2
科目名（英語）	Information Science			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	石崎 龍二				
授業概要	<p>本講義では、高度情報化社会を支える情報機器や情報通信技術の仕組み等について学ぶ。情報機器や情報通信技術が発展する一方で、不正アクセス、コンピュータウイルスなどのサイバー犯罪が社会問題になってきた。こうした様々な脅威に対する情報セキュリティ対策について学ぶ。</p> <p>本科目は本学専門教育の基礎となる知識の修得を主たる目的とする。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	独自テキストを配付する。				
参考図書・教材等	①駒谷昇一編著、『情報と社会』、オーム社、2004年、(2,625円) ②ICT基礎教育研究会著、『ネットワーク社会における情報の活用と技術』、実況出版、2003年、(2,100円)				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	コンピュータやコンピュータネットワークの基本的な仕組みを理解している。 情報のデジタル表現について理解している。 情報セキュリティ対策の基礎について理解している。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	情報化社会の諸問題に対し、情報科学の知識に基づいて論理的に考察できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
		(DP7)	
		(DP8)	
	技能	(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
情報のデジタル表現、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的な仕組み、情報セキュリティ対策の基礎を理解しており、情報化社会の諸問題に対し、情報科学の知識に基づいて論理的に考察できる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
情報のデジタル表現、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的な仕組み、サイバー犯罪及び情報セキュリティ対策の基礎を理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50		20			30	100
知識・理解	(DP1)	◎	○			○	
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	◎	○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	コンピュータの歴史-ENIAC から PC の出現まで	講義	コンピュータの歴史について整理
2	コンピュータの基本構成	講義	コンピュータの 5 大装置について整理
3	情報のデジタル表現①-アナログとデジタル、2 進数、16 進数	講義	2 進数、16 進数、進数変換の方法について整理
4	情報のデジタル表現②-数字、文字のデジタル化	講義	JIS コードと ASCII コードの違いを整理
5	情報のデジタル表現③-音、画像のデジタル化	講義	普段扱っている文書ファイルの情報量と音声や画像データの情報量とを比較する。
6	デジタル情報の圧縮技術	講義	可逆圧縮と非可逆圧縮の仕組みについて整理
7	コンピュータネットワークの歴史-ARPANET から Internet までの発展	講義	集中処理方式と分散処理方式の違いを整理
8	情報通信ネットワークのしくみ①-パケット通信、通信プロトコル、IP アドレス	講義	パケット交換方式や通信プロトコルの特徴を整理

9	情報通信ネットワークのしくみ②－DNS、WWW、電子メールのしくみ	講義	TCP/IP プロトコルのアプリケーション層の働きについて整理
10	情報セキュリティ対策①－物理的脅威	講義	インターネットで、サイバー犯罪の統計情報を確認、暗号化方式について整理
11	情報セキュリティ対策②－技術的脅威	講義・レポート課題提示	コンピュータウイルス対策ソフトとファイアウォールの働きを整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
12	情報セキュリティ対策③－人的脅威	講義	ソーシャルエンジニアリングとその対策について整理
13	情報社会と法律	講義	個人情報、プライバシー権、肖像権、知的財産権等について整理
14	情報社会とメディア	講義	マスメディアとインターネットの特性について整理
15	まとめ	講義	本講義の履修目標に達していない部分について復習し、定期試験に備える。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	環境科学		単位	2
科目名（英語）	Environmental Science		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	久永 明			
授業概要	人間を取り巻く自然・社会環境とそれから発生する複雑な環境問題について、環境成立の過程、公害、その他の環境問題や健康影響を概括する中で、事象の正確な把握に努める。さらに、資源・エネルギー問題、都市環境問題について、バランスの取れたものの見方、環境保全に向けての施策等を理解する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	プリント等を使用する。			
参考図書・教材等	山口勝三、他『環境の科学－われらの地球、未来の地球－』培風館、2008年（1980E）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問・相談は基本的に授業時間前後に受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	高度福祉社会に貢献するための教養として、自然科学・学際的な専門知識を幅広く身につけている。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	人を取り巻く環境課題を中心に深く興味と関心をもち、主体的に環境や健康にやさしいライフスタイルをとることができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
地域から地球規模まで広がった環境問題及びそれらの根底にあるエネルギー、水、食料、都市生活について、最新の情報を含めて正確に理解した上で、自らの考えをバランスよくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
地域から地球規模まで広がった環境問題及びそれらの根底にあるエネルギー、水、食料、都市生活について、最新の情報を含めて正しく内容の理解ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

A：80～89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		60		20			20	100
知識・理解	(DP1)	○		○			○	
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○		○			○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)	
1	環境問題とは	講義/ 環境課題を学ぶ「意義」と「地球環境(大気)の成立」について解説する。	各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。	
2	地球の誕生と歴史			
3	公害概論(1)公害の歴史とグローバル化	講義/ 配付資料とビデオにより、我が「公害先進国」の「公害」全般について学習する。	課題レポート(1)を提示する。	
4	公害概論(2) 環境基準からみた環境問題			
5	地球の自然と人間活動	講義/ 配布資料、パワーポイント、ビデオなどを用い、地域から地球規模の「環境問題」各論について解説していく。	各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。	
6	大気汚染と汚染物質			
7	酸性雨			
8	水質汚濁と汚染物質			
9	地球の温暖化			
10	有機塩素系化合物による汚染			課題レポート(2)を提示する。
11	オゾン層の破壊			各回の授業内容について、参考書など

12	資源と環境(1)エネルギー資源	講義/ 環境問題の根底に横たわる「資源と環境」「都市環境」との関わりについて、一緒に考えていく。	で予習・復習しておく。
13	資源と環境(2)水資源、食料資源		試験用課題を提示する。
14	都市の環境保全－ヒートアイランド－		予習・復習と共に、試験用課題に早めに取り組む。
15	まとめ	講義/ 1～14の復習を兼ね、まとめと意見交換をする。	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	数学概論			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Mathematics			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	石崎 龍二				
授業概要	本講義では、自然現象や社会現象を数学的に記述・分析するための基礎的な数学を学ぶ。 具体的には、問題に対して帰納的、類推的、演繹的、体系的、抽象的に考える力を養うための「集合・論理」、関数で表現されたデータの変化率を求める「微分」、変化の累積を求める「積分」、多変数を扱う基礎となる「線形代数」などを学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	独自テキストを配付する。				
参考図書・教材等	開講時に紹介する。				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する基本的概念を理解している。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	基本的な集合演算ができる。 初等関数の微分・積分ができる。 行列の基本演算ができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する基本的概念を理解し、基本的な集合演算、初等関数の微分・積分、行列の基本演算ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する基本的概念を理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			
A：80～89 履修目標を達成している			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50		20			30	100
知識・理解	(DP 1)	◎		○			○	
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)	◎		○			○	
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	数の基礎-自然数、整数、有理数、実数、複素数	講義	自然数、整数、有理数、実数、複素数の違いについて整理する。
2	集合と集合の演算	講義	集合の定義と演算について整理する。
3	命題と論理	講義	命題と論理について整理する。
4	関数-集合と写像、1次関数、2次関数	講義	1次関数と2次関数について整理する。
5	関数-指数関数、対数関数、三角関数	講義	指数関数、対数関数、三角関数について整理する。
6	微分-関数の極限	講義	関数の極限について整理する。
7	微分-微分係数	講義・レポート課題提示	微分係数について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	微分-導関数	講義	導関数について整理する。
9	積分-不定積分	講義	不定積分について整理する。
10	積分-置換積分、部分積分	講義	置換積分、部分積分について整理する。
11	積分-定積分	講義	定積分について整理する。
12	線形代数-ベクトル、行列	講義	ベクトル、行列について整理する。
13	線形代数-行列式	講義・レポート課題提示	行列式について整理し、講義終了時に提示

			するレポート課題に取り組む。
14	線形代数－行列式の展開と逆行列	講義	行列式の展開と逆行列について整理する。
15	まとめ	講義	本講義の履修目標に達していない部分について復習し、定期試験に備える。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	人 権 論		単位	2
科目名（英語）	Human Rights Theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期集中	
担当教員	松下 一世			
授業概要	本授業では、部落問題をはじめとして、現代社会におけるさまざまな人権問題について概説する。その際に、理論的な側面の学びだけでなく、人権感覚を高めるために、映像教材を鑑賞したり、ディスカッションやロールプレイの手法を用いる。人権が尊重される社会に向けて、思考力と行動力を高めるための学びとしたい。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト				
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業	小学校教員の体験を生かす。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業が終わった時点での質問に応じる。また授業の最後に感想や質問も書いてもらい、全体指導に生かす。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	人権に関する主な条約や法令の基礎的知識を知る。
		(DP2)	様々な人権問題について知り、課題や解決の方向性を考える。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
人権に関する知識をもとに、現代社会における様々な人権問題について考え、その解決に向けて探求する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
人権に関する基礎的知識をもとに、人権問題の課題や解決の方向性を考える。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		90				10	100
知識・理解	(DP1)	○					
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人権とは	講義	講義内容をノートに整理しておくこと。
2	世界人権宣言	講義	DVDの概要と感想を整理しておくこと。
3	人権に関する国際条約	講義	講義内容をノートに整理しておくこと。
4	女性の権利	講義	DVDの概要と感想をまとめておくこと。
5	ハラスメントとデートDV	講義	講義内容をノートに整理しておくこと。
6	セクシュアルマイノリティ	講義	DVDの概要と感想をまとめておくこと。
7	部落問題とは	講義	講義内容をノートに整理しておくこと。
8	水平社宣言の意義	講義	DVDの概要と感想をまとめておくこと。
9	公平な採用	講義	資料をノートに整理しておくこと。
10	現代の部落差別	講義	DVDの概要と感想をまとめておくこと。
11	在日外国人問題とは	講義	DVDの概要と感想をまとめておくこと。
12	ヘイトスピーチの問題	講義	講義内容をノートに整理しておくこと。

13	障害者問題とは	講義	資料をノートに整理しておくこと。
14	平等と差別	講義	講義内容をノートに整理しておくこと。
15	小テストとレポート	講義	これまでの授業の概要と感想をまとめておくこと。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	ジェンダー論（女性学）		単位	2
科目名（英語）	Gender Studies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	入社3年 看護4年	開講時期	前期	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	現代社会をジェンダーの観点から読み解くための基本的な知識を学ぶ。女性学、男性学などのジェンダー研究、またジェンダーの社会学などの知見を中心に取り上げる。知識にくわえて、現代社会や個人の生活をとりにくく諸問題をジェンダーの観点から捉え直す視点を得ることを目標とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	ワークショップなどを行う場合があります。その際の議論には正解はないので、積極的に参加してください。			
テキスト	伊藤公雄ほか『女性学・男性学（第3版）—ジェンダー論入門』有斐閣、2019年、2000円			
参考図書・教材等	参考文献：千田有紀ほか『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013。加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017。加藤秀一ほか『ジェンダー』ナツメ社、2005ほか多数、授業内で紹介するので参考にすること。			
実務経験を生かした授業	高等教育機関の男女共同参画推進室のコーディネーターとして、男女共同参画とワーク・ライフ・バランス支援を行なった経験を持つ教員が、現代日本のジェンダーを取り巻く現状や課題について解説する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問はレスポンスカード等で授業内に、また授業前後に受け付ける。また、受講生の状況に応じて講義内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	ジェンダーに関する基本的な知識を身につけている。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	現代社会の諸問題に関してジェンダーの観点から論理的に思考・判断することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ジェンダーに関する基本的な知識について、正確に理解したうえで、自身の考えをわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ジェンダーに関する基本知識について、基本的な理解ができている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業内課題・授業への参加度	宿題・授業内レポート					合計
総合評価割合		60	40					100
知識・理解	(DP1)	○	○					
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	ガイダンス、ジェンダーとは	講義・授業内課題	テキストの予習
2	社会化とジェンダー	講義・授業内課題	1章・2章ほか
3	性の多様性	講義・授業内課題	1章・2章ほか
4	教育とジェンダー	講義・授業内課題	3章ほか
5	恋愛とジェンダー	講義・授業内課題	4章ほか
6	ブレイク: 国家と結婚 (他国の例)	講義・授業内課題	これまでの復習
7	労働とジェンダー① 男女格差、性別職域分離ほか	講義・授業内課題	5章ほか
8	労働とジェンダー② ハラスメント、WLB ほか	講義・授業内課題	5章ほか
9	家族とジェンダー① 性別役割分業、再生産労働ほか	講義・授業内課題	6章・7章ほか
10	家族とジェンダー② 家族の多様化ほか	講義・授業内課題	6章・7章ほか
11	家族とジェンダー③ 育児と社会化ほか	講義・授業内課題	6章・7章ほか
12	国際化とジェンダー	講義・授業内課題	8章ほか
13	政治とジェンダー	講義・授業内課題	9章ほか
14	政策とジェンダー・授業内レポート	講義・授業内レポート	9章ほか

15	政策とジェンダー・まとめ	講義・授業内課題	全体の復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																				
その他（ ）																				
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	現代社会と嗜癖		単位	2
科目名（英語）	Modern Society and Addiction		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	四戸智昭			
授業概要	嗜癖（アディクション）はあらゆる人間に見受けられるものである。多くの場合は「癖」などと呼ばれ、その人らしさを醸し出すものであるが、癖がその人の社会生活に多大な影響を与えてしまう場合もある。なぜその人が嗜癖行動を取らなければならないのかについて、家族関係や我々を取り巻く現代社会にも目を向け、嗜癖行動と社会システムについて考察を深めることが本講義の目的である。なお、本科目は実社会で役に立つ教養科目として位置付けられている。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	特になし			
参考図書・教材等	参考文献：授業時に紹介する。授業資料は、e-learning システムから配信するので、毎回各自ダウンロードして講義に参加すること。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	毎回の授業の最後に講義に関するコメント（意見や質問等）を書いてもらう。次回の授業時の最初に、それらの質問に回答する。なお、この学生との Q&A も講義内容となるので、ノートをとること。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	嗜癖に関する基礎的な知識を得る
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	現代の嗜癖問題やその根底にある社会の諸問題について興味関心を持つことができる
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
嗜癖に関する基礎的だけでなく、その周辺情報についても知識を得ていること。また嗜癖問題の根底にある社会の諸問題について、興味関心を持ち主体的な学習ができること。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
嗜癖及びその根底にある社会の諸問題に関する基礎的な知識を得ていること。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
嗜癖に関する基礎的だけでなく、その周辺情報についても知識を得ていること。また嗜癖問題の根底にある社会の諸問題について、興味関心を持ち主体的な学習ができること。			
A：80～89	履修目標を達成している。		

嗜癖及びその根底にある社会の諸問題に関する基礎的、発展的な知識を得ていること。また興味関心を十分に持っていること。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
嗜癖及びその根底にある社会の諸問題に関する基礎的な知識を得ていること。また興味関心を持っていること。
C：60～69 到達目標を達成している。
嗜癖及びその根底にある社会の諸問題に関する基礎的な知識を得ていること。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
嗜癖及びその根底にある社会の諸問題に関する基礎的な知識の獲得ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	40				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30		20			50
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	10	20	20			50
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	各講義は、大きく「授業に対する Q&A の部分」、「単元学習」、「単元学習に対するコメントを記述する」の3つの部分から構成される。授業内レポートは、Q&A やコメントによって評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期2 コマ連続)
1	オリエンテーション	講義 授業の進め方、成績評価方法について説明する	次回までに宿題に取り組む。ノート作成の準備をする。
2	嗜癖とは何か 1	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
3	嗜癖とは何か 2	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
4	嗜癖と環境適応について	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
5	人はなぜ嗜癖するのか 1	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコ	事前学習 宿題に取り組む 事後学習

		メントの記入	単元学習についてのノートをまとめる
6	人はなぜ嗜癖するのか2	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
7	嗜癖する人々の声	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
8	嗜癖と機能不全家族について	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
9	嗜癖と心理的防衛について	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
10	嗜癖とアダルトチルドレンについて	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
11	嗜癖と診断基準について	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
12	嗜癖と共依存について1	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
13	嗜癖と共依存について2	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
14	嗜癖と自助グループについて	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
15	嗜癖と面前 DV について・まとめ	Q&A 単元についての講義 単元を学習したことに対するコメントの記入	事前学習 宿題に取り組む 事後学習 単元学習についてのノートをまとめる
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習							○										
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	性教育学		単位	2単位	
科目名（英語）	Sex Education		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	3年次	開講時期	前期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	人間はこの性というシステムの流れの中で、どのように生きているか、そしてその性をどのように子どもたちに教えるのか、そのスタンスはどのようなものが望ましいのか、そのあたりの題材に受講した学生と「考える」というプロセスの中で取り組んでいく。(社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目)				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修該当学年以上の履修を認める。				
テキスト	『性教育学』朝倉書店				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	性犯罪被害者の支援に携わられてある方を特別講師として招聘し、性犯罪被害者の実際とその支援について学習する。また、LGBTの当事者を特別講師として招聘し、性的マイノリティに関する知識と支援の実際について学習する。			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	課題シートで受付、返却時にコメントを追加して回答する。また、メールによる相談も可。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	Science（近代学問）の視点から、性をとらえることのその道筋について述べることができる。
		(DP2)	最先端の知識を習得し、自分なりに性について考え述べるができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	性について自然科学、社会科学の観点からその存在意義について自分なりに考えを深め、記述することができる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
性について自然科学における最先端の考え方と、社会科学における現代的課題について理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他 (事前・事後課題)	合計
総合評価割合		90					10	100
知識・理解	(DP1)	45					5	50
	(DP2)	45					5	50
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	性を知る (性とは何か) ・生の存在意義 ・オスとメス ・性戦略と生活史 (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえていく。(講義形式)	[事前学習] テキストII-4を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
2	性を知る (性差・性別) ・ジェンダー ・一次性徴・二次性徴 ・性指向 ・性同一性障害 ・性ホルモン・性腺以上 ・性別(性的発達)のレベル (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] テキストII-5を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
3	性をふりかえる(性の民族/性と文学) ・村社会の性 ・性の伝承 ・お祭り性と性 ・性の民族と変遷 ・海外からみた日本の民族 ・男女交際 ・同性愛 (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] テキストI-8を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
4	性をふりかえる(性教育の歴史) ・「性」の語意と「性教育」の登場 ・性教育の制度史 ・自慰・性感染症 ・男女交際 (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] テキストI-1を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
5	性を知る(男性の身体・女性の身体) ・男性外性器の解剖と生理	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事前学習] テキストII-6~7を読みキーワードを5つあげておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・勃起・射精のメカニズム ・生殖機能に影響を与えるもの ・快楽 ・女性生殖器の解剖整理 ・月経周期 ・ボディイメージ ・生殖機能に影響を与えるもの (梶原) 		<p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
6	<p>性を知る (妊娠・出産と避妊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の機序 ・出産の仕組み ・若年・高年出産 ・避妊法とその効果 ・人工妊娠中絶 (梶原) 	<p>スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストII-8を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
7	<p>性を知る (STD/STI)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症 ・性感染症各論 ・女性の性感染症 ・予防法 ・性行動・性感染 (松浦) 	<p>教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストII-9を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
8	<p>性を支える (障害者の性について考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児・障害者の性 ・受診行動 ・助けを求める行動の支援 (原田) 	<p>スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストV-16を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
9	<p>性を共有する (性と人間関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係と発達 ・家庭における性の扱い ・メディアと出会い (松浦) 	<p>教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストIV-13を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
10	<p>デートDV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デートレイプ (松浦・原田・梶原) 	<p>スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義・演習形式) グループワーク</p>	<p>[事前学習] テキストV-15-2, 15-3を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
11	<p>性を表現する (性行動と身体/性行動と環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感・思いやり ・性行動とペア・ボンド ・性衝動・攻撃性・性的魅力 ・性行動を早める・遅くする環境 ・レジリエンス ・感覚と行動 (松浦) 	<p>教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストIII-10~11を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
12	<p>LGBTについて学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性に関する国際的動向 ・パラフィリア (松浦・原田・梶原) 	<p>スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストVI-18, III-12を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
13	<p>性を支える (性犯罪・性被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪とは何か ・性被害のあいやすさ ・性的虐待・DV・デートレイプ ・対策 (松浦) 	<p>教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストV-15を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
14	<p>性を支える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪被害とたたかうということ 	<p>スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)</p>	<p>[事前学習] テキストV-15を読みキーワードを5つあげておく。</p>

	(松浦・原田・梶原)		[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
15	性を支える (性と社会) ・性と道德 ・現代社会と婚姻 ・性の商品化 (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] テキストⅣ-14を読みキーワードを5つあげておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク													○					
その他 ()																		
内容				グループワークやロールプレイングを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	ケアリング・サイエンス		単位	2 単位
科目名（英語）	Caring Science		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	人社 3 年 看護 4 年	開講時期	後期	
担当教員	石田智恵美・清水夏子・清原智佳子			
授業概要				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	本講義では、教育・福祉・看護で用いられる「ケアリング」・「ケア」についていくつかの考え方を紹介し、「ケアリング」が成立する中でどのようなことが起きているのかを探求する。また、「ケアリング」に携わるものに求められる事柄について考察する。			
テキスト	テキスト：ネル・ノディングス著 ケアリング 晃洋書房 1997			
参考図書・教材等	参考書：ミルトン・メイヤロフ著 ケアの本質 ゆみる出版 2000 その他、適宜配布する			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	e-mail でアポイントを取ってください。石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	ケアリング、ケアの考え方について理解できる。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	講義で学んだ事柄と、自らが受けてきたケアリングとを結びつけ、意味づけすることができる。
		(DP 4)	ケアリング、ケアについて自己の考えを述べるすることができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ケアリングが成立する中で起きている現象について理解し、ケアリングに携わるものに求められる事柄を考察することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ケアリングが成立する中で起きている現象を理解し、具体例と結び付けて考察することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
ケアリングが成立する中で起きている現象を理解し、ケアリングに携わるものに求められる事柄を説明できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
ケアリングが成立する中で起きている現象を理解し、その要素について考察し、具体例を挙げて説明することができる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

ケアリングが成立する中で起きている現象を理解し、その要素について考察することができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
ケアリングが成立する中で起きている現象を理解し、具体例と結び付けて考察することができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
ケアリングが成立する現象について理解することができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20		20		60	100
知識・理解	(DP1)					10	10
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20				30	50
	(DP4)			20		20	40
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	コースオリエンテーション ケアリングの概念について	スライドと資料を基に、講義形式で進める。 ○自己紹介文を作成する	ケアリングの概念について講義内容を整理する。自己紹介文を完成させ、自らの経験とケアリングに関する問いに回答する。 (DP1)、(DP3)、(DP4) *事後学習：100分
2	ケアリングにおけるコミュニケーション	○自己紹介 ○自己の経験とケアリング 1回目の授業後および授業中の質疑への回答をし、その後それぞれの考えを発表する。	事前学習：自己の考えを整理しておく。 (DP3) 事後学習：他者の意見をまとめ、ケアリングに関する自己の考えを深める。(DP1) *事前学習：80分 事後学習：100分
3	ケアリングの心	○複数のケアリングに関する考え方を、理論家たちの論文などから知る。 2回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。(DP3)、(DP4) 事後学習：ケアリングの考え方の共通点と違いについて整理する(DP1) *事前学習：80分 事後学習：100分
4	メイヤロフ ケアの本質	○ケアの主な8つの要素 知識 リズムを変えること 忍耐 正直	事後学習：講義内容を整理し、ケアの主要素について考察する。(DP1)、(DP3) *事後学習：100分

		3 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	
5	メイヤロフ ケアの本質	○ケアの主な8つの要素 信頼 謙遜 希望 勇気 4 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事後学習：講義内容を整理し、ケアの主要素とその関連性について考察する。(DP1)、(DP3)、(DP4) *事後学習：100分
6	ノディングズ	○序論から ○ケアリングという言葉の議論 ○ケアリングの本質的な性質 ○ケアするとはどういう意味か 5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：ノディングズの考えかたについて考察する (DP1)、(DP4) *事前学習：80分 事後学習：100分
7	ノディングズ	○ケアするひとの分析に生じる諸問題 ○ケアするひと ○ケアリングと行い ○受け容れ 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：ノディングズの考えかたについて考察する (DP1)、(DP4) *事前学習：80分 事後学習：100分
8	ノディングズ	○ケアするひと ○思考と感情 ○罪と勇気 ○ケアリングの非対称性と助け合い ○倫理的な理想と自己 ○規則と葛藤 7 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：ノディングズの考えかたについて考察する (DP1)、(DP4) *事前学習：80分 事後学習：100分
9	ノディングズ	○ケアするひとの態度とその影響 8 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：ノディングズの考えかたについて考察する (DP1)、(DP4) *事前学習：80分 事後学習：100分
10	ノディングズ	○ケアされるひと 助け合い ケアされるひとの倫理 9 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：ノディングズの考えかたについて考察する (DP1)、(DP4) *事前学習：80分 事後学習：100分
11	ノディングズ	○自然なケアリングから倫理的なケアリングへ	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4)

		○責務 ○正しさと誤り 10 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式を進める。	事後学習：ノディングズの考えかたについて考察する (DP1)、(DP4) * 事前学習：80 分 事後学習：100 分
1 2	実践の中のケアリング	11 回目の授業後および授業中への回答を行う。 ○DVD を視聴し、事例 1 に対する個人ワーク、グループワークをする。	事後学習：他者の意見を参考にし、ケアリングに関する自己の考えを深める。(DP1)、(DP3)、(DP4) * 事後学習：100 分
1 3	実践の中のケアリング	12 回目の授業後および授業中の質疑への回答を行う。 ○DVD を視聴し、事例 2 に対する個人ワーク、グループワークをする。	事後学習：他者の意見を参考にし、ケアリングに関する自己の考えを深める。(DP1)(DP3)、(DP4) * 事後学習：100 分
1 4	実践の中のケアリング	13 回目の授業後および授業中の質疑への回答を行う。 ○DVD を視聴し、事例 3 に対する個人ワーク、グループワークをする。	事後学習：他者の意見を参考にし、ケアリングに関する自己の考えを深める。(DP1)(DP3)、(DP4) * 事後学習：100 分
1 5	ケアリング・サイエンス まとめ	14 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、これまでの講義内容を振り返る。	事前学習：これまでの講義内容を振り返り、疑問点などを整理しておく。(DP1)(DP3)、(DP4) * 事前学習 80 分
備考	最終課題：ケアリングの授業で興味を持った事柄について自己の考えを述べる。 10 時間 ○焦点を絞り、テーマをつける ○表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する ○表紙を含まず A4 用紙 2 枚程度 ○提出期限は授業の中で説明する		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○										○	○	○	
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	グローバル社会論		単位	2
科目名（英語）	Global Societies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	小池祐子・佐野麻由子・柴田雅博・中村晋介・陸麗君・金恩愛・芋川浩・スチュアート・ゲイル			
授業概要	「グローバリゼーション」の定義や評価は論者の立場により様々であり、その及ぼす影響も領域により異なる。本講義では、「グローバリゼーション」の基底にある、情報、経済領域の変化を理解した上で、様々な領域や国、専門分野からみたグローバル化現象とその影響を学ぶことを通して、「グローバリゼーション」を多角的に理解する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	授業ごとに資料を配布する。			
参考図書・教材等	参考文献については、授業の中で必要に応じて紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	オフィスアワーまたはメールで受け付け回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	「グローバリゼーション」についての基礎的知識を有している。
		(DP2)	多角的な観点から「グローバリゼーション」を理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
世界でグローバリゼーションがどのような意味を持つか、個人、受講者自身にとってグローバリゼーションがどのような意味を持つかについて、主体的に考え、自分なりの答・結論を見出すことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	レポート・小テスト	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20				100
知識・理解	(DP1)	○	○				
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	コース紹介・言語とグローバル化1 (小池祐子)	講義・グループディスカッション・小テスト Language contact (言語接触)とそれがもたらす言語間の影響および現象	事前学習: グローバリゼーションとは一般的に何を意味するのか、どのような例があるのかを書籍やインターネット等で調べてまとめておく。 事後学習: 授業内容(キートピック、事例等)を復習し理解する。
2	言語とグローバル化2 (小池祐子)	講義・グループディスカッション・小テスト(エッセイ問題) ・言語一般および日本語に見るグローバル化 ・言語・文化におけるグローバル化の意味	事前学習: 日本語・日本文化に見られるグローバル化の影響について調べ考えをまとめておく。 事後学習: 言語においてグローバル化がどのように影響し意味を持つのか、自身の結論を見出す。
3	社会学におけるグローバル化の捉え方 (佐野麻由子)	講義	
4	グローバル経済を超えて (佐野麻由子)	講義・グループディスカッション	
5	グローバル社会を支える基盤技術 (柴田雅博)	講義 ・情報通信の歴史 ・ICT 発展に伴うグローバルビジネスの変化	事前学習: グローバル社会と ICT との関わりについて、独自に下調べをしておき、授業に備える。 事後学習: 講義内容について復習し、分からないキーワード、授業で紹介した

			事例等について、インターネット等で確認しておく。
6	インターネットとグローバル社会（柴田雅博）	講義 ・インターネットを支える情報通信技術 ・グローバル社会における ICT 関連の諸問題	事前学習：近年の多国間あるいは個人間の問題について、特にインターネットや ICT の発達に起因した問題について下調べをしておき、授業に備える。 事後学習：2 回の事前・事後学習での独自調査、および授業内容を踏まえて、レポートを執筆し提出する。
7	グローバル化とナショナリズム：オリンピックを例として（中村晋介）	講義 オリンピックと国家との関係をもとに、ナショナリズムについて講義する。	事前学習：オリンピックの起源について独自に下調べしておく。 事後学習：講義内容について復習し、疑問点があれば、関連する文献や web サイトの記事に目を通す。
8			事前学習：前回の内容を復習する。 事後学習：2 回の講義をもとにしたレポートを作成し提出する。
9	グローバル化背景下の日本地域社会 1（陸麗君）	グローバル化背景下の日本地域社会 ー大阪インナーシティーの新華僑とホスト社会の事例を中心に（1）	事前学習：グローバル社会と日本社会に関するデータや事例などを下調べし、授業に備える。 事後学習：講義内容について復習し、分からないキーワード及び授業で紹介した大阪の事例について確認し、次回に備える。
10	グローバル化背景下の日本地域社会 2（陸麗君）	グローバル化背景下の日本地域社会 ー大阪インナーシティーの新華僑とホスト社会の事例を中心に（2）	事前学習：日本の地域社会における「共生」について調べる。 事後学習：これまで調べた資料、データ及び二回の授業内容を踏まえた上で、レポートを作成し提出する。
11	グローバル社会における異文化コミュニケーション（金恩愛）	講義／グループワーク・グループディスカッション・発表／小テスト	
12	日本人とグローバル社会（芋川浩）	担当教員の初回講義であるため、オリエンテーションとして、①2 回の講義内容の概要、②成績評価方法、③参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、2 回の講義がスムーズに進むようにする。 担当教員初回の講義内容としては、以下の項目について解説・説明する ①長州ファイブ ②グローバル社会における日本人の欠点 ③その欠点の克服方法など	事前学習：初回の講義部分に相当する参考書として、グローバル社会に関する書籍を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめておく。（90 分） 事後学習：初回の講義部分とそれと関連した質問や問題点を各自で整理・確認する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90 分）
13	グローバル社会で成功するための秘訣（芋川浩）	講義内容としては、どのようにしたら日本人はグローバル化に乗り遅れず、世界の先頭を切って走れるようになるのかなどについて以下の項目で解説する。 ①日本を知ることの重要性 ②日本を紹介できる手段・方法 ③斬新なアイディアを出す秘訣 また、講義中に簡単なグループワークを行うことにより、実際に斬新なアイディアを出す斬新なアイディアを出す方法などを体感する。	事前学習：担当教員による第 12 回目の講義部分と関連する書籍やグローバル社会に関する新たな書籍を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめておく。（90 分） 事後学習：担当教員による第 12 回目の講義部分とそれと関連した質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、担当教員のオフィスアワーを利用し、質問できるようにまとめておく。（90 分）

14	An introduction to the United Kingdom, the British people and their culture (スチュアート・ゲイル)	The class will be taught as a lecture with interactive discussion and quiz components. Students will be expected to actively participate at all times and complete all assignments.	Students will be recommended educational materials (books, websites, and documentaries) with which they should interact for 180 minutes.
15	Britain's relationship with the world (スチュアート・ゲイル)	The class will be taught as a lecture with interactive discussion and quiz components. Students will be expected to actively participate at all times and complete all assignments.	Students will be recommended educational materials (books, websites, and documentaries) with which they should interact for 180 minutes.
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○		○							○		○	○	○		
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	入門・数字で見る日本社会		単位	2
科目名（英語）	Japan Overview through Statistics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1	開講時期	後期	
担当教員	森脇敦史・神谷英二			
授業概要	日本社会は、少子高齢化という内的要因と、グローバル化の進展という外的要因により、変化の時代を迎えている。望ましい社会のあり方を主体的に考え、自ら社会的協働に加わるには、日本社会の現状を定量的に理解することが不可欠である。本講義では、日本社会の現状（人口、経済、医療・福祉、財政など）を種々の統計データ等によって明らかにすることで、大学で学ぶ基礎知識として必要となる日本社会の現状理解を目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	資料を配付する。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	講義の後または研究室で応じる。メール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp, kamiya@fukuoka-pu.ac.jp)による相談も受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	日本社会について学ぶ基礎知識を身につけている。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	日本社会を定量的に理解する視点を身につけている。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
日本社会の現状を定量的に理解することで、大学の学修に必要な基礎的知識を得る。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
日本社会の現状を、統計データ等の数字を用いて理解し、説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合		40	30				30	100
知識・理解	(DP1)	◎	◎					
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義	配付資料の復習
2	日本の人口と世帯の変化	講義	同上
3	日本経済の現状	講義	同上
4	労働(1)	講義	同上
5	労働(2)	講義	同上
6	家計の状況(1)	講義	同上
7	家計の状況(2)	講義・小テスト	同上
8	企業の活動(1)	講義	同上
9	企業の活動(2)	講義	同上
10	金融資本市場	講義	同上
11	医療・福祉(1)	講義	同上
12	医療・福祉(2)	講義・小テスト	同上
13	人々の日常生活	講義	同上
14	日本の財政(1)	講義	同上
15	日本の財政(2)	講義	同上

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																				
その他（ライティング）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	ライフキャリア論		単位	2
科目名（英語）	Life and Career		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	人々の働き方や生き方の価値観が多様化に伴い、現代社会を生きる私たちには働くことを取り巻く環境や働き方の大きな変化・多様化について理解することが必要になっている。この授業では、まず、現実の状況を正しく理解することを目指し、人が生涯を通して行う社会的役割である仕事に関連した活動と、諸活動によって得られる人間的成長や自己実現を目標とした個人の生き方に関する考えを深める。これらによって創造的な職業人生を送るための能力を育む。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	テキスト持参、学生同士のアクティブラーニングのために予習と復習をすることが必要になります。講義では毎回、グループでのディスカッション時間が組み込まれています。毎回、講義で学んだことを記述して提出してもらいます。テキストに記載されている内容だけでは十分ではないため、グループでの時間外ワークも必要になります。定期試験はありませんが、毎週の講義の積み重ね学習が大切になります。出席重視、毎回出席を取ります。			
テキスト	キャリア基礎講座テキスト 自分のキャリアは自分で創る 荒井 明 (著)、 玄田 有史 (監修)テキストは第2回目の講義までに必ず購入し、毎回持参してください。友人同士の貸し借りはできません。			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサル、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	キャリア理論の知識を用いて社会状況を検証し、自らの現状を分析し、いかに生きるかを検討するための基礎知識を得る
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	人生と職業生活に関する諸問題を主体的意欲的に探求することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代における人々の生き方と働き方に関する状況や職業社会の基本的知識（雇用環境や職種職業、プライベートと仕事とのバランスなど）を正しく理解することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
人が生涯を通して行う社会的役割である仕事に関連した活動と、諸活動によって得られる人間的成長や自己実現を目標とした個人の生き方を知ったうえで主体的に創造的なライフキャリアデザインができる。人生と職業生活に関する諸問題を主体的意欲的に探求することができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40		60			100
知識・理解	(DP1)		20		30			
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		20		30			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（テキストや成績などについて）		
2	働く意味を考える（職業社会の仕組み他）	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイルで、深く広く理解することを目指します。
3	仕事経験の連続性、ワークライフバランス	講義・アクティブラーニング	
4	多様な働き方、育児・介護と仕事、両立支援	講義・アクティブラーニング	
5	男女雇用機会均等法、女性活躍推進	講義・アクティブラーニング	
6	就職率と進学率、若年者雇用問題	講義・アクティブラーニング	
7	経済環境と労働市場の関係	講義・アクティブラーニング	
8	生涯キャリア発達理論	講義・アクティブラーニング	
9	働く環境分析	講義・アクティブラーニング	

10	給与、税金の種別、税金の意義	講義・アクティブラーニング
11	雇用形態の種別（契約、派遣、正規）と評価制度	講義・アクティブラーニング
12	ホランダの職業興味六角モデル	講義・アクティブラーニング
13	日本標準産業分類	講義・アクティブラーニング
14	キャリア移行トランジション理論	講義・アクティブラーニング
15	プレゼンテーション学習発表会	
備考	5回以上欠席した者は単位を取得できません。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語 I-(1)（人間社会学部）		単位	1
科目名（英語）	English I -(1)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種、幼一種	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	The aim of this course is to develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions, role-plays, surveys, and other task-based communicative activities.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is suitable for students who have studied English language at junior high school and high school. It is desirable that students keep up to date with current affairs (news items and social issues) so as to improve their understanding of the class topics.			
テキスト	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara, "Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis" (3rd Edition), Nan'un-do, 2017 (1,900 円).			
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を 生かした授業	The course teacher is a native English speaker with an academic background in the humanities and linguistics.		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their English-language communicative ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Able to orally express, substantiate, and discuss opinions even on non-class topics in English.			
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
Able to orally express, substantiate, and discuss opinions even on non-class topics in English.			
A：80～89 履修目標を達成している。			
Able to orally express substantiated opinions and respond to questions even on non-class topics in English.			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

Able to orally express substantiated opinions and respond to questions on each of the class topics in English.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to orally express a substantiated opinion on each of the class topics in English.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to orally express a substantiated opinion on each of the class topics in English.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	33	34	33				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	Students who are absent more than 5 times may fail the course because the teacher will have insufficient data to evaluate their performance.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Introduction	Lecture; groupwork; Q&A	Make an English-language ID card
2	Crime	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 1 / role-play practice
3	Mobile phones	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 2
4	Smoking	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 3 / role-play practice
5	Junk food	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 4
6	Marriage	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 5 / role-play practice
7	Sport	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 6
8	Driving and road safety	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 7 / role-play practice
9	Bullying	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 8
10	Attitudes to homosexuality	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 9 / role-play practice
11	Sexism and gender roles	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 10
12	Sleeping patterns	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 11 / role-play practice
13	Japan's population crisis	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 12
14	Parasite singles	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 13 / role-play practice

15	Exam preparation	Lecture; groupwork; Q&A	Exam preparation
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容			The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.														

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語Ⅰ-(1) (人間社会学部)		単位	1
科目名（英語）	EnglishⅠ-(1)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種、幼稚園教諭	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	Dominic Marini			
授業概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in pair work and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly homework assignment.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.			
テキスト	Passport 1 (Second Edition) by A. Buckingham and L. Lansford ISBN978-0-19-471816-5			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students will be required to complete various communicative tasks in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 Students will be able to communicate in a variety of situations which are common in international travel.		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 Students will learn an appropriate schema and vocabulary related to various situations in international travel.		
成績評価の基準	S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	A : 80~89 履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		Mid-term exam	Final exam	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50	50					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○					
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		This course will prioritize students' active learning and ability to communicate.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	Class 1 : Introduction	Lecture	
2	Class 2 Topic : World travel	Lecture	Homework 1
3	Class 3 Topic : Polite requests	Lecture	Homework 2
4	Class 4 Topic: Answering questions	Lecture	Homework 3
5	Class 5 Topic : Talking about your family	Lecture	Homework 4
6	Class 6 Topic : Asking how to do something	Lecture	Homework 5
7	Class 7 Ordering food at a restaurant	Lecture	Homework 6
8	Class 8 Topic : Learning vocabulary and review	Lecture	Homework 7
9	Class 9 Topic : Mid-term exam	Lecture	Homework 8
10	Class 10 Topic : Asking for directions in the street	Lecture	Homework 9
11	Class 11 Topic : Using a bank	Lecture	Homework 10

12	Class 12 Topic : Getting a hotel room	Lecture	Homework 11
13	Class 13 Topic : Using a pharmacy	Lecture	Homework 12
14	Class 14 Topic : Learning vocabulary	Lecture	Homework 13
15	Class 15 Topic : Exam preparation	Lecture	Exam preparation
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
その他（ ）				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語 I-(2)（人間社会学部）			単位	1
科目名（英語）	English I -(2)			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種、幼一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	Stuart Gale				
授業概要	The aim of this course is to develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions, role-plays, surveys, and other task-based communicative activities.				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is suitable for students who have studied English language at junior high school and high school. It is desirable that students keep up to date with current affairs (news items and social issues) so as to improve their understanding of the class topics.				
テキスト	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara, "Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis" (3rd Edition), Nan'un-do, 2017 (1,900 円).				
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業	The course teacher is a native English speaker with an academic background in the humanities and linguistics.			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their English-language communicative ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Able to orally express, substantiate, and discuss opinions even on non-class topics in English.			
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
Able to orally express, substantiate, and discuss opinions even on non-class topics in English.			
A：80～89 履修目標を達成している。			
Able to orally express substantiated opinions and respond to questions even on non-class topics in English.			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

Able to orally express substantiated opinions and respond to questions on each of the class topics in English.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to orally express a substantiated opinion on each of the class topics in English.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to orally express a substantiated opinion on each of the class topics in English.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	33	34	33				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	Students who are absent more than 5 times may fail the course because the teacher will have insufficient data to evaluate their performance.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Introduction	Lecture; groupwork; Q&A	Make an English-language ID card
2	Crime	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 1 / role-play practice
3	Mobile phones	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 2
4	Smoking	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 3 / role-play practice
5	Junk food	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 4
6	Marriage	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 5 / role-play practice
7	Sport	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 6
8	Driving and road safety	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 7 / role-play practice
9	Bullying	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 8
10	Attitudes to homosexuality	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 9 / role-play practice
11	Sexism and gender roles	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 10
12	Sleeping patterns	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 11 / role-play practice
13	Japan's population crisis	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 12
14	Parasite singles	Lecture; groupwork; Q&A	Reading: Unit 13 / role-play practice

15	Exam preparation	Lecture; groupwork; Q&A	Exam preparation
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																
内容		The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.														

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語Ⅰ-(2) (人間社会学部)		単位	1
科目名（英語）	EnglishⅠ-(2)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種、幼稚園教諭	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	Dominic Marini			
授業概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in pair work and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly homework assignment.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.			
テキスト	Passport 1 (Second Edition) by A. Buckingham and L. Lansford ISBN978-0-19-471816-5			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students will be required to complete various communicative tasks in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 Students will be able to communicate in a variety of situations which are common in international travel.		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 Students will learn an appropriate schema and vocabulary related to various situations in international travel.		
成績評価の基準			
S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A : 80~89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		Mid-term exam	Final exam	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		50	50					100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)	○	○					
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)	○	○					
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考		This course will prioritize students' active learning and ability to communicate.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Class 1 : Introduction	Lecture	
2	Class 2 Topic : World travel	Lecture	Homework 1
3	Class 3 Topic : Polite requests	Lecture	Homework 2
4	Class 4 Topic: Answering questions	Lecture	Homework 3
5	Class 5 Topic : Talking about your family	Lecture	Homework 4
6	Class 6 Topic : Asking how to do something	Lecture	Homework 5
7	Class 7 Ordering food at a restaurant	Lecture	Homework 6
8	Class 8 Topic : Learning vocabulary and review	Lecture	Homework 7
9	Class 9 Topic : Mid-term exam	Lecture	Homework 8
10	Class 10 Topic : Asking for directions in the street	Lecture	Homework 9
11	Class 11 Topic : Using a bank	Lecture	Homework 10

12	Class 12 Topic : Getting a hotel room	Lecture	Homework 11
13	Class 13 Topic : Using a pharmacy	Lecture	Homework 12
14	Class 14 Topic : Learning vocabulary	Lecture	Homework 13
15	Class 15 Topic : Exam preparation	Lecture	Exam preparation
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
その他（ ）				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語Ⅱ-(1)		単位	1
科目名（英語）	EnglishⅡ-(1)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	河本 恵美			
授業概要	<p>最近ではネットからの情報を簡単に入手でき、様々な文化や風習、考え方の違いを身近に感じるものが多くなりました。また、日本と比べて不思議に感じる文化も多々あります。この授業では、興味深く奥深い異文化をテーマに取り上げ、日本文化との比較を論じた英文を通じて、楽しみながら各国の文化を読み取っていきます。</p> <p>授業内ではペアワークやグループワークを行い、テキストの内容の理解度を深め、英語を総合的に理解し、各国文化の特徴を簡単な表現を使い発信することを目標とします。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を円滑に進め、またグループワークを取り入れるため、事前事後学習をしっかりとすることを必須とします。			
テキスト	Cross-Cultural Awareness 英語で学ぶ異文化の不思議 開文社 2020年 1800円（税別）			
参考図書 ・教材等	授業内容に関連する資料を適宜配布する。			
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	事前にメールでアポイントメントを取ってください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	テキスト内の会話やリーディングの語句・表現・文法知識を活かし、日本文化を自分なりの言葉で表現が出来る。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通して、クラスメートとのコミュニケーションを図ることが出来る。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
テキスト内で必要な文法や、語彙、基本表現を身に付け、日本をはじめ世界の文化を比較し、また視野を広げることを目標とする。更に、簡単な英語表現を使い、日本文化を世界に発信できるよう英語力の向上を目指す。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
テキストの内容を把握し、語句・文法・基本表現を確実に身に付け、日本文化との比較を把握し、簡単な英語表現を用いて各文化を説明できることを目標とする。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
本文のパッセージを辞書無しで正確に理解し、簡単に英語で要約が出来る。また、文化に興味を深め、ペーパーバックを読む力がある。	
A：80～89	履修目標を達成している。
辞書を使って本文を把握し、各国の文化を正確に理解でき、簡単な表現を使って説明が出来る。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
基本語句や表現を身に付け、辞書を用いて本文を理解することが出来る。	
C：60～69	到達目標を達成している。
基本的な語句や表現が理解でき、本文の概略を理解することが出来る。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
英語の基本的な語句や表現、文法が理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	10	10	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	◎	○	○	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	◎		◎	◎			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業内容の説明 Chapter 1: 世界の結婚式	講義	Chapter 1 のリーディングの語句と表現、文法を予習する。
2	Chapter 1: Wedding Ceremonies in the World	Reading and checking the contents in group and class	Chapter 1 の復習と練習問題
3	G-TELP Test		Chapter 2 の語句・表現調べ
4	Chapter 2: Funerals in the World	Reading and checking the answers in class	Chapter 2 の復習と練習問題
5	Chapter 2: Funerals in the World	Reading and Group work Conversation Practice	Chapter 2 の復習 Chapter 3 の語句・リーディングの予習
6	Chapter 3: Coming-of-age Ceremonies in the World	Reading and checking the answers in group and class	Chapter 3 の復習と練習問題
7	Chapter 3: Coming-of-age Ceremonies in the World	Reading and Group work Conversation Practice	Chapter 4 のリーディング内容把握
8	Chapter 4: Toilets in the World	Reading and checking the answers in class	Chapter 4 の復習と練習問題

9	Chapter 4: Toilets in the World	Reading and checking the contents in group and class Conversation Practice	Chapter 4 の復習 Chapter 7 の語句調べとリーディングの予習
10	Chapter 7: Women's Status in the World	Reading and checking the answers in group	Chapter 7 の復習と練習問題
11	Chapter 7: Women's Status in the World	Reading and Group work Presentation about Japanese culture	Chapter 7 のリーディングの復習 Chapter 5 の予習
12	Chapter 5: Alcoholic Beverages in the World 災害時に役立つ英語表現	Reading and checking the answers in group and class Memorize the useful expressions	Chapter 5 の復習と練習問題
13	Chapter 5: Alcoholic Beverages in the World	Reading the checking the contents in pair and group	Chapter 5 の復習 Chapter 6 の語句・表現・文法調べ
14	Chapter 6: Unusual Foods in the World	Reading and Group work	Chapter 6 の復習と練習問題
15	Chapter 6: Unusual Foods in the World	Reading and Group work	前期試験準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他()																	
内容	少人数のグループに分かれて輪読や内容を確認し、発表をする。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語Ⅱ-(2)	単位	1
科目名（英語）	EnglishⅡ-(2)	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	後期
担当教員	河本 恵美		
授業概要	<p>前期英語Ⅱ-(1)に引き続き、後期も異文化をテーマに取り上げ、日本文化との比較を論じた英文を通じて、楽しみながら各国の文化を読み取っていきます。</p> <p>授業内ではペアワークやグループワークを行い、テキストの内容の理解度を深め、英語を総合的に理解し、各国文化の特徴を簡単な表現を使い発信することを目標とします。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を円滑に進め、またグループワークを取り入れるため、事前事後学習をしっかりとすることを必須とします。		
テキスト	Cross-Cultural Awareness 英語で学ぶ異文化の不思議 開文社 2020年 1800円（税別） （前期の英語Ⅱ-(1)で使用した教科書と同じです。）		
参考図書 ・教材等	授業内容に関連する資料を適宜配布する。		
実務経験を 生かした授業		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	事前にメールでアポイントメントを取ってください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	テキスト内の会話やリーディングの語句・表現・文法知識を活かし、日本文化を自分なりの言葉で表現が出来る。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通して、クラスメートとのコミュニケーションを図り、簡単な英語で自分の考えを相手に伝えることが出来る。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
テキスト内で必要な文法や、語彙、基本表現を身に付け、日本をはじめ世界の文化を比較し、また視野を広げることを目標とする。更に、簡単な英語表現を使い、日本文化を世界に発信できるよう英語力の向上を目指す。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
テキストの内容を把握し、語句・文法・基本表現を確実に身に付け、日本文化との比較を把握し、簡単な英語表現を用いて各文化を説明できることを目標とする。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

本文のパッセージを辞書無しで正確に理解し、簡単に英語で要約が出来る。また、文化に興味を深め、ペーパーバックを読む力がある。
A：80～89 履修目標を達成している。
辞書を使って本文を把握し、各国の文化を正確に理解でき、簡単な表現を使って説明が出来る。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
基本語句や表現を身に付け、辞書を用いて本文を理解することが出来る。
C：60～69 到達目標を達成している。
基本的な語句や表現が理解でき、本文の概略を理解することが出来る。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
英語の基本的な語句や表現、文法が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50		15	15		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎		○	◎		
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	◎		◎	◎		
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	その他の20%は、外部試験（G-TELP）です。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業内容の説明 Chapter 8:ギリシャ神話と日本神話の共通点	講義	Chapter 8のリーディングの語句と表現、文法を予習する。
2	Chapter 8: Greek and Japanese Mythologies	Reading and checking the contents in group and class Conversation Practice	Chapter 8の復習と練習問題
3	Chapter 9: Children's Recreation in the World	Reading and checking the answers in pair and group	Chapter 9の語句・表現調べ
4	Chapter 9: Children's Recreation in the World	Reading and checking the answers in class	Chapter 9の復習と練習問題 Chapter 10の予習
5	Chapter 10: Sports of the World: the Olympics	Reading and Group work Conversation Practice	Chapter 10の復習と練習問題
6	Chapter 10: Sports of the World: the Olympics	Reading and checking the answers in group and class	Chapter 10の復習 Chapter 11の予習
7	Chapter 11: A Strange Custom: Geophagy	Reading and Group work Conversation Practice	Chapter 11のリーディング内容把握
8	Chapter 11: A Strange Custom: Geophagy	Reading and checking the answers in class	Chapter 11の復習と練習問題

9	Chapter 12: Religions Vary in the World	Reading and checking the contents in group and class Conversation Practice	Chapter 12 の復習と練習問題
10	Chapter 12: Religions Vary in the World	Reading and checking the answers in group	Chapter 12 の復習
11	G-TELP		
12	Watching Movie 1	ディズニー映画を鑑賞し、簡単な英語表現を学習。	Chapter 14 の予習
13	Watching Movie 2 Chapter 14: P-time Culture and M-time Culture	映画を鑑賞し、英語表現の聞き取り練習。	Chapter14 の復習と練習問題
14	Chapter 14: P-time Culture and M-time Culture	Reading and Group work Conversation Practice	Chapter 14 の復習 Chapter 15 の予習
15	Chapter 15: The Past versus the Future	Reading and Group work	後期試験準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
その他（ ）																	
内容			少人数のグループに分かれて輪読や内容を確認し、発表をする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語 III-(1)（人間社会学部）		単位	1
科目名（英語）	English III -(1)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	The aim of this course is to develop general writing ability in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions, surveys, and online writing activities and will develop their opinion-paragraph writing skills.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is suitable for students who have taken 英語 I. It is desirable that students keep up to date with current affairs (news items and social issues) so as to improve their understanding of the class topics.			
テキスト	(1) Stuart Gale and Shunpei Fukuhara, "Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis" (3rd Edition), Nan'un-do, 2017 (1,900 円). (2) Language Note (390 円).			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する(URLs of free online study materials).			
実務経験を生かした授業	The course teacher is a native English speaker with an academic background in the humanities and linguistics.		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make written group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their communicative writing ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Able to compose, in writing, a substantiated opinion paragraph even on non-class topics in English.			
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
Able to compose, in writing, a substantiated opinion paragraph even on non-class topics in English.			
A：80～89 履修目標を達成している。			
Able to compose, in writing, a substantiated opinion paragraph on each of the class topics in English.			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

Able to compose, in writing, substantiated opinion sentences on each of the class topics in English.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to compose, in writing, opinion sentences on each of the class topics in English.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to compose, in writing, opinion sentences on each of the class topics in English.

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		33	34	33				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○	○				
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考	Students who are absent more than 5 times may fail the course because the teacher will have insufficient data to evaluate their performance.							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	J-pop (part 1)	Lecture; writing assignments	Orientation to online study materials.
2	J-pop (part 2)	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
3	Cosmetic surgery (part 1)	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
4	Cosmetic surgery (part 2)	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
5	Laughter and comedy	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
6	Whaling	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
7	International relations	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
8	Internationalization	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
9	Protecting the environment	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
10	Japan's population crisis	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
11	Divorce	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
12	Crime syndicates	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
13	Television	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
14	Advertising	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises

15	Working part-time	Lecture; writing assignments	Exam preparation
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容				The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.															

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語 III-(2)（人間社会学部）		単位	1
科目名（英語）	English III -(2)		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	The aim of this course is to continue to develop general writing ability in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions, surveys, and online writing activities and will develop their opinion-paragraph writing skills.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is suitable for students who have taken 英語 I and 英語 III-(1). It is desirable that students keep up to date with current affairs (news items and social issues) so as to improve their understanding of the class topics.			
テキスト	(1) Stuart Gale and Shunpei Fukuhara, "Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis" (3rd Edition), Nan'un-do, 2017 (1,900 円). (2) Language Note (390 円).			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する(URLs of free online study materials).			
実務経験を生かした授業	The course teacher is a native English speaker with an academic background in the humanities and linguistics.		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make written group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their communicative writing ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Able to compose, in writing, a substantiated opinion paragraph even on non-class topics in English.			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Able to compose, in writing, opinion sentences on each of the class topics in English.			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
Able to compose, in writing, a substantiated opinion paragraph even on non-class topics in English.			
A：80～89 履修目標を達成している。			
Able to compose, in writing, a substantiated opinion paragraph on each of the class topics in English.			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

Able to compose, in writing, substantiated opinion sentences on each of the class topics in English.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to compose, in writing, opinion sentences on each of the class topics in English.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to compose, in writing, opinion sentences on each of the class topics in English.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	33	34	33				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	Students who are absent more than 5 times may fail the course because the teacher will have insufficient data to evaluate their performance.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Crime	Lecture; writing assignments	Orientation to online study materials.
2	Mobile phones	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
3	Smoking	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
4	Junk food	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
5	Marriage	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
6	Sport	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
7	Driving and road safety	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
8	Bullying	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
9	Attitudes to homosexuality	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
10	Sexism and gender roles	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
11	Sleeping patterns	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
12	General test-taking tips	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
13	G-TELP	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises
14	Japan's population crisis	Lecture; writing assignments	Online writing / grammar exercises

15	Parasite singles	Lecture; writing assignments	Exam preparation
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容			The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.														

I. 科目情報

科目名（日本語）	リーディング I	単位	1
科目名（英語）	Reading I	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	養一種、養二種
標準履修年次	1年	開講時期	前期
担当教員	小池 祐子		
授業概要	英文を読むための基本的なリーディングスキルを段階的に学び、英文読解の基礎となる語彙力、文法力を向上させる。また、多読学習として図書館の英語の本を読みレポートを書く宿題が課せられ、授業でその本の紹介と話し合いを行う。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	Yuji Ushiro, Chikako Nakagawa, & Mari Le Pavoux 『Reader's Ark Basic』, Kinseido, 2015, ¥1,900 Seiji Hayakawa, Yuko Koike, & Rika Otsu 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan'un-do, 2016, ¥1,900		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students can understand the main ideas of standard English text and express themselves in English appropriately.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students have good communication skills in a group discussion.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Students have basic reading skills, a good vocabulary, grammatical knowledge, and good communication skills in English.			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Students have basic reading skills and a certain level of vocabulary and grammatical knowledge in English.			

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	25	25				100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)	○	○	○				
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP 10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	Course introduction Unit 1: Check Your Level	Introduction to course requirements, Self introduction, Reading skill level check	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 1 [After class] Review: Class 1, Extensive reading (Check out a library book for your book report and start reading it.)
2	G-TELP (General Tests of English Language Proficiency)	G-TELP : Grammar (20 min.), Listening (20 min.), Reading & Vocabulary (35 min.)	[Before class] Review: English grammar and reading/listening strategies. [After class] Extensive reading, Book report
3	Unit 2: Experience Pre-Reading Activities	Lecture & activities: Reading skills (Pre-reading activities), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 2 [After class] Review: Class 3, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book

			report
4	Unit 2: Experience Pre-Reading Activities	Book report (due) Book discussion Lecture & activities: Reading skills (Pre-reading activities), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 2 [After class] Review: Class 4, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
5	Unit 3: Identifying the Main Ideas <1>	Reading Homework Unit 2 (due) Vocabulary quiz Unit 2 Lecture & activities: Reading skills (Identifying the main ideas), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 3 [After class] Review: Class 5, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
6	Unit 3: Identifying the Main Ideas <1>	Lecture & activities: Reading skills (Identifying the main ideas), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 3 [After class] Review: Class 6, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
7	Unit 4: Identifying the Main Ideas <2>	Reading Homework Unit 3 (due) Vocabulary quiz Unit 3 Lecture & activities: Reading skills (Identifying the main ideas), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 4 [After class] Review: Class 7, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
8	Unit 4: Identifying the Main Ideas <2>	Lecture & activities: Reading skills (Identifying the main ideas), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 4 [After class] Review: Class 8, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
9	Unit 6: Understanding Supporting Details	Reading Homework Unit 4 (due) Vocabulary quiz Unit 4 Lecture & activities: Reading skills (Understanding supporting details), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 6 [After class] Review: Class 9, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
10	Unit 6: Understanding Supporting Details	Book report (due) Book discussion Lecture & activities: Reading skills (Understanding supporting details), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 6 [After class] Review: Class 10, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
11	Unit 11: Paragraph Organization <1>	Reading Homework Unit 6 (due) Vocabulary quiz Unit 6 Lecture & activities: Reading skills (Paragraph organization), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 11 [After class] Review: Class 11, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
12	Unit 11: Paragraph Organization <1>	Lecture & activities: Reading skills (Paragraph organization), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 11 [After class] Review: Class 12, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book

			report
13	Unit 15: Searching for Information	Reading Homework Unit 11 (due) Vocabulary quiz Unit 11 Lecture & activities: Reading skills (Searching for information), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 15 [After class] Review: Class 13, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
14	Unit 15: Searching for Information	Lecture & activities: Reading skills (Searching for information), Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 15 [After class] Review: Class 14, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading, Book report
15	Unit 15: Searching for Information	Reading Homework Unit 15 (due) Vocabulary quiz Unit 15 Book report (due) Book discussion	[Before class] Reading: 'Reader's Ark Basic' Unit 15 [After class] Review: Class 1~15, Preparation for Final exam
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○						○					○	
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	リーディングⅡ	単位	1
科目名（英語）	Reading II	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	小池 祐子		
授業概要	英文を読むためのリーディングスキルを段階的に学び、応用力を向上させる訓練を行う。英文読解の基礎となる語彙力、文法力を強化する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	Yasuko Onjohji, Eriko Nagita, Yoko Kshihara & Mami Inoue 『Mindfulness』, Nan'undo, 2016, ¥1,800 Seiji Hayakawa, Yuko Koike, & Rika Otsu 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan'un-do, 2016, ¥1,900		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students can understand the main ideas of complex English text and express themselves in English appropriately.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students have good communication skills in a group discussion.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 Students have good reading comprehension skills, a good vocabulary, and grammatical knowledge so that they can understand the main ideas of complex text including technical discussions in their field of specialization.		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

Students have good reading comprehension skills and a certain level of vocabulary and grammatical knowledge in English.

成績評価の基準

S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A : 80~89 履修目標を達成している。

B : 70~79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C : 60~69 到達目標を達成している。

不可 : ~59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	25	25				100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)	○	○	○				
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP 10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	Course introduction	Introduction to course requirements, Review of reading comprehension skills	[Before class] Review: Reading skills you learned in Reading I [After class] Review: Class 1, Extensive reading, Book report
2	Unit 1: Sense of Taste and Eating Habits	Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 1 [After class] Review: Class 2, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
3	Unit 1: Sense of Taste and Eating Habits	Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 1 [After class] Review: Class 3,

			Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
4	Unit 3: Dangers of Internet Addiction	Reading Homework Unit 1 (due) Vocabulary quiz Unit 1 Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 3 [After class] Review: Class 4, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
5	Unit 3: Dangers of Internet Addiction	Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 3 [After class] Review: Class 5, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
6	Unit 7: Battle against the Ebola Virus	Reading Homework Unit 3 (due) Vocabulary quiz Unit 3 Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 7 [After class] Review: Class 6, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
7	Unit 7: Battle against the Ebola Virus	Book report (due) Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 7 [After class] Review: Class 7, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
8	Unit 8: Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT	Reading Homework Unit 7 (due) Vocabulary quiz Unit 7 Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 8 [After class] Review: Class 8, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
9	Unit 8: Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT	Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 8 [After class] Review: Class 9, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
10	Unit 9: Angelina's Decision	Reading Homework Unit 8 (due) Vocabulary quiz Unit 8 Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 9 [After class] Review: Class 10, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
11	Unit 9: Angelina's Decision	Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 9 [After class] Review: Class 11, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
12	Unit 11: ES Cells and iPS Cells	Reading Homework Unit 9 (due) Vocabulary quiz Unit 9 Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 11 [After class] Review: Class 12, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
13	Unit 11: ES Cells and iPS Cells	Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 11 [After class] Review: Class 13, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report

14	Unit 13: Preventing Child Abuse	Reading Homework Unit 11 (due) Vocabulary quiz Unit 11 Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 13 [After class] Review: Class 14, Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Extensive reading, Book report
15	Unit 13: Preventing Child Abuse	Book report (due) Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary, Grammar	[Before class] Reading: 'Mindfulness' Unit 13 [After class] Review: Class 1~15, Preparation for Final exam
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○														
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	ライティング	単位	1
科目名（英語）	Writing	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	後期
担当教員			
授業概要	英文ライティングを正しい構成でプロセスに沿って書き進めていく方法について学ぶ。また、センテンスレベルにおいて正確な文章が書けるように、語彙力、文法力を強化する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	Yoshihiro Sugita & Richard R. Caraker 『Primary Course on Paragraph Writing』, Seibido, 2008, ¥1,900 Seiji Hayakawa, Yuko Koike & Rika Otsu 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan'un-do, 2016, ¥1,900		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students have a good vocabulary and grammatical knowledge so that they can write a good paragraph.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students can express themselves in English writing.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Students can understand the organization of paragraph and essay writing and produce clear, well-structured text.			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Students can understand the organization of paragraph and essay writing and produce well-structured text.			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	外部試験	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20	20			100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)		○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)		○	○	○			
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP 10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	Course introduction Unit 1: Pre-writing Activity	Introduction to course requirements Lecture & activities: Writing skills (Pre-writing activity), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 1 [After class] Review: Class 1, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
2	Unit 2: Writing a Draft Unit 3: Revising & Editing	Lecture & activities: Writing skills (Writing a draft, Revising & editing), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 2 & 3 [After class] Review: Class 2, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
3	Unit 5: Paragraph writing (Illustration)	Writing test 1 Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Illustration), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 5 [After class] Review: Class 3, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
4	Unit 5: Paragraph writing (Illustration)	Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Illustration), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 5 [After class] Review: Class 4, Writing

			homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
5	Unit 5: Paragraph writing (Illustration)	Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Illustration), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 5 [After class] Review: Class 5, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
6	Unit 5: Paragraph writing (Illustration)	Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Illustration), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 5 [After class] Review: Class 6, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
7	Unit 12: Paragraph writing (Opinion)	Writing test 2 Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Opinion), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 12 [After class] Review: Class 7, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
8	Unit 12: Paragraph writing (Opinion)	Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Opinion), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 12 [After class] Review: Class 8, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
9	Unit 12: Paragraph writing (Opinion)	Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Opinion), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 12 [After class] Review: Class 9, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
10	Unit 12: Paragraph writing (Opinion)	Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Opinion), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 12 [After class] Review: Class 10, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
11	Unit 6: Paragraph writing (Time Order) Paragraph vs. Essay	Writing test 3 Lecture & activities: Writing skills (Paragraph writing: Time order), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 6 [After class] Review: Class 11, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
12	Unit 14: Basics of Essay Writing Unit 15: Writing Your Essay	Lecture & activities: Writing skills (Basics of essay writing), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 14 & 15 [After class] Review: Class 12, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation
13	Unit 15: Writing Your Essay	Lecture & activities: Writing skills (Basics of essay writing), Grammar	[Before class] Reading: 'Primary Course on Paragraph Writing' Unit 14 & 15 [After class] Review: Class 13, Writing homework, Writing test preparation, Grammar test preparation, Preparation for G-TELP
14	G-TELP (General Tests of English Language Proficiency)	G-TELP : Grammar (20 min.), Listening (20 min.), Reading & Vocabulary (35 min.)	[Before class] Preparation for G-TELP [After class] Review: Class 14, Writing test preparation, Grammar test preparation
15	Unit 15: Writing Your Essay	Writing test 4 Grammar final test Lecture & activities: Writing skills (Essay writing)	[Before class] Review: Class 1~14, Essay writing
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○				○				○					○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	オーラルコミュニケーションⅠ (看護学部)		単位	1
科目名（英語）	Oral Communication I		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	養一種、養二種	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	Duncan Wotley			
授業概要	This course aims to help nursing trainees develop their English speaking and listening skills so that they will be able to communicate effectively as nurses and professionals in a global world.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	Caring for People Michiko Mayuzumi/ Tamiko Miyatsu/ Philip Hinder ISBN 978-4-86312-256-7			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students can express themselves in English appropriately
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students have enough English ability so they can cope with communication in a globalized society
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Students can express themselves in English appropriately			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Students have enough English ability so they can cope with communication in a globalized society			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	小テスト・ 授業内レポ ート	宿題・授業 外レポート	受講者の 発表(プレ ゼン)	ポートフォ リオ	授業態 度・授業へ の参加度	合計
総合評価割合	30		20	30		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○		○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○		○	○	○	
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】 160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】 180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Introduction to course requirements	Lecture & students self-introductions	Make name and information cards
2	Unit 1 Meeting Patients	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
3	Unit 2 Taking a Medical History	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
4	Unit 3 Assessing Patient's Symptoms	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
5	Unit 4 Taking Vital Signs	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
6	Unit 5 Taking a Specimen	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
7	Unit 6 Conducting Medical Examinations	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
8	Unit 7 Assessing Pain	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
9	Unit 8 Advising about Medication	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
10	Review of Units 1 - 8	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
11	Unit 9 Improving Patients' Mobility	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
12	Unit 10 Maintaining a Good Diet	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation

13	Unit 11 Caring for Inpatients	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
14	Unit 12 Coping with Emergencies	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
15	Review of Units 9- 12	Discussing Diary	Discussion and Role-Play
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	オーラルコミュニケーションⅡ （看護学部）		単位	1
科目名（英語）	Oral Communication II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	養一種、養二種	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	Duncan Wotley			
授業概要	This course aims to help nursing trainees develop their English speaking and listening skills so that they will be able to communicate effectively as nurses and professionals in a global world.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	English for Healthcare Professionals: Because We Care, Maki Inoue/Tadashi Ihara ISBN 978-4-86312-1294			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students can express themselves in English appropriately
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students have enough English ability so they can cope with communication in a globalized society
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Students can express themselves in English appropriately			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Students have enough English ability so they can cope with communication in a globalized society			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	小テスト・ 授業内レポ ート	宿題・授業 外レポート	受講者の 発表(プレ ゼン)	ポートフォ リオ	授業態 度・授業へ の参加度	合計
総合評価割合		30		20	30		20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○		○	○		○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○		○	○		○	
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Introduction to course requirements	Lecture & students self-introductions	Make name and information cards
2	Unit 1 Body Parts	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
3	Unit 2 Musculoskeletal System	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
4	Unit 3 Circulatory System	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
5	Unit 4 Respiratory System	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
6	Unit 5 Digestive System	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
7	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
8	Unit 7 Urinary System	Speaking and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
9	Unit 8 Reproductive System	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
10	Review of Units 1 - 8	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
11	Unit 9 Endocrine System	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
12	Unit 10 BLS (Basic Life Support) and ALS	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation

	(Alternative Life Support)		
13	Unit 11 Rehabilitation	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
14	Unit 12 Diet and Nutrition	Discussion and Listening	Diary, Discussion, Role-Play, Hometown presentation
15	Review of Units 9- 12	Discussing Diary	Discussion and Role-Play
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	オーラルコミュニケーションⅢ		単位	1
科目名（英語）	Oral Communication III		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	小池 祐子			
授業概要	リスニング・スピーキングに重点を置いた英語力向上のための訓練を行う。また、自然で通じる発音の習得を目指すトレーニングを行い、オーラルコミュニケーション能力を更に強化する。そして、学習後に受ける小テストにより、リスニング力、語彙力の向上を図る。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	Kayo Yoshida, Kyoko Nakanishi, Shizuka Itagaki & Brian Covert 『Practical situations for the TOEIC Test Listening』 - Revised Edition -, Seibido, 2020, ¥1,300 Seiji Hayakawa, Yuko Koike, & Rika Otsu 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan'un-do, 2016, ¥1,900			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students can understand basic oral English and express themselves in English appropriately.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students have good English communication skills.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Students have basic English listening and speaking skills.			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	外部試験	その他	合計
総合評価割合		40	10	10	20	20		100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)	○	○	○	○	○		
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)	○	○	○	○	○		
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP 10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	Course introduction Unit 1: Ceremony	Introduction to course requirements, Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 1 [After class] Review: Class 1, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice
2	Unit 1: Ceremony Unit 2: School life	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 1&2 [After class] Review: Class 2, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice
3	Unit 2: School life	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 2 [After class] Review: Class 3, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice

4	Unit 8: Directions	Quiz (Unit 1&2) Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 8 [After class] Review: Class 4, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice
5	Unit 8: Directions Unit 10: Summer Sale	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 8&10 [After class] Review: Class 5, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice, Preparation for Speech 1
6	Unit 10: Summer Sale	Quiz (Unit 8&10) Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 10 [After class] Review: Class 6, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice, Preparation for Speech 1
7	Speech 1 (Show & Tell)	Individual presentation & Peer evaluation	[Before class] Preparation for Speech 1 [[After class] Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice
8	Unit 11: Restaurant	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 11 [After class] Review: Class 8, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice
9	Unit 11: Restaurant Unit 15: Health	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 11&15 [After class] Review: Class 9, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice
10	Unit 15: Health	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 15 [After class] Review: Class 10, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice, Preparation for Speech 2
11	Unit 17: Cleanup	Quiz (Unit 11&15) Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 17 [After class] Review: Class 11, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice, Preparation for Speech 2
12	Unit 17: Cleanup Speech 2 preparation (group work)	Listening, Speaking & Pronunciation practice, Vocabulary & Grammar	[Before class] Reading: 'Practical situations for the TOEIC Test Listening' Unit 17 [After class] Review: Class 12, Listening homework, Quiz preparation, Pronunciation practice, Preparation for Speech 2
13	G-TELP (General Tests of English Language Proficiency)	G-TELP: Grammar (20 min.), Listening (20 min.), Reading & Vocabulary (35 min.)	[Before class] Preparation for G-TELP [After class] Preparation for Speech 2

14	Speech 2 preparation (group work)	Preparation for Speech 2 (group presentation)	[Before class] Preparation for Speech 2 [After class] Preparation for Speech 2, Preparation for Final exam
15	Speech 2 (Group presentation)	Group presentation & Peer evaluation	[Before class] Preparation for Speech 2 [After class] Preparation for Final exam
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語Ⅳ-(1)	単位	1
科目名（英語）	EnglishⅣ-(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3年（公共・人間形成）	開講時期	前期
担当教員	河本 恵美		
授業概要	この授業では、幅広い分野の英文記事（経済・科学技術・環境・健康・医療他）を取り上げ、現在の社会で起こっている様々な出来事に目を向け、内容を理解するよう取り組みます。授業目標は、1. 英字新聞に慣れ親しむ 2. 英字新聞を読むためのノウハウを身に付ける 3. 身の回りで起こっている出来事に興味を持つ という3点です。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を円滑に進め、またグループワークを取り入れるため、事前事後ま r 学習をしっかりとすることを必須とします。		
テキスト	Meet the World 2020 メディアで学ぶ日本と世界 2020 成美堂 2020年 2000円（税別）		
参考図書・教材等	授業内容に関連する資料を適宜配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	事前にメールでアポイントメントを取ってください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	語句・表現・読解力を身に付け、身の回りで起こっていることを自分なりの言葉で表現が出来る。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	グループワークを通して、クラスメートとのコミュニケーションを図ることが出来る。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
英字新聞を読む際に必要な文法や、語彙、基本表現を身に付け、少しずつ英字新聞に慣れていくことを目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
英字新聞を読むための基本的な語彙・表現を身に付け、少しずつ新聞記事に慣れていき、正確に内容を把握できることを目標とする。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
英字新聞を辞書無しで十分理解し、簡単に英語で要約が出来る。また、英字新聞やインターネット記事を抵抗感なく読むことが出来る。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
辞書を使って記事全体を把握し、様々なトピックスを正確に理解できる。	
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
英字新聞の簡単な情報を拾い読みが出来る。	
C : 60~69	到達目標を達成している。
英字新聞の簡単な語句や表現が理解でき、Headline (見出し) や Lead (前文) を理解することが出来る。	
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
英字新聞の基本的な語句や表現、文法を理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		20	20			100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)	◎	○	◎			
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)	◎	◎	◎			
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	授業内容の説明 Unit 1: 背景知識、専門用語	講義	Unit 1 のリーディングの語句と表現を予習する。
2	Unit 1: Japanese companies in rural areas facing difficulty in hiring graduates	・ Reading and Grammar ・ Group work	Unit 1 の練習問題と復習 Unit 2 の語句調べ
3	Unit 2: Foreign visitors go on record shopping spree	Reading and Group Work	Unit 2 の復習と練習問題
4	Unit 2: Foreign visitors go on record shopping spree	Checking the answers and site translation	Unit 2 の復習 Unit 3 の語句と文法調べ
5	Unit 3: Niigata rice exports to China start	Reading practice and "Questions & Answers"	Unit 3 の復習と練習問題
6	Unit 3: Niigata rice exports to China start	Reading and checking the answers in group	Unit 3 の復習 Unit 4 の語句・表現の予習
7	Unit 4: India plans manned space mission by 2021	Reading and Group Work	Unit 4 の復習と練習問題
8	Unit 4: India plans manned space mission by 2021	Reading and checking the answers in group and class	Unit 4 の復習 Unit 9 の Reading Section の予習
9	Unit 9: Study: Greenland ice melting tour-fold faster than decade ago	Reading and checking the words and phrases in group	Unit 9 の復習と練習問題

10	Unit 9: Study: Greenland ice melting tour-fold faster than decade ago	Reading and Checking the answers in group and class	Unit 9 の復習 Unit 5 の語句・表現・文法調べ
11	Unit 5: Saudi teenager 'under the care' of U.N. agency	Reading and practice	Unit 5 の復習と練習問題
12	Unit 5: Saudi teenager 'under the care' of U.N. agency 心肺蘇生と AED 基本表現	・ Checking the contents and answers in group and class ・ Lecture of CPR and AED	Unit 5 の復習
13	実践演習：心肺蘇生と AED	マネキンを使用した実践演習	Unit 8 の語句・表現・文法調べ
14	Unit 8: Japan to power fishing boats with Toyota's hydrogen fuel cells	Reading and vocabulary	Unit 8 の復習と練習問題
15	Unit 8: Japan to power fishing boats with Toyota's hydrogen fuel cells	Checking the contents and answers in group and class	前期試験準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習														○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	
その他（ ）																	
内容			少人数のグループに分かれて輪読や内容を確認し、発表をする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語IV-(1)	単位	1
科目名（英語）	EnglishIV-(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3年（社会福祉）	開講時期	前期
担当教員	河本 恵美		
授業概要	この授業は、社会福祉の学生を対象とし、福祉英語と一般英語である時事英語を取り入れています。テキストの内容は、福祉に関する幅広い話題を取り上げ、社会福祉士に必要な基本的な語句と表現を学びます。また同時に現在の社会で起こっている様々な出来事に目を向けるため、英字新聞を読み、視野を広げます。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を円滑に進め、またグループワークを取り入れるため、事前事後学習をしっかりとすることを必須とします。		
テキスト	English for Social Welfare – Communication Skills for College Students 福祉の英語 William M. Balsamo・阿部敏之著 金星堂 1,800（税別）		
参考図書・教材等	授業内容に関連する資料を適宜配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	事前にメールでアポイントメントを取ってください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	福祉の分野で使用される語句・表現・簡単な日常会話を身に付け、自分なりの言葉で表現をし、活用出来る。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	グループワークを通して、クラスメートとのコミュニケーションを図ることが出来る。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉の分野に必要な語句、基本表現を身に付け、各ユニットの英文を通して英語力を養い、それぞれの課題について理解を深めることを目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉の分野で使用される語句・基本表現に少しずつ慣れ、各ユニットの課題について英語で理解を深めることを目標とする。また、福祉の内容に留まらず、時事英語を取り入れることにより、現在の社会で起こっている様々な出来事にも目を向け、視野を広げることを目指す。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
福祉に関する内容の英文や英字新聞を辞書無しで十分理解し、簡単に英語で要約が出来る。また、福祉分野の英字新聞やインターネット記事を抵抗感なく読むことが出来る。	
A：80～89	履修目標を達成している。
辞書を使ってテキストの英文を把握し、様々なトピックスを正確に理解できる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
福祉英語や英字新聞の語句・基本表現を身に付け、情報の拾い読みが出来る。	
C：60～69	到達目標を達成している。
福祉英語や時事英語の簡単な語句や表現が理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
福祉英語や時事英語の基本的な語句や表現、文法を理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	10	20	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	◎	◎	○	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	◎	◎	◎	◎			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回）： 通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス 1. 専門用語、Warm-Up Dialog	講義 Checking the useful vocabulary and phrases	リーディングの語句、表現、文法を予習する。
2	1. Japan Still Behind in Accepting Physically Disabled People	Reading and checking the contents in group and class	1 課の復習と練習問題 2 課の語句・表現調べ
3	2. Crafts Help Disabled Win Independence 時事英語	Reading and Group work	2 課の復習と練習問題
4	2. Crafts Help Disabled Win Independence 時事英語	Reading and checking the answers in class	2 課の復習 3 課のリーディングの内容把握
5	3. Providing Care and Laughs for the Elderly	Reading and Group work	3 課の読みの練習と練習問題
6	3. Providing Care and Laughs for the Elderly	Reading and checking the answers in group and class	3 課の復習 4 課の語句、リーディングの内容把握
7	4. Medical Infor Just a Phone Call Away	Reading and Group work	4 課の復習と練習問題

8	4. Medical Infor Just a Phone Call Away 時事英語	Reading and checking the contents in class	4 課の復習 5 課のリーディングと英字新聞の下調べ
9	5. Program Allows Seniors to Utilize Videophones 時事英語	Reading and checking the answers in group and class	5 課の復習と練習問題
10	5. Program Allows Seniors to Utilize Videophones	Reading and checking the answers	5 課の復習 7 の予習 (語句・表現)
11	7. Discussion Is Necessary to Accept Nursing care Workers from Overseas	Reading and Group work	7 課のリーディングの復習と練習問題
12	7. Discussion Is Necessary to Accept Nursing care Workers from Overseas CPR and AED (心肺蘇生と AED 基本表現)	Reading and checking the answers in group and class	7 課と心肺蘇生、AED の基本表現の復習
13	実践演習：心肺蘇生と AED	マネキンを使用した実践演習	8 課の語句・表現・文法調べ
14	8. Electronic Pets to Help Monitor the Health of City's Elderly 時事英語	Reading and checking the useful expressions	8 課の復習と練習問題
15	8. Electronic Pets to Help Monitor the Health of City's Elderly	Reading and Group work	後期試験準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習												○	○				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			
その他 ()																	
内容	少人数のグループに分かれて輪読や内容を確認し、発表をする。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語IV-(2)	単位	1
科目名（英語）	EnglishIV-(2)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3年（公共・人間形成）	開講時期	後期
担当教員	河本 恵美		
授業概要	この授業では、幅広い分野の英文記事（経済・科学技術・環境・健康・医療他）を取り上げ、現在の社会で起こっている様々な出来事に目を向け、内容を理解するよう取り組みます。前期授業目標に加え、速読やサイトトランスレーションの訓練を取り入れ、個々の学生が英字新聞やインターネットのニュース記事を抵抗感なく読めることを目標とします。また、授業内でTOEICの練習問題にもチャレンジします。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を円滑に進め、またグループワークを取り入れるため、事前事後学習をしっかりとすることを必須とします。		
テキスト	Meet the World 2020 メディアで学ぶ日本と世界 2020 成美堂 2020年 2000円（税別）		
参考図書・教材等	授業内容に関連する資料を適宜配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	事前にメールでアポイントメントを取ってください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	語句・表現・読解力を身に付け、身の回りで起こっていることを自分なりの言葉で表現が出来る。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通して、クラスメートとのコミュニケーションを図ることが出来る。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
英字新聞を読む際に必要な文法や、語彙、基本表現を身に付け、英字新聞に慣れていくと同時に、国内外の様々なトピックスを学習することで視野を広げることを目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
英字新聞を読むための語句・基本表現を着実に身に付け、正確に内容を把握し、インターネットのニュース記事を抵抗感なく読めることを目標とする。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 英字新聞を辞書無しで十分理解し、簡単に英語で要約が出来る。また、英字新聞やインターネット記事を抵抗感なく読むことが出来る。
A：80～89	履修目標を達成している。 辞書を使って記事全体を把握し、様々なトピックスを正確に理解できる。また速読も達成できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 英字新聞の語句・基本表現を身に付け、情報の拾い読みが出来る。
C：60～69	到達目標を達成している。 英字新聞の簡単な語句や表現が理解でき、Headline（見出し）やLead（前文）を理解することが出来る。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 英字新聞の基本的な語句や表現、文法を理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60		20	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	◎		○	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	◎		◎	◎			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業内容の説明 Unit 11: 背景知識、専門用語	講義	Unit 11 のリーディングの語句と表現、文法を予習する。
2	Unit 11: Female birds prefer smarter partners	Reading and checking the contents in group and class	Unit 11 の復習と練習問題 Unit 12 の語句・表現調べ
3	Unit 12: Auto tech shifting focus to user experience TOEIC	Reading and Group work TOEIC 練習問題	Unit 12 の復習と練習問題
4	Unit 12: Auto tech shifting focus to user experience	Reading and checking the answers in class, site translation	Unit 12 の復習 Unit 14 のリーディングの内容把握
5	Unit 14: Conservation work on Tutankhamun tomb unveiled TOEIC	Reading and Group work TOEIC 練習問題	Unit 14 の読みの練習と練習問題
6	Unit 14: Conservation work on Tutankhamun tomb unveiled	Reading and checking the answers in group and class	Unit 14 の復習 Unit 16 のリーディングの内容把握
7	Unit 16: Students globally protest warming TOEIC	Reading and Group work TOEIC 練習問題	Unit 16 の復習と練習問題

8	Unit 16: Students globally protest warming	Reading and checking the answers in class	Unit 16 の復習 Unit 18 のリーディングの下調べ
9	Unit 18: Koikeya: creating potato chips with pioneer's pride TOEIC	Reading and checking the contents in group and class TOEIC 練習問題	Unit 18 の復習と練習問題
10	Unit 18: Koikeya: creating potato chips with pioneer's pride	Reading, checking the answers and site translation	Unit 18 の復習 Unit 13 の予習
11	Unit 13: Labor shortages force industry reforms TOEIC	Reading and Group work TOEIC 練習問題	Unit 13 のリーディングの復習と練習問題
12	Unit 13: Labor shortages force industry reforms	Reading and checking the answers in group and class	Unit 13 の復習 Unit 19 の予習
13	Watching Movie 1	ディズニー映画を鑑賞し、簡単な英語表現を学習。	Unit 19 の語句・表現・文法調べ
14	Watching Movie 2 Unit 19: What the latest dieting studies tell us	映画を鑑賞し、英語表現の聞き取り練習。	Unit 19 の復習と練習問題
15	Unit 19: What the latest dieting studies tell us	Reading and Group work	後期試験準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○		○	○	○	○	○				
その他()																			
内容				少人数のグループに分かれて輪読や内容を確認し、発表をする。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	英語IV-(2)		単位	1
科目名（英語）			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年（社会福祉）	開講時期	後期	
担当教員	河本 恵美			
授業概要	この授業は、社会福祉の学生を対象とし、福祉英語と一般英語である時事英語を取り入れています。前期に引き続き、福祉に関する幅広い話題を取り上げ、社会福祉士に必要な基本的な語句と表現を学びます。また同時に現在の社会で起こっている様々な出来事に目を向けるため、英字新聞を読み、視野を広げます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を円滑に進め、またグループワークを取り入れるため、事前学事後習をしっかりとすることを必須とします。			
テキスト	English for Social Welfare – Communication Skills for College Students 福祉の英語 William M. Balsamo・阿部敏之著 金星堂 1,800（税別） （前期の英語IV-(1)で使用した教科書と同じです。）			
参考図書・教材等	授業内容に関連する資料を適宜配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	事前にメールでアポイントメントを取ってください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	福祉の分野で使用される語句・表現・簡単な日常会話を身に付け、自分なりの言葉で表現をし、活用出来る。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	グループワークを通して、クラスメートとのコミュニケーションを図ることが出来る。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉の分野に必要な語句、基本表現を身に付け、各ユニットの英文を通して英語力を養い、それぞれの課題について理解を深めることを目標とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
前期で学習した内容を更に充実させ、各ユニットの課題について英語で理解を深めることを目標とする。また、福祉の内容に留まらず、時事英語を取り入れることにより、現在の社会で起こっている様々な出来事にも目を向け、視野を広げることを目指す。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	福祉に関する内容の英文や英字新聞を辞書無しで十分理解し、簡単に英語で要約が出来る。また、福祉分野の英字新聞やインターネット記事を抵抗感なく読むことが出来る。
A：80～89	履修目標を達成している。
	辞書を使ってテキストの英文を把握し、様々なトピックスを正確に理解できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	福祉英語や英字新聞の語句・基本表現を身に付け、情報の拾い読みが出来る。
C：60～69	到達目標を達成している。
	福祉英語や時事英語の簡単な語句や表現が理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	福祉英語や時事英語の基本的な語句や表現、文法を理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	10	20	20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎	◎	○	◎		
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	◎	◎	◎	◎		
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回）： 通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス 10. 専門用語、Warm-Up Dialog	講義 Checking the useful vocabulary and phrases	リーディングの語句、表現、文法を予習する。
2	10. Nursing Care Plan Creates Demand for Home Helpers	Reading and checking the contents in group and class	10 課の復習と練習問題 11 課の語句・表現調べ
3	11. Service Dogs Strive for Official Recognition amid Ignorance 時事英語	Reading and Group work	11 課の復習と練習問題 時事英語の予習（内容を把握）
4	11. Service Dogs Strive for Official Recognition amid Ignorance 時事英語	Reading and checking the answers in class, site translation	11 課の復習 12 課の語句、リーディングの内容把握
5	12. Baby-Sitter Exam Aims to Improve care	Reading and Group work	12 課の読みの練習と練習問題
6	12. Baby-Sitter Exam Aims to Improve care	Reading and checking the answers in group and class	12 課の復習 13 課の語句、リーディングの内容把握

7	13. Japan Braces for Life as Oldest Nation	Reading and Group work	13 課の復習と練習問題
8	13. Japan Braces for Life as Oldest Nation 時事英語	Reading and checking the contents in class	13 課の復習 14 課のリーディングと英字新聞の下 調べ
9	14. Ex-Nissan Chief Says Nation Is Ill- Prepared for an Aging Society 時事英語	Reading and checking the answers in group and class	14 課の復習と練習問題
10	14. Ex-Nissan Chief Says Nation Is Ill- Prepared for an Aging Society	Reading and checking the answers	14 課の復習
11	Watching Movie 1	ディズニー映画を鑑賞し、簡単な 英語表現を学習	15 課の予習（語句・表現）
12	Watching Movie 2 15. Simulated Patient Enables Risk-Free Medical Training	映画を鑑賞し、英語表現の聞き取 り練習	15 課と心肺蘇生、AED の基本表現の 復習
13	15. Simulated Patient Enables Risk-Free Medical Training 時事英語	マネキンを使用した実践演習	15 課の語句・表現・文法調べ
14	9. Training Program Planned to Prepare Volunteer Drivers for Elderly 時事英語	Reading and checking the useful expressions	9 課の復習と練習問題
15	9. Training Program Planned to Prepare Volunteer Drivers for Elderly	Reading and Group work	後期試験準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習											○	○					
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク その他（ ）		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○		
内容	少人数のグループに分かれて輪読や内容を確認し、発表をする。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	リーディングⅢ	単位	1
科目名（英語）	ReadingⅢ	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	4年	開講時期	後期
担当教員	小池 祐子		
授業概要	大学院入試を予定している学生や英語の読解力を強化したい学生を対象として、医療・健康に関する記事を読んでいく。同時に、英文読解に不可欠な語彙力、文法力を強化する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	Susumu Kondo, Gerald R. Gordon & Minoru Yoshioka 『Caregiver』 New Edition, Asahi Press, 2015, ¥1,900		
参考図書 ・教材等			
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Students can understand the main ideas of English articles related to their field of specialization and express themselves in English appropriately.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Students have good communication skills in a group discussion.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Students have good reading comprehension skills, a good vocabulary, and grammatical knowledge so that they can understand the main ideas of medical and health related articles in English.			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Students have good reading comprehension skills and a certain level of vocabulary and grammatical knowledge to understand medical and health related articles in English.			

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	30	30				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○	○				
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	Course introduction Unit 1: Summer Weight Gain	Introduction to course requirements, Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 1 [After class] Review: Class 1, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
2	Unit 1: Summer Weight Gain	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 1 [After class] Review: Class 2, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
3	Unit 2: Sugar in Danger	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 2 [After class] Review: Class 3, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
4	Unit 2: Sugar in Danger	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 2 [After class] Review: Class 4, Reading homework, Vocabulary quiz preparation

5	Unit 3: Adult Diapers Outsell Baby Diapers	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 3 [After class] Review: Class 5, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
6	Unit 3: Adult Diapers Outsell Baby Diapers	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 3 [After class] Review: Class 6, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
7	Unit 4: Medical Robots	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 4 [After class] Review: Class 7, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
8	Unit 4: Medical Robots	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 4 [After class] Review: Class 8, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
9	Unit 5: Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 5 [After class] Review: Class 9, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
10	Unit 5: Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 5 [After class] Review: Class 10, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
11	Unit 7: Keep Your Heart Moving	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 7 [After class] Review: Class 11, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
12	Unit 7: Keep Your Heart Moving	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 7 [After class] Review: Class 12, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
13	Unit 8: Teens Light Up E-Cigarettes	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 8 [After class] Review: Class 13, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
14	Unit 8: Teens Light Up E-Cigarettes	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 8 [After class] Review: Class 14, Reading homework, Vocabulary quiz preparation
15	Review	Reading Homework (due) Vocabulary Quiz Lecture & activities: Reading comprehension, Vocabulary	[Before class] Reading: Unit 8 [After class] Review: Class 1~15, Preparation for Final exam
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他 ()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	コリア語 I -(1)	単位	1
科目名（英語）	Korean I -(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	前期
担当教員	金 恩愛（キム・ウネ）		
授業概要	初めて韓国語を学ぶ者を対象として、文字と発音から始める。暗号のように見えたハングルが文字に見えてきた時の喜びを味わう。日本語以外のことば、日本から最も近い国、隣国韓国のことばで、自分を表現すること、他者を理解することの楽しさは、新たな体験となる。また、映画やドラマなどの映像を利用して韓国の文化についても触れる。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。		
テキスト	金恩愛(2013)『はじめて学ぶ韓国語入門会話』ことばの森		
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	自分の考えを平易な韓国語で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	韓国語で基本的なコミュニケーションを行うことができる。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
韓国の文字(ハングル)の習得と基本的な発音ルールと語彙の習得ができる。また、簡単な自己紹介や基本的な挨拶などよく使う韓国語が表現でき、初出のハングルについてもすらすら読める段階に達する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
韓国の文字(ハングル)の習得と基本的な発音ルールと語彙の習得ができる。また、簡単な自己紹介や基本的な挨拶などよく使う韓国語が表現できるようになる。			
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	韓国語とハングル	講義、発表	<p><事前学習> 学ぶ内容について、必ず事前に予習してください。予習段階で理解できない部分(説明)については、下線を引いておくこと。</p> <p><事後学習> 事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。復習の段階で理解できない内容や、よく分からないことについては、授業で(または授業の前後の時間に)お気軽に質問してください</p>
2	単母音	講義、発表	
3	半母音+単母音	講義、発表	
4	子音(鼻音、流音、平音)	講義、発表	
5	子音(激音、濃音)	講義、発表	
6	母音・子音の復習、二重母音	小テスト(1)、講義、発表	
7	終声(パッチム)	講義、発表	
8	終声(パッチム)	講義、発表	
9	終声(複パッチム)	講義、発表	
10	終声の復習、日本語のハングル表記	小テスト(2)、講義、発表	
11	発音のルール(有声音化、連音化)	講義、発表	
12	発音のルール(濃音化、[h]の弱化)	講義、発表	
13	発音のルール(激音化、鼻音化)	講義、発表	
14	発音規則の復習	小テスト(3)、講義、発表	

15	前期のまとめ	講義、発表
備考	進度は進み具合によって調整する場合があります。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（発表）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				習った内容(単語・フレーズ)を読む発表、覚えての発表など															

I. 科目情報

科目名（日本語）	コリア語 I -(2)	単位	1
科目名（英語）	Korean I -(2)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	後期
担当教員	金 恩愛（キム・ウネ）		
授業概要	コリア語 I -(1)の単位取得者を対象として、コリア語 I -(2)では、簡単な日常会話を学びながら基本的な文法事項を学習する。授業で学ぶ語句・表現を暗記すれば、韓国語で基本的なコミュニケーションがとれるようになる。また、映画やドラマなどの映像を利用して韓国の文化についても触れる。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。		
テキスト	金恩愛(2013)『はじめて学ぶ韓国語入門会話』ことばの森		
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を 生かした授業		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	自分の考えを平易な韓国語で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	韓国語で基本的なコミュニケーションを行うことができる。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
基本的な発音変化に慣れ、正しくすらすらよめるようになる。基本的な文法事項に関する正しい理解ができ、よく使う韓国語を中心に簡単な日常会話ができるようになる。さらに、自分で韓国語文が作れるようになる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
基本的な発音変化に慣れ、正しくすらすらよめるようになる。基本的な文法事項に関する正しい理解ができ、よく使う韓国語を中心に簡単な日常会話ができるようになる。			
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	30		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○		○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	場面で覚えよう	講義、発表	<p><事前学習> 学ぶ内容について、必ず事前に予習してください。予習段階で理解できない部分(説明)については、下線を引いておくこと。</p> <p><事後学習> 事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。復習の段階で理解できない内容や、よく分からないことについては、授業で(または授業の前後の時間に)お気軽に質問してください</p>
2	場面で覚えよう	講義、発表	
3	場面で覚えよう	講義、発表	
4	位置と方向	小テスト(1)、講義、発表	
5	漢数詞を覚えよう	講義、発表	
6	固有数詞を覚えよう	講義、発表	
7	人数を伝える	小テスト(2)、講義、発表	
8	会話を楽しもう(1)	講義、発表	
9	会話を楽しもう(2)	講義、発表	
10	会話を楽しもう(3)	講義、発表	
11	会話を楽しもう(4)	小テスト(3)、講義、発表	
12	会話を楽しもう(5)	講義、発表	
13	会話を楽しもう(6)	講義、発表	
14	後期のまとめ(1)	講義、読みの確認(1)	
15	後期のまとめ(2)	講義、読みの確認(2)	

備考	進度は進み具合によって調整する場合があります。
----	-------------------------

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ 発表 ）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				習った内容(単語・フレーズ)を読む発表、覚えての発表など															

I. 科目情報

科目名（日本語）	コリア語Ⅱ-(1)	単位	1
科目名（英語）	KoreanⅡ-(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	金 恩愛（キム・ウネ）		
授業概要	コリア語Ⅰ-(2)の単位取得者を対象とし、コリア語Ⅱ-(1)では日常会話などに役立つ単語やフレーズの取得を目標とする。例文を通してたくさんの単語を覚えていく過程で、自然に文法事項への理解も深まる。また、歌や映画などを通して、韓国文化についても学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。		
テキスト	金恩愛(2015)『テーマで学ぶ韓国語初級会話(改訂版)』ことばの森		
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自分の考えを平易な韓国語で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	韓国語で基本的なコミュニケーションを行うことができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、基本的な用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。初出の長い韓国語文章についてもすらすら読める段階に達する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、基本的な用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	30		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○		○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	第1課:自己紹介をお願いします(1)	講義、発表	<p><事前学習> 学ぶ内容について、必ず事前に予習してください。予習段階で理解できない部分(説明)については、下線を引いておくこと。</p> <p><事後学習> 事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。復習の段階で理解できない内容や、よく分からないことについては、授業で(または授業の前後の時間に)お気軽に質問してください</p>
2	第1課:自己紹介をお願いします(2)	講義、発表	
3	第2課:好きな食べ物は何ですか(1)	講義、発表	
4	第2課:好きな食べ物は何ですか(2)	講義、発表	
5	第3課:趣味について(1)	講義、発表	
6	第3課:趣味について(2)	講義、発表	
7	文化で学ぶ韓国語(1)	講義、小テスト(1)	
8	文化で学ぶ韓国語(2)	講義、小テスト(2)	
9	第4課:今日はアルバイトがあります(1)	講義、発表	
10	第4課:今日はアルバイトがあります(2)	講義、発表	
11	第5課:韓国語は難しいけれど、面白いです(1)	講義、発表	
12	第5課:韓国語は難しいけれど、面白いです(2)	講義、発表	
13	前期のまとめ	講義、小テスト(3)	

14	口頭発表	講義、読みの確認
15	口頭発表	講義、読みの確認
備考	進度は進み具合によって調整する場合があります。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ 発表 ）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				習った内容(単語・フレーズ)を読む発表、覚えての発表など															

I. 科目情報

科目名（日本語）	コリア語Ⅱ-(2)	単位	1
科目名（英語）	KoreanⅡ-(2)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	金 恩愛（キム・ウネ）		
授業概要	コリア語Ⅱ-(1)の単位取得者を対象とし、コリア語Ⅱ-(2)では前期に引き続き、例文を通じた韓国語の習得を目指す。例文を通してたくさんの単語を覚えていく過程で、自然に文法事項への理解も深まる。また、歌や映画などを通して、韓国文化についても学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。		
テキスト	金恩愛(2015)『テーマで学ぶ韓国語初級会話(改訂版)』ことばの森		
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	韓国語で基本的なコミュニケーションを行うことができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、基本的な用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。初出の長い韓国語文章についてもすらすら読める段階に達する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、基本的な用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	30		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○		○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	第 6 課 : 韓国語は難しいけれど、面白いです (1)	講義、発表	<p><事前学習> 学ぶ内容について、必ず事前に予習してください。予習段階で理解できない部分(説明)については、下線を引いておくこと。</p> <p><事後学習> 事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。復習の段階で理解できない内容や、よく分からないことについては、授業で(または授業の前後の時間に)お気軽に質問してください</p>
2	第 6 課 : 韓国語は難しいけれど、面白いです (2)	講義、発表	
3	第 7 課 : 私の故郷は福岡です (1)	講義、発表	
4	第 7 課 : 私の故郷は福岡です (2)	講義、発表	
5	第 8 課 : どの国の人ですか(1)	講義、発表	
6	第 8 課 : どの国の人ですか(2)	講義、発表	
7	文化で学ぶ韓国語(1)	講義、小テスト(1)	
8	文化で学ぶ韓国語(2)	講義、小テスト(2)	
9	第 9 課 : 何が食べたいですか (1)	講義、発表	
10	第 9 課 : 何が食べたいですか (2)	講義、発表	
11	第 10 課 : 木曜日の午後、お時間ありますか(1)	講義、発表	
12	第 10 課 : 木曜日の午後、お時間ありますか(2)	講義、発表	
13	後期のまとめ	講義、小テスト(3)	

14	口頭発表	講義、読みの確認
15	口頭発表	講義、読みの確認
備考	進度は進み具合によって調整する場合があります。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ 発表 ）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				習った内容(単語・フレーズ)を読む発表、覚えての発表など															

I. 科目情報

科目名 (日本語)	コリア語Ⅲ-(1)	単位	1
科目名 (英語)	KoreanⅢ-(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	前期
担当教員	金 恩愛 (キム・ウネ)		
授業概要	コリア語Ⅱ-(2)の単位取得者を対象とし、日常会話を中心としながら、韓国語で書かれた様々なジャンルの文章を読むことにより読解力を養う。また、韓国語検定試験の問題などを解いてみることで、客観的に自分の韓国語のレベルを確認する。さらに、映画鑑賞を通して、映画の中の韓国語(単語・フレーズ)についても学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。		
テキスト	金恩愛(2015)『テーマで学ぶ韓国語初級会話(改訂版)』ことばの森		
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	自分の考えを平易な韓国語で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	韓国語で基本的なコミュニケーションを行うことができる。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、頻度の高い用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。様々なジャンルの韓国語もすらすら読めすらすら読めて、ある程度理解できる段階に達する。。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、頻度の高い用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。			
成績評価の基準			
S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。			
A : 80~89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	30		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○		○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	第11課:鈴木さんの夢は何ですか(1)	講義、発表	<事前学習> 学ぶ内容について、必ず事前に予習してください。予習段階で理解できない部分(説明)については、下線を引いておくこと。 <事後学習> 事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。復習の段階で理解できない内容や、よく分からないことについては、授業で(または授業の前後の時間に)お気軽に質問してください
2	第11課:鈴木さんの夢は何ですか(2)	講義、発表	
3	第12課:ちょっと頭が痛いです(1)	講義、発表	
4	第12課:ちょっと頭が痛いです(2)	講義、発表	
5	第13課:2泊3日で韓国旅行に行きます(1)	講義、発表	
6	第13課:2泊3日で韓国旅行に行きます(2)	講義、発表	
7	映画で学ぶ韓国語(1)	講義、小テスト(1)	
8	映画で学ぶ韓国語(2)	講義、小テスト(2)	
9	第14課:飛行機で釜山までどのくらいかかりますか(1)	講義、発表	
10	第14課:飛行機で釜山までどのくらいかかりますか(2)	講義、発表	
11	第15課:これ、いくらですか(1)	講義、発表	
12	第15課:これ、いくらですか(2)	講義、発表	

13	前期のまとめ	講義、小テスト(3)
14	口頭発表	講義、読みの確認
15	口頭発表	講義、読みの確認
備考	進度は進み具合によって調整する場合があります。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（発表）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容		習った韓国語(単語・フレーズ)を覚えての発表。自分で作成した韓国語の発表。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	コリア語Ⅲ-(2)	単位	1
科目名（英語）	KoreanⅢ-(2)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期
担当教員	金 恩愛（キム・ウネ）		
授業概要	コリア語Ⅲ-(1)の単位取得者を対象とし、日常会話を中心としながら、韓国語で書かれた様々なジャンルの文章を読むことにより読解力を養う。また、韓国語検定試験の問題などを解いてみることで、客観的に自分の韓国語のレベルを確認する。さらに、映画鑑賞を通して、映画の中の韓国語(単語・フレーズ)についても学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的かつ積極的に授業に参加すること。		
テキスト			
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を 生かした授業			授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	自分の考えを平易な韓国語で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	韓国語で基本的なコミュニケーションを行うことができる。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、頻度の高い用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。様々なジャンルの韓国語もすらすら読めて、ある程度理解できる段階に達する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。また、頻度の高い用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	30		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○		○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○		○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	第16課:鈴木さんの夢は何ですか(1)	講義、発表	<事前学習> 学ぶ内容について、必ず事前に予習してください。予習段階で理解できない部分(説明)については、下線を引いておくこと。 <事後学習> 事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。復習の段階で理解できない内容や、よく分からないことについては、授業で(または授業の前後の時間に)お気軽に質問してください
2	第16課:鈴木さんの夢は何ですか(2)	講義、発表	
3	第17課:お誕生日おめでとうございます(1)	講義、発表	
4	第17課:お誕生日おめでとうございます(2)	講義、発表	
5	第18課:私の家族を紹介します(1)	講義、発表	
6	第18課:私の家族を紹介します(2)	講義、発表	
7	映画で学ぶ韓国語(1)	講義、小テスト(1)	
8	映画で学ぶ韓国語(2)	講義、小テスト(2)	
9	第19課:どの季節が好きですか(1)	講義、発表	
10	第19課:どの季節が好きですか(2)	講義、発表	
11	第20課:週末は何をしましたか(1)	講義、発表	
12	第20課:週末は何をしましたか 第15課:これ、いくらです	講義、発表	

	か(2)	
13	前期のまとめ	講義、小テスト(3)
14	口頭発表	講義、読みの確認
15	口頭発表	講義、読みの確認
備考	進度は進み具合によって調整する場合があります。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（発表）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				習った韓国語(単語・フレーズ)を覚えての発表。自分で作成した韓国語の発表。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国語Ⅰ-(1)		単位	1
科目名（英語）	ChineseⅠ-(1)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1	開講時期	前期	
担当教員	陸麗君			
授業概要	<p>発音と会話を中心に中国語の基礎知識を身につけるようにする。学生の能動性を引き出すように会話を中心に授業を進める。まずは中国語のピンインを十分に理解し、かつ正確に発音できるように、正しい発音を聴き、繰り返し練習する。次に教科書第1課から第3課までの内容を学び、簡単なあいさつ・日常会話などの表現をはじめ、中国語で初歩的なコミュニケーションができるようになる。</p> <p>中国社会や文化に関する知識なども適宜に紹介する。</p> <p>授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業に積極的に参加すること。大きな声で発音練習ができること。			
テキスト	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐著 『好きです♥中国語（文法編）』一〇〇〇，我〇你！一 朝日出版社 2019年			
参考図書 ・教材等	授業中に適宜配布する			
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	中国語のピンインができる。中国語の基本的な構文を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	中国語を用いて簡単なあいさつができる。習った言葉で日常のことを表現できる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
中国語を用いて簡単なコミュニケーションができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本文法と会話の習得ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション (授業の進め方や評価基準の提示など)、中国、中国語についての紹介。 中国語のピンインの導入。	講義と演習	習ったピンインの発音練習をしっかりと行う。 該当する内容の音声をしっかりと聞いて、練習する。
2	四声、単母音、複合母音の発音練習。	講義と演習	習ったピンインの発音練習をしっかりと行う。 該当する内容の音声をしっかりと聞いて、練習する。
3	四声、鼻母音、子音の発音練習	講義と演習	習ったピンインの発音練習をしっかりと行う。 該当する内容の音声をしっかりと聞いて、練習する。
4	四声、母音、子音の発音練習、簡単なあいさつ。 聞き取りの練習	演習	習ったピンインの発音練習をしっかりと行う。 該当する内容の音声をしっかりと聞いて、練習する。
5	第1課: 人称代名詞、動詞「是」の使副詞「也」と「都」の使い方	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 該当する音声をしっかりと聞いて、練習する。

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国語Ⅰ - (2)		単位	1
科目名（英語）	Chinese I -(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1	開講時期	後期	
担当教員	陸麗君			
授業概要	中国語Ⅰ - (1) の単位取得者を対象に、会話を中心に、教科書の第4課から第6課を勉強し、中国語能力をさらに向上させていく。そして、中国に関する知識なども適宜に紹介する。授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業に積極的に参加すること。大きな声で発音練習ができること。			
テキスト	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐著 『好きです♥中国語（文法編）』一〇〇〇，我〇你！一 朝日出版社 2019年			
参考図書・教材等	授業中に適宜配布する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	中国語のピンインができる。中国語構文と文法が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	中国語を用いて簡単なあいさつができる。習った言葉で基本的なコミュニケーションができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
日常のあいさつができる。中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
中国語のピンインができる。中国語の基本文法と会話の習得ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	20	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○	○				
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション (授業の進め方や評価基準の提示など) 第 4 課の導入	講義	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
2	4 課の内容である指示代名詞、所有や存在を表す文、短縮疑問文の使い方についての学習	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
3	副詞「有点儿」の学習、第 4 課の文法の演習、第 4 課のドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
4	第 4 課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
5	第 4 課の小テキスト。第 5 課の内容である選択疑問文、動作の実現を表す「了」の使い方について学習	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
6	第 5 課の反復疑問文と動詞「喜欢」の使い方を学習。	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。

7	第5課の文法の演習 第5課のドリル	演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
8	第5課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
9	第5課の小テスト。 第6課の導入。存在を表す「在」の使い方の学習	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
10	介詞「在」と「給」の使い方、変化を表す「了」、年齢の言い方などの表現について学ぶ	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
11	第6課の文法の演習 第6課のドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
12	第6課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
13	第6課の小テスト 中国関連の映像鑑賞	演習と映像鑑賞	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する内容の音声をしっかり聞いて、練習する。
14	前回鑑賞した映像について討論 これまで習った内容を復習する	グループ・ディスカッション 演習	鑑賞した映像についての調べと整理 全体の復習
15	これまで習った内容を復習する。間違いやすい問題のまとめと復習	演習	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○				○				○		○	
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国語Ⅱ-(1)	単位	1
科目名（英語）	ChineseⅡ-(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2	開講時期	前期
担当教員	陸麗君		
授業概要	中国語Ⅰ-(2)の単位取得者を対象に、教科書の第7課から第9課までの内容を勉強する。中国語の基本的な構文、名詞、形容詞、動詞の使い方、慣用語などを習得し、会話力と読解力の向上を目指す。 また、中国社会や文化に関する知識なども適宜に紹介する。 授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業に積極的に参加すること。大きな声で発音練習ができること。		
テキスト	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐著 『好きです♥中国語（文法編）』一迅社、我々！一朝日出版社 2019年（一年次で使用した教科書が使える）		
参考図書・教材等	授業中に適宜配布する		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本的な構文と慣用語を使うことができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本文法が理解でき、簡単なあいさつができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	20	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○	○				
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(授業の進め方や評価基準の提示など)、第7課の導入。「几、多少」、助動詞「想」の使い方を学習	講義	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
2	第7課の動詞が複数ある文、方法を尋ねる「怎么」の使い方を学習	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
3	第7課の文法の演習、第7課のドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
4	第7課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
5	第7課の小テスト。第8課の導入。助動詞「能」「会」(1)の使い方について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。

6	「能」と「会」の使い方を引き続き練習。主述述語文、動作の進行を表す文について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
7	第8課の文法の練習とドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
8	第8課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
9	第8課の小テスト 第9課の導入。「请」を使った依頼表現の使い方について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
10	第9課の助動詞「会(2)」、「是…的」、「一下」の使い方について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
11	第9課の文法の練習とドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
12	第9課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
13	第9課の小テスト 中国関係の映像鑑賞	演習と映像鑑賞	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
14	前回鑑賞した映像について討論 これまでの内容の復習と習った言葉で会話練習。	グループ・ディスカッション 演習	鑑賞した映像についての調べと整理 全体の復習
15	全体の復習	講義と演習	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○				○				○		○			
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国語Ⅱ-(2)		単位	1
科目名（英語）	ChineseⅡ-(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	陸麗君			
授業概要	<p>中国語Ⅱ-(1)の単位取得者を対象に、教科書の第10課から第12課までの内容を勉強する。中国語の基本的な構文、名詞、形容詞、動詞の使い方、慣用語をさらに習得し、会話力と読解力の向上を目指す。</p> <p>中国語検定試験のHSKの紹介と模擬テストを行う。</p> <p>また、中国社会や文化に関する知識なども適宜に紹介する。</p> <p>授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業に積極的に参加すること。大きな声で発音練習ができること。			
テキスト	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐著 『好きです♥中国語（文法編）』一汉语，我爱你！—朝日出版社 2019年（(一年次で使用した教科書が使える）			
参考図書・教材等	授業中に適宜配布する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本的な構文と慣用語を使うことができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本文法が理解でき、簡単なあいさつができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	20	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○	○				
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション(授業の進め方や評価基準の提示など)、第 10 課の導入。禁止の表現、介詞の「从」の使い方について	講義	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
2	経験を表す「过」、原因・理由を尋ねる「怎么」の使い方について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
3	第 10 課の文法の演習、第 10 課のドリル	演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
4	第 10 課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
5	第 10 課の小テスト。第 11 課の導入。介詞「对」、「离」の使い方についての勉強	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国語Ⅲ-(1)		単位	1
科目名（英語）	ChineseⅢ-(1)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3	開講時期	前期	
担当教員				
授業概要	中国語Ⅱ-(2)の単位取得者を対象に、第13課から第15課まで勉強する。初級レベルから中級レベルへのステップとして中国語の文法、慣用語の表現をさらに学習していく。また、中国社会や文化に関する知識なども紹介する。授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業に積極的に参加すること。大きな声で発音練習ができること。			
テキスト	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐著 『好きです♥中国語（文法編）』一〇〇〇，我〇你！—朝日出版社 2019年（二年度で使用した教科書が使える）			
参考図書・教材等	授業中に適宜配布する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本的な構文と慣用語を使うことができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	中国語で自らの意見・考えを簡単に伝えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の中級レベルの文法が理解でき。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション (授業の進め方や評価基準の提示など)、第13課の導入	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
2	第13課の使役文、因果関係、接続詞、介詞の使い方の理解と活用	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
3	第13課の文法の演習、第13課のドリル	演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
4	第13課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
5	第13課の小テスト 第14課の導入	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
6	第14課の結果補語、様態補語、逆説を表す構文などの理解と活用	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。

7	第 14 課の文法の演習、第 14 課のドリル	演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
8	第 14 課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
9	第 14 課の小テスト 第 15 課の導入	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
10	第 15 課の状態の持続を表す「着」、可能性を表す「可能」否定疑問文、副詞「就」の理解と活用	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
11	第 15 課の文法の演習、第 15 課のドリル	演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
12	第 15 課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
13	第 15 課の小テスト HSK の演習問題と模擬テスト	講義と演習	配布した HSK の単語の学習。 HSK の演習問題の不明な点などを整理しておく。
14	HSK 模擬テストの答え合わせ	講義	HSK の演習問題を含む全体の復習。
15	全体の復習	講義と演習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○				○				○			
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	中国語Ⅲ-(2)		単位	1
科目名（英語）	ChineseⅢ-(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3	開講時期	後期	
担当教員	陸麗君			
授業概要	中国Ⅲ-(1)の単位取得者を対象に、教科書の第16課から第18課まで勉強する。初級レベルから中級レベルへのステップとして中国語の文法、慣用語の表現をさらに習い、中国語のレベル向上を目指す。 また、中国語検定試験のHSKの紹介と模擬テストを行う。 授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容の調整を行うこともある。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業に積極的に参加すること。大きな声で会話練習ができること。			
テキスト	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐著 『好きです♥中国語（文法編）』一〇〇〇，我〇你！一 朝日出版社 2019年（二年次で使用した教科書が使える）			
参考図書 ・教材等	授業中に適宜配布する			
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	質問があれば、授業時とオフィス・アワーで対応する。気軽に質問してください。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の基本的な構文と慣用語を使うことができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	中国語を用いて自らの意見・考えを簡単に伝えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 中国語を用いて基本的なコミュニケーションができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 中国語のローマ字表記（ピンイン）と発音ができる。中国語の中級レベルの文法が理解できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	20	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○	○				
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション（授業の進め方や評価基準の提示など） 第 16 課の導入。方向補語の使い方	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
2	存現文、仮定を表す構文、介詞「为」と「为了」の使い方	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
3	第 16 課の文法の演習、第 16 課のドリル	演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
4	第 16 課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
5	第 16 課の小テスト 第 17 課の導入。処置式文について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
6	除外・補充を表す構文、越～越…の構文、副詞「才」の使い方について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。

7	第 17 課の文法の演習、第 17 課のドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
8	第 17 課の会話練習	グループ・ワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
9	第 17 課の小テスト 第 18 課の導入。可能補語について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
10	仮定を表す構文、又～又…の構文、動詞「祝」の使い方について	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
11	第 18 課の文法の演習、第 18 課のドリル	講義と演習	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
12	第 18 課の会話練習	グループワーク	授業で習った単語と文を必ず覚えておく。 授業内容の該当する音声を繰り返し聞いて、練習する。
13	第 18 課の小テスト HSK の演習	演習	配布した HSK の単語の学習。 HSK の演習問題の不明な点などを整理しておく。
14	HSK 模擬テスト HSK 模擬テストの答え合わせ	演習	HSK の演習問題を含む全体の復習。
15	全体の復習	講義	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○				○				○						
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	仏語Ⅰ-(1)		単位	1
科目名（英語）	FrenchⅠ-(1)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	田 中 真 理			
授業概要	初級文法の学習を第一の目標とするが、同時に視聴覚教材を活用し、実践的に読む・聞く・話す・文を書く、それぞれの力をバランスよく養っていく。また、日本とフランス両国の比較などを通して、文化や社会の理解に努める。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	藤田祐二 著 Pascal au Japon 白水社 必携書：仏日辞書			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	授業の内容に関して：授業中はその場で質問、または授業後教室内で質問に来るか名前を明記したメモなど(メモには後日回答)			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	教科書に収録されている文や単語は正しく発音でき、意味も分かる、というレベルまで練習する。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	既習の文を使って教室の中で実践的に相手に質問したり、質問に答えたりできることを目指す
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
初級文法の完全理解の上、覚えた単語や文型を使ってみずから表現できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
単語と定型文を正しい発音と共に記憶する。初級文法の概要を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50	40				10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○			○	
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	0課 フランス語・フランス文化を知る:発音など	演習/単語を発音するなど	付属CDを聞く。予習復習は必ず行う。
2	1課 国籍を言う	演習/文法学習(練習問題を含む) 会話文の理解・発音練習	同上
3	2課 名前・職業を言う	演習/同上	同上
4	0-2課の補足	演習/同上	同上
5	3課 持ち物を尋ねる	演習/同上	同上
6	4課 趣味を語る	演習/同上	同上
7	1-4課の総復習	演習/同上	必ず予め問題を解き予習しておく
8	5課 誰なのか尋ねる	演習/同上	付属CDを聞く。予習復習は必ず行う。
9	6課 したいことを尋ねる	演習/同上	同上
10	5-6課 補足	演習/同上	同上
11	7課 住んでいる所を言う	演習/同上	同上
12	8課 何をしているのか尋ねる	演習/同上	同上

13	5 - 8 課の総復習	演習/同上	必ず予め問題を解き予習しておく
14	9 課 家族を語る	演習/同上	同上
15	1 - 9 課の総復習	演習/同上	理解できないことを残さない努力
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	仏語Ⅰ-(2)		単位	1
科目名（英語）	FrenchⅠ-(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	田中真理			
授業概要	前期と同じ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	仏語Ⅰ-(1)と同じ			
テキスト	テキスト：仏語Ⅰ-(1)のテキストを引き続き使用する		仏日辞書は必携	
参考図書・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	C Dを活用するなどして、聞き取りや発音の能力を強化する。文を、意味を理解しつつ暗唱することを通して、自然に構文が身につくレベルまで努力する。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	既習の文をベースに簡単な作文や会話が出来ることを目指す。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
中級レベルの文法項目を十分に理解し、正しい発音でフランス語で発話できることを目指す。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
前期と同じ。単語や定型文を正しい発音とともに記憶する。初級文法を把握する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50	40				10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○			○	
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	10 課 年齢を言う	仏語 I - (1) と同じ。以下すべて同様。	仏語 I - (1) と同じ
2	11 課 時刻を言う		
3	9 - 11 課の総復習		
4	12 課 紹介する		
5	13 課 日常生活の表現		
6	12 - 13 課 補足		
7	14 課 量を表す		
8	15 課 天候を言う		
9	12 - 15 課の総復習		
10	16 課 比較する		
11	17 課 過去のことを言う		
12	17 課 続き		
13	18 課 未来のことを言う		
14	16 - 18 課の総復習		

15	後期学習範囲の復習	まとめ	自分で予め復習して臨む。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	仏語Ⅱ-(1)		単位	1
科目名（英語）	FrenchⅡ-(1)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	山本和道			
授業概要	プリントを使って、フランス語基礎文法の学習を続ける。それが終わったら、現代フランスを説明している文章『時事フランス語』を講読する。練習問題にも取り組み、フランス語の仕組みを習得する。なお、一年次に学習したことの復習も行うので、一年次に使用した教科書も持参すること。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	『時事フランス語 2020年版』、石井洋二郎他、朝日出版社			
参考図書・教材等	仏語Ⅰで使用した教科書			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	分からないことがあったら、授業中でも良いし授業後でも良いので、質問をすること。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	仏語を組み立てている法則の概要を修得すること。読み、書き、聞き、話すという、フランス語の総合的運用能力を可能にする、基礎的なフランス語の力を身に付けること。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	現代フランスについて語っている文章を講読して、仏語の文章を読む力を付けるとともに、現代フランス社会の諸相を知る者となること。フランスと比較して、日本、日本文化について語ることができること。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
仏語基礎文法を習得し、それを使って、現代フランスを紹介する、フランス語の文章を読み、理解すること。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
仏語基礎文法を習得し、フランス語の文章を読解し、自分の考えをフランス語で語ること。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	80	10				10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○			○	
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	フランス語基礎文法(1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
2	フランス語基礎文法(2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
3	フランス語基礎文法(3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
4	フランス語基礎文法(4)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
5	フランス語基礎文法(5)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
6	フランス語基礎文法(6)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
7	フランスの標語 (1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
8	フランスの標語 (2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
9	フランスの標語 (3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
10	2020年には観光客1億人? (1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
11	2020年には観光客1億人? (2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。

12	2020 年には観光客 1 億人? (3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
13	働き過ぎてはいけない (1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
14	働き過ぎてはいけない (2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
15	働き過ぎてはいけない (3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	仏語Ⅱ-(2)		単位	1
科目名（英語）	French Ⅱ-(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	山本和道			
授業概要	現代フランスを説明している文章『時事フランス語』を講読する。練習問題にも取り組み、フランス語の仕組みを習得する。なお、一年次に学習したことの復習も行うので、一年次に使用した教科書も持参すること。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	『時事フランス語 2020年版』、石井洋二郎他、朝日出版社			
参考図書・教材等	仏語Ⅰで使用した教科書			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	分からないことがあったら、授業中でも良いし授業後でも良いので、質問をすること。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	仏語を組み立てている法則の概要を修得すること。読み、書き、聞き、話すという、フランス語の総合的運用能力を可能にする、基礎的なフランス語の力を身に付けること。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	現代フランスについて語っている文章を講読して、仏語の文章を読む力を付けるとともに、現代フランス社会の諸相を知る者となること。フランスと比較して、日本、日本文化について語ることができること。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
仏語基礎文法を習得し、それを使って、現代フランスを紹介する、フランス語の文章を読み、理解すること。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
仏語基礎文法を習得し、フランス語の文章を読解し、自分の考えをフランス語で語ること。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		80	10				10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○	○				○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	○	○				○	
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	自由の女神(1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
2	自由の女神(2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
3	自由の女神(3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
4	人種差別(1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
5	人種差別(2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
6	人種差別(3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
7	2020年東京オリンピック(1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
8	2020年東京オリンピック(2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
9	2020年東京オリンピック(3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
10	ショパンとフランス(1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
11	ショパンとフランス(2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。

12	(ショパンとフランス 3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
13	新しい綴り字(1)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
14	新しい綴り字(2)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
15	新しい綴り字(3)	演習/練習問題、講読	辞書を引く・暗記する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	独語Ⅰ-(1)	単位	1
科目名（英語）	GermanⅠ-(1)	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	前期
担当教員	古賀正之		
授業概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	佐藤修子・下田恭子・岡崎朝美「新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」三修社 2017年（教科書は必要、辞書や参考書は不要）		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
上記 (DP4)の項目を参照。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
上記 (DP7)の項目を参照。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		40	20	10	20		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	◎	○	○	○		○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	◎	○	○	○		○	
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して「授業内評価点」(60%)として評価されます。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ドイツ語で挨拶ができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
2	ドイツ語で自己紹介ができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
3	他人の情報(名前、出身、年齢)を尋ねることができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
4	主語に合わせて動詞の語尾を正しく変化できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
5	du と Sie の違いを理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
6	不規則変化動詞の変化を覚	演習/パートナー練習と役割演技	基本表現・語彙の発音と意味を確認

	える。	学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
7	自分の趣味について語る ことができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
8	趣味について尋ねることが できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
9	補足疑問文と決定疑問文の 違いを理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
10	否定疑問文に答えられるよ うになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
11	分離動詞の成り立ちと使い 方を理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
12	一日の予定を表現できるよ うになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
13	一週間の予定を表現できる ようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
14	時刻・日付表現を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
15	人に何かを頼む表現・助言す る表現を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				毎時間、学生同士がペアを組んで対話をしながら表現を覚え、実際に演じてもらいます。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	独語Ⅰ-(2)		単位	1
科目名（英語）	GermanⅠ-(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	古賀正之			
授業概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	佐藤修子・下田恭子・岡崎朝美「新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」三修社 2017年（教科書は必要、辞書や参考書は不要）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
上記 (DP4)の項目を参照。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
上記 (DP7)の項目を参照。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		40	20	10	20		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	◎	○	○	○		○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)	◎	○	○	○		○	
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して「授業内評価点」(60%)として評価されます。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	名詞に性の区別があることを理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
2	名詞の性に応じた冠詞(1・4格)をつけて表現できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
3	人称代名詞の性による使い分けを理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
4	大きさや重さなどの形容詞を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
5	複数形の種類と作り方を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
6	話法の助動詞の変化と使い	演習/パートナー練習と役割演技	基本表現・語彙の発音と意味を確認

	方を理解する。	学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
7	話法の助動詞を使って、可能・禁止などを表現できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
8	店で簡単な買い物（値段を聞く、要望を伝える）ができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
9	定冠詞類「どの」(welcher) や「この」(dieser) が使えるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
10	指示代名詞の変化と使い方を理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
11	不定代名詞 man の用法を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
12	形式上の主語 es を含む表現を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
13	家族用語を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
14	職業名を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
15	性格や体形等を表現する形容詞を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容				毎時間、学生同士がペアを組んで対話をしながら表現を覚え、実際に演じてもらいます。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	独語Ⅱ-(1)		単位	1
科目名（英語）	GermanⅡ-(1)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	古賀正之			
授業概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	昨年度の独語Ⅰの教科書を継続使用します。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
上記 (DP4)の項目を参照。			
上記 (DP7)の項目を参照。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	40	20	10	20		10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎	○	○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	◎	○	○	○	○	
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して「授業内評価点」(60%)として評価されます。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	所有冠詞の1格、3格、4格の形と使い方を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
2	人称代名詞の3格の形と使い方を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
3	否定詞 nicht と否定冠詞 kein の区別ができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
4	性格や体型等を表現する形容詞を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
5	主文・副文の用法を理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
6	従属接続詞と接続詞的副詞の使い方を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)

7	前置詞の格支配について理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
8	3格・4格支配の前置詞の使い分けを覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
9	行き先・場所による前置詞の使い分けを学習する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
10	動詞の3基本形について理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
11	過去のことを表現できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
12	現在完了形の作り方と用法を覚える（1）。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
13	現在完了形の作り方と用法を覚える（2）。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
14	完了の助動詞 sein と組み合わせる動詞を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
15	今学期の授業の総まとめ。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク その他（ ）																		
内容	毎時間、学生同士がペアを組んで対話しながら表現を覚え、実際に演じてもらいます。																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	独語Ⅱ-(2)		単位	1
科目名（英語）	GermanⅡ-(2)		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	古賀正之			
授業概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	昨年度の独語Ⅰの教科書を継続使用します。			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
上記 (DP4)の項目を参照。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
上記 (DP7)の項目を参照。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	40	20	10	20		10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	◎	○	○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)	◎	○	○	○	○	
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して「授業内評価点」(60%)として評価されます。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	過去のことを表現できるようになる。(前学期の復習)	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
2	現在完了形の作り方と用法を覚える。(前学期の復習)	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
3	過去形の作り方と用法を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
4	過去形と現在完了形の用法を区別できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
5	sein/haben/話法の助動詞の過去形を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)
6	旅行先を表現する際に用いる前置詞を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成(事前) 小テスト・提出課題の復習(事後)

7	ホテルの部屋を予約できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
8	駅で切符を買うことができるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
9	天気表現を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
10	受動態の作り方と用法を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
11	形容詞の比較級の作り方と用法を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
12	形容詞の最上級の作り方と用法を覚える。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
13	形容詞の付加語的用法について理解する。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
14	店で品物の色、サイズ、価格などを比較できるようになる。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
15	今学期の授業の総まとめ。	演習/パートナー練習と役割演技 学生発表への助言と指導 小テスト・提出課題の評価と解説	基本表現・語彙の発音と意味を確認 提出課題の作成（事前） 小テスト・提出課題の復習（事後）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容	毎時間、学生同士がペアを組んで対話をしながら表現を覚え、実際に演じてもらいます。																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	海外語学実習事前指導		単位	1
科目名（英語）	UK Study Abroad Programme Orientation		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	人社1~4年・看護1~4年	開講時期	前期集中	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	This is an intensive preparation course for all students participating in the UK Study Programme (海外語学実習). The three course objectives are to prepare a maximum of 30 students for (1) living with a UK homestay family, (2) studying English at Bath College, and (3) interacting with the local community in the City of Bath.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	This course is compulsory for all students participating in 海外語学実習. Any student absent from 海外語学実習事前指導 will not receive a credit for 海外語学実習 or a share of any funds awarded to the UK Study Programme. 欠席した場合、海外語学実習の単位も修得できません。 また、プログラムへの補助の配分もありません。 *新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習を中止する可能性があります。			
テキスト	All materials will be the teacher's own (no textbook is necessary).			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	The course teacher is a native English speaker and British national with extensive knowledge and experience of 海外語学実習.			授業中の撮影
学習相談・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their English-language communicative ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 Able to independently evaluate situational challenges / opportunities and act appropriately.		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 Able to evaluate situational challenges and opportunities and act appropriately under close supervision.		
成績評価の基準	S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 Able to independently evaluate situational challenges / opportunities and act appropriately.		
	A : 80~89 履修目標を達成している。		

Able to evaluate situational challenges / opportunities and act appropriately as part of a non-supervised team.
B : 70~79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
Able to evaluate situational challenges / opportunities and act appropriately as part of a supervised team.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to evaluate situational challenges and opportunities and act appropriately under personal supervision.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to evaluate situational challenges and opportunities and act appropriately under personal supervision.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	50				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)		○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Doing a homestay	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
2	Interacting with the British	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
3	Conversation topics	Assignment 1	Assignment completion 1
4	Restaurants and shopping	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
5	Budgeting in the UK	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
6	Conversation questions	Assignment 2	Assignment completion 2
7	Critical thinking in class (1)	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
8	Critical thinking in class (2)	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
9	Making a personal portfolio	Assignment 3	Assignment completion 3
10	Talking about Japan/the UK	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
11	Personal safety in the UK	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
12	Teaching Japanese culture	Assignment 4	Assignment completion 4
13	Final travel preparations	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)

14	Dealing with problems	Lecture; role-play; Q&A	Topic review (plus designated tasks)
15	Keeping a daily diary	Assignment 5	Assignment completion 5
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																			
内容				The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.															

I. 科目情報

科目名（日本語）	海外語学実習		単位	1
科目名（英語）	UK Study Abroad Programme		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	人社1~4年・看護1~4年	開講時期	前期	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	The UK Study Programme (海外語学実習) runs in the summer. The general course objective is to facilitate the development of the participating students into global citizens. A maximum of 30 students will stay in Bath (a World Heritage Site) in homestay accommodation for 14 nights and will receive a total of 30 hours of English language instruction with Bath College tutors, plus 5 hours additional study with Stuart Gale. The classes will focus on speaking, listening, reading and writing, will feature pair work and group work, and will encourage the asking and answering of questions and the expressing of opinions. The classes will also prepare students for day-trips to the places of cultural interest they will visit while in the UK. Students will keep a daily diary in English and participate in a group presentation after returning to Japan.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is open to all undergraduate students (人社1~4年・看護1~4年). Before going to the UK, students will take a 22.5-hour preparation course (海外語学実習事前指導). This course (海外語学実習事前指導) is compulsory for all students participating in 海外語学実習. *新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習を中止する可能性があります。			
テキスト	All materials will be the teacher's own (no textbook is necessary).			
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	The course teacher (Stuart Gale) is a native English speaker and British national with extensive experience of running the UK Study Programme.		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their English-language communicative ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Able to demonstrate superior interpersonal skills and communicative competence in English.			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Able to demonstrate adequate interpersonal skills and communicative competence in English.			
成績評価の基準			
S：90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
Able to demonstrate superior interpersonal skills and communicative competence in English.			
A：80~89 履修目標を達成している。			

Able to demonstrate good interpersonal skills and communicative competence in English.
B : 70~79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
Able to demonstrate improved interpersonal skills and communicative competence in English.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to demonstrate adequate interpersonal skills and communicative competence in English.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to demonstrate adequate interpersonal skills and communicative competence in English.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30	40	30		100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP 5)		○	○	○		
	(DP 6)						
技能	(DP 7)		○	○	○		
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Arrive Bath・Enter homestay accommodation	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary
2	Bath College lessons and Bath tour・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
3	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
4	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
5	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
6	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
7	Day-trip to Oxford	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
8	Free time in Bath	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
9	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
10	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
11	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research

12	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; Bath College homework; sightseeing research
13	Bath College lessons・Bath sightseeing・Homestay	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; sightseeing research
14	Day-trip to Stonehenge and Lacock	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary; presentation preparation
15	Depart Bath / UK	Real-world communicative activities / task-based learning	Keeping a daily diary
備考	Before arriving in the UK, all students will attend a preparation course (海外語学実習事前指導). While in the UK, each student will complete any homework assignments set by the Bath College tutor, and keep a daily diary. Each student will also participate in a group presentation after returning to Japan.		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他 ()																			
内容				The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.															

I. 科目情報

科目名（日本語）	Introduction to studying in English		単位	1
科目名（英語）	Introduction to Studying in English		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	This course will introduce and develop the skills (such as critical thinking) and study techniques necessary for effective participation in university tutorials conducted in English. These skills and study techniques will be transferable to university tutorials in the student's own language or indeed any other language. The course will approximate an interesting, English-language learning environment.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is suitable for students who have studied English language at junior high school and high school and who are interested in travelling, studying or working abroad.			
テキスト	All materials will be the teacher's own (no textbook is necessary).			
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を 生かした授業	The course teacher is a native English speaker with an academic background in the humanities and linguistics.		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	Will be able to make group presentations in English.
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their English-language communicative ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

Able to, in a team and with supervision, compose and present a good, referenced argumentative essay.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to, in a team and with supervision, compose and present an adequate, referenced argumentative essay.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to, in a team and with supervision, compose and present an adequate, referenced argumentative essay.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		33	33	34			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		○	○	○		
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○	○		
	(DP6)						
技能	(DP7)		○	○	○		
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	Students who are absent more than 5 times may fail the course because the teacher will have insufficient data to evaluate their performance.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Choosing and applying for a university course	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Filling out a university application form
2	Personal Development Planning (PDP)	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Identifying / justifying short-term goals
3	Time-management and goal-setting	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Identifying / justifying mid- and long-term goals
4	Taking lecture notes (1)	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Evaluating one's own note-taking techniques
5	Taking lecture notes (2)	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Improving one's own note-taking techniques
6	Finding information and doing research	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Identifying, critically-evaluating and referencing a direct quotation
7	Reading, writing and thinking critically	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Critical thinking and avoiding fallacies
8	Essay/report planning and writing	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Essay writing #1
9	Essay/report planning and writing	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion; essay writing	Essay writing #2 and correcting
10	Essay/report planning and writing	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion; essay writing	Essay writing #3 and correcting
11	Plagiarism and referencing	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion; essay writing	Essay correcting; writing references

12	Taking seminars and expressing an opinion orally	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	References correcting; presentation practice
13	Strategies for exam revision and exam taking	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	Course review and revision; making a PowerPoint; presentation practice
14	Making an oral presentation (1)	Seminar (lecture); Q&A; group tasks / discussion	PowerPoint correcting; presentation practice
15	Making an oral presentation (2)	Group presentation; Q&A; evaluation	Acting upon suggestions for further self-study
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容				The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.														

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報処理の基礎と演習			単位	2
科目名（英語）	The General Constructs of Information			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	上級情報処理士、中一種、高一種、幼一種		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	<p>本学専門教育を受ける際に必修となる情報基礎スキルの習得を目的とする。レポート作成や課題発表に必要な基礎知識として、パソコンの基本操作、Wordを使った文書作成、Excelを使った表計算・グラフ作成、PowerPointを使った発表資料の作成を学習する。また、インターネットを利用し効率的に情報検索を行う方法を学習する。そのほか、ICT機器やインターネットの利用に対する基礎的なセキュリティ知識を学習する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2019+Access 対応版』, オーム社, 2019, ¥2,400+税				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	<p>授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。</p>				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	ICT機器およびネットワークに関する基礎知識を身に付ける。
		(DP2)	ICT機器を安全に活用するための基礎的なセキュリティ知識を身に付ける。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	パソコンの基本操作・印刷が問題なく行える。Word, Excel, PowerPointを自由に使いこなすことができる。インターネットなどを使って効率的に情報を検索することができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>ICTに対する基礎知識を身につけ、ICTを十分に活用しながら、効率的に調査、レポート作成、発表などを実施することができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

ICT を活用し、大学の授業に必要な調査、レポート作成、発表などを問題なく行える。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	40				100
知識・理解	(DP1)	○	○				
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)		○				
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション：Windowsの基本操作、電子メール、e-learning、印刷	オリエンテーション 学内情報システム利用演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 大学のパソコン環境が問題なく利用できるようにしておく。パスワード変更など個人アカウントの設定をしておく。
2	インターネットの利用：電子メールの書き方、インターネットの概要、Web検索、その他ネットワークサービスの利用	講義とメール作成演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
3	情報セキュリティ：情報機器利用に対するトラブル、情報セキュリティ対策、ネットリテラシー、著作権など	講義と教材動画の閲覧	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 情報セキュリティに関して十分復習しておく。
4	Wordを使った文書作成：文字	Wordでの文書作成演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある

	入力、文字修飾、印刷、保存		程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
5	Wordを使った文書作成:書式設定、文書の体裁(1)		事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
6	Wordを使った文書作成:文書の体裁(2)		事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
7	Wordを使った文書作成:表と図の挿入		事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
8	PowerPointを使った発表資料の作成:基本的なスライドの作成	PowerPointでの資料作成演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
9	PowerPointを使った発表資料の作成:図表の挿入、図形の挿入		事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
10	PowerPointを使った発表資料の作成:アニメーション		事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
11	PowerPointを使った発表資料の作成:写真の編集、飾り文字	PowerPointによるポスター作成演習 ※ポスター作成に使用するため事前に写真を準備	事前に、ポスター作成に使用するための写真を準備しておく。 事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
12	Excelを使った表計算:表の作成	Excelを使った表の作成演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
13	Excelを使った表計算:関数	Excelの関数の演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
14	Excelを使った表計算:グラフ	Excelを用いたグラフ作成演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
15	Excelを使った表計算:データベースとしての利用	Excelのデータベース利用演習	事前に教科書の該当箇所を読み、ある程度理解しておく。 締切までに演習課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報処理応用演習			単位	1
科目名（英語）	Advanced Information Processing Practicum			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	「情報処理の基礎と演習」では、Microsoft Office を中心に本学専門教育を受けるのに必要な基礎技能を身に付けた。本演習では、より専門性を深めて Office ソフトを利用する技能を身に付ける。Word, Excel の使い方についてさらに掘り下げ、またデータベースソフトである Access の使用法を学習する。また、VBA マクロの基本についても学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「情報処理の基礎と演習」を受講していること				
テキスト	矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2019+Access 対応版』, オーム社, 2019, ¥2,400+税				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	調査データをどのように分析し、また分析データをどのように表現するか、その方法を修得している。 データベースの基礎知識およびデータベース構築・検索に関する基本操作について理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	Word で目次等、論文の体裁を整えることができる。 Excel を用いたデータ分析、データ可視化を実践できる。 Access を用いてデータベース構築を実践できる。 マクロを使って作業の効率化を図ることができる。
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ICT を適切に活用し、調査研究、卒業論文執筆などを自由に行うことができる。マクロなどを使って業務の効率化を図ることができる。データベースソフトを用いてデータ管理を実施できる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
ICT を活用し、調査研究、卒業論文執筆などに必要なスキルを身につける。データベースソフトの機能を理解し、作業を行うことができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	40				100
知識・理解	(DP1)		○				
	(DP2)	○					
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)	○					
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	Word：アウトラインと目次	Word による文書作成演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
2	Word：セクションと書式設定	Word による文書作成演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
3	Word：相互参照、文献目録	Word による文書作成演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
4	Word：差し込み印刷	Word による差し込み印刷演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。

5	Excel：グラフ応用、印刷設定	Excel で、分析ツールを用いた統計分析とグラフ作成演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
6	Excel：関数応用	より高度な関数を利用した Excel の表計算演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
7	Excel：ピボットテーブル	Excel のピボットテーブル作成演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
8	Excel：マクロの作成と実行	Excel マクロの作成演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
9	Excel：VBA マクロ（1）	Excel VBA によるプログラミング演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
10	Excel：VBA マクロ（2）	Excel VBA によるプログラミング演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 演習課題を進めておく。
11	Excel：VBA マクロ（3）	Excel VBA によるプログラミング演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
12	Access：データベースの作成	Access によるデータベース操作演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
13	Access：複数のテーブルの取り扱い	Access によるデータベース操作演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
14	Access：クエリの作成	Access によるデータベース操作演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。
15	Access：フォーム、レポート	Access によるデータベース操作演習	事前に教科書・資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに演習課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報処理演習 I			単位	1 単位
科目名（英語）	Information Processing I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師、養護教諭 1 種		
標準履修年次	1 年	開講時期	前期		
担当教員	原田直樹、四戸智昭				
授業概要	パソコンを用いて、レポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得するとともに、インターネットに代表される情報通信技術やその利用方法を学ぶ。加えて、それら情報に対するメディアリテラシーを身に付ける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし				
テキスト	イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル Office365・Office2019 対応、noa 出版				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	無
学習相談 ・助言体制	オフィスアワー、メールで対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	パソコンを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	各自の関心事について、主体的に調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
コンピューターを用いて、レポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得するとともに、インターネットに代表される情報通信技術やその利用方法を学び、それら情報に対するメディアリテラシーを身に付けることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
コンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを身に付けること。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

パソコンを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける十分な操作方法を習得し、それらを用いて主体的に調べ、まとめて、高度なプレゼンテーションができるとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解し、実践できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得し、それらを用いたある程度のプレゼンテーションができるとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解し、実践できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
コンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解し、実践できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
コンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに、インターネット等に対するメディアリテラシーを理解している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
コンピューターの基本的な操作方法が習得できず、インターネット等に対するメディアリテラシーが身に付いていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	10	20		40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	15				15	30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		10	20		10	40
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)	15				15	30
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション-大学Webメール、eラーニング、周辺機器の取扱	1. 講義 大学Webメール、eラーニング、周辺機器の取扱等について説明する 2. 演習 大学Webメール、eラーニングを操作し、メールの送受信方法やeラーニングの基本的操作方法を身に付ける。	【事前】アカウント情報（IDやパスワード）を確認しておく。テキスト1～28ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
2	ワープロソフト（Word）①-書式設定	1. 講義 ワープロソフト（Word）の基本操作から書式設定までを説明する。 2. 演習 ワープロソフト（Word）を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をする。	【事前】テキスト30～59ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。

3	ワープロソフト (Word) ②-チラシを作ってみよう	1. 講義 ワープロソフト (Word) の書式設定とレポート作成に必要な機能について説明する。 2. 演習 ワープロソフト (Word) を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をする。	【事前】テキスト 60～98 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
4	表計算ソフト (Excel) ①-簡単な数値演算	1. 講義 表計算ソフト (Excel) の基本操作から簡単な数値演算までを説明する。 2. 演習 表計算ソフト (Excel) を操作し、テキストおよび配布資料に沿って簡単な演算を行う。	【事前】テキスト 99～129 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
5	表計算ソフト (Excel) ②-関数の活用	1. 講義 表計算ソフト (Excel) の関数について説明する。 2. 演習 表計算ソフト (Excel) を操作し、テキストおよび配布資料に沿って関数演算を行う。	【事前】テキスト 130～176 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
6	プレゼンテーションソフト (Power Point) ①-アニメーションの設定	1. 講義 プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作からアニメーションの設定までを説明する。 2. 演習 プレゼンテーションソフト (Power Point) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う。	【事前】テキスト 177～210 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
7	プレゼンテーションソフト (Power Point) ②-効果的なスライドの作成	1. 講義 プレゼンテーションソフト (Power Point) を中心としたさまざまな方法による効果的なプレゼンテーションの方法とスライド作成について説明する。 2. 演習 プレゼンテーションソフト (Power Point) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う	【事前】テキスト 211～248 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
8	インターネット概論	1. 講義 インターネットの仕組みや利用状況等の概要や Web 検索に必要なブラウザや基本的な検索方法について講義する。 2. 演習 より正確な情報を得るための様々な方法による Web 検索を行う。	【事前】テキスト 249～273 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
9	メディアリテラシー	1. 講義 コンピューターリテラシーや情報リテラシーについて講義するとともに、インターネット上の情報の信頼性評価について講義する。 2. 演習 検索した Web ページの信頼性評価を行う。	【事前】テキスト 273～287 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
10	情報検索と集約①	1. 講義 コンピューターを用いた文献検索や統計情報検索の方法について講義する。 2. 演習	【事前】政府統計の総合窓口 (e-Stat) にアクセスし、どのような統計データがあるのか見ておく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。

		コンピューターを用いて、様々な方法による文献検索や統計情報検索を行う。	
11	情報検索と集約②	1. 演習 コンピューターを用いて、様々な方法による文献検索や統計情報検索を行う。 2. レポート 関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、プレゼンテーションスライドを作成し、提出する。	【事前】e-Stat等を活用して、関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集する。 【事後】上記テーマでプレゼンテーションスライドを作成し、提出する。
12	プレゼンテーション発表	演習・課題発表 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。	【事前】テキスト 178～185、243～248 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。プレゼンテーション課題は事前に提出しておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。
13	プレゼンテーション発表	演習・課題発表 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。	【事前】テキスト 178～185、243～248 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。
14	プレゼンテーション発表	演習・課題発表 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。	【事前】テキスト 178～185、243～248 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。
15	プレゼンテーション発表・まとめ	演習・課題発表 各自が関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集し、作成したプレゼンテーションスライドを使って、プレゼンテーションを行う。	【事前】テキスト 178～185、243～248 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。授業全体を振り返り、学んだ技術を今後の大学での学習に生かせるようにしておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報処理演習 II			単位	1 単位
科目名（英語）	Information Processing II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭 1 種		
標準履修年次	1 年	開講時期	前期		
担当教員	原田直樹				
授業概要	パソコンを用いて、Windows とともに、レポート作成やプレゼンテーション時に必要な代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。具体的には Word を使った文書作成、Excel を使った表計算及びグラフの作成、PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法等を修得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし				
テキスト	イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル Office365・Office2019 対応、noa 出版				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	無
学習相談 ・助言体制	オフィスアワー、メールで対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	Word や Excel、PowerPoint 等のアプリケーションを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	与えられた課題について、主体的に取り組むことができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
コンピューターを用いて、を用いて、Windows とともに、レポート作成やプレゼンテーション時に必要な代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を習得する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
コンピューターの基本的な操作方法が習得できている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける十分な操作方法を習得し、それらを用いて主体的に調べ、まとめて、伝わりやすいレポートやプレゼンテーション資料を作成することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得し、それらを用いて与えられた内容について調べ、まとめて、レポートやプレゼンテーション資料を作成することができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
レポートやプレゼンテーションの形式を理解し、コンピューターを用いてレポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得できている。
C：60～69 到達目標を達成している。
コンピューターの基本的な操作方法が習得できている。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
コンピューターの基本的な操作方法が習得できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20				15	35
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	10				20	30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)	20				15	35
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション 基本的な PC 操作	1. 講義 大学 Web メール、e ラーニング、周辺機器の取扱等について説明する 2. 演習 大学 Web メール、e ラーニングを操作し、メールの送受信方法や e ラーニングの基本的な操作方法を身に付ける。	【事前】アカウント情報 (ID やパスワード) を確認しておく。テキスト 1～28 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
2	ワープロソフト (Word) ①-入力、印刷、保存	1. 講義 ワープロソフト (Word) の基本操作 (入力、印刷、保存) を説明する。 2. 演習 ワープロソフト (Word) を操作し、テキストおよび配布資料に沿って文書作成をし、印刷、保存をする。	【事前】テキスト 30～59 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
3	ワープロソフト (Word) ②-書式設定	1. 講義 ワープロソフト (Word) の書式設定とレポート作成に必要な機能について説明する。 2. 演習 ワープロソフト (Word) を操作し、テ	【事前】テキスト 60～98 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。

		キストおよび配布資料に沿って文書作成をする。	
4	表計算ソフト (Excel) ①-入力、簡単な計算表の作成	1. 講義 表計算ソフト (Excel) の基本操作から簡単な計算表までを説明する。 2. 演習 表計算ソフト (Excel) を操作し、テキストおよび配布資料に沿って簡単な計算表の作成を行う。	【事前】テキスト 99～129 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
5	表計算ソフト (Excel) ②-グラフの作成	1. 講義 表計算ソフト (Excel) のグラフについて説明する。 2. 演習 表計算ソフト (Excel) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってグラフの作成を行う。	【事前】テキスト 130～176 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
6	プレゼンテーションソフト (Power Point) ①-入力、スライドの作成	1. 講義 プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作(入力、スライド作成)を説明する。 2. 演習 プレゼンテーションソフト (Power Point) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う。	【事前】テキスト 186～210 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
7	プレゼンテーションソフト (Power Point) ②-オブジェクトの取扱	1. 講義 プレゼンテーションソフト (Power Point) のオブジェクト取り扱いについて説明する。 2. 演習 プレゼンテーションソフト (Power Point) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってスライド作成を行う	【事前】テキスト 211～242 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
8	インターネットの利用①-セキュリティと情報モラル	1. 講義 インターネットの仕組みや利用状況等の概要や Web 検索に必要なブラウザや基本的な検索方法について講義する。 2. 演習 より正確な情報を得るための様々な方法による Web 検索を行う。	【事前】テキスト 249～273 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
9	インターネットの利用②-Web ページ検索の方法、メディアリテラシー	1. 講義 コンピューターリテラシーや情報リテラシーについて講義するとともに、インターネット上の情報の信頼性評価について講義する。 2. 演習 検索した Web ページの信頼性評価を行う。	【事前】テキスト 273～287 ページを読んでおく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
10	インターネットの利用③-統計データ検索と加工	1. 講義 コンピューターを用いた文献検索や統計情報検索の方法について講義する。 2. 演習 コンピューターを用いて、様々な方法による文献検索や統計情報検索を行う。	【事前】政府統計の総合窓口 (e-Stat) にアクセスし、どのような統計データがあるのか見ておく。 【事後】e ラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。
11	レポート作成のルールと必要な技術①-著作権とワードでの文献リストの作成	1. 演習 レポート作成における引用・参考文献の取り扱い方法とワープロソフト (Word) での文献リスト作成について講義する。 2. レポート ワープロソフト (Word) を操作し、文	【事前】テキスト 81～98 ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。

		献リストを作成する。	
12	レポート作成のルールと必要な技術②-エクセルの活用	1. 講義 レポート作成における図表の取り扱い方法と表計算ソフト (Excel) とワープロソフト (Word) との連動について説明する。 2. 演習 表計算ソフト (Excel) を操作し、テキストおよび配布資料に沿ってレポートの図表作成を行う。	【事前】テキスト 87～89 ページ、153～176 ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。
13	プレゼンテーション技術①-動画作成	1. 講義 プレゼンテーションの場に応じた様々なプレゼンテーション媒体について説明する。 2. 演習 動画作成ソフトを操作して、動画を作成する。	【事前】動画作成に使用する写真(jpeg や png)や音楽(mp3)を準備する。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。
14	プレゼンテーション技術②-伝えるための発表の技術	1. 講義 プレゼンテーションの場に応じた様々なプレゼンテーション媒体について説明する。 2. 演習 動画作成ソフトを操作して、動画を作成する。	【事前】テキスト 178～185 ページ、243～248 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。
15	まとめ-新聞の作成	演習 これまでの授業で身に付けた技術を駆使し、各自が関心のあるテーマで情報を収集し、新聞の形式にまとめて、伝わり内容の新聞を作成する。	【事前】テキスト 30～129 ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。授業全体を振り返り、学んだ技術を今後の大学での学習に生かせるようにしておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健理論		単位	2
科目名（英語）	Health and Hygiene Studies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	山口 裕嗣			
授業概要	健康的な生活を実現するための知識や態度を身につけることを目的として、運動・栄養・休養などの観点から健康に関する話題を提供し、現代社会の様々な健康問題やその対策について概説する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	適宜、資料を配付する。			
参考図書・教材等	公益財団法人日本スポーツ協会 編『公認スポーツ指導者養成テキスト』日本スポーツ協会 2019年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	生涯にわたって健康を維持・増進するための知識を身につける。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	健康に関わる科学的知識を収集・整理・活用できる。
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識について正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識について実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識について正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識についてある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識に関する用語の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
生涯にわたって健康を維持・増進するための知識、健康に関わる科学的知識に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	80					20	100
知識・理解	(DP1)	○				○	
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)	○				○	
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義/授業内容について解説する。	シラバスを確認する。
2	運動と健康①（運動がもたらす健康効果）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
3	運動と健康②（健康づくりのための運動）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
4	運動による身体の変化①（循環器系）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
5	運動による身体の変化②（呼吸器系）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
6	運動による身体の変化③（エネルギー供給系）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
7	筋肉と健康	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
8	健康と食習慣	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。

9	休養と健康	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
10	飲酒・喫煙と健康	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
11	視覚と健康	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
12	脳と健康①（脳のはたらき）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
13	脳と健康②（脳の不思議）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
14	脳と健康③（脳の疾病）	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
15	障がい者福祉とスポーツ	講義/配布資料に基づいて解説する。	配布資料を見直し、要点をまとめる。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	健康スポーツ論		単位	2
科目名（英語）	Health and Sports Science		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	中原 雄一			
授業概要	<p>現代社会では、心身ともに健康上の問題を抱える人が増えつつある。本講義では、「健康とは何か」という根本的なことから、多くの人が直面している健康上の様々な問題について概説すると同時に、運動やスポーツが健康へもたらす多面的効果やその具体的方法について解説する。また、スポーツそのものについても着目し、日本におけるスポーツの現状やオリンピックについても解説を加える。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	特になし			
参考図書 ・教材等	<p>参考図書： 東京大学身体運動科学研究室編「教養としての身体運動・健康科学」東京大学出版</p>			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	必要に応じて随時対応する			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	運動・スポーツが健康に及ぼす効果について様々な観点から理解するとともに、健康や運動・スポーツに関して幅広い知識を身に付ける。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	自らの健康について興味・関心を持ち、健康の維持・改善を図るための技能を身に付ける。
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
健康や運動・スポーツに関して理解を深め、運動やスポーツが健康へもたらす多面的効果について理解することができる。また、健康な生活を送るために習得した知識を活かすことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
健康や運動・スポーツに関して基本的な知識を身に付け、自身の健康に興味・関心をもつことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60				40	100
知識・理解	(DP 1)	○				○	
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)		○			○	
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション スポーツの概念	講義	シラバスを確認する。 「スポーツ」という語源と現在の使われ方について調べる。
2	健康の概念と日本における健康問題の変化	講義	健康と寿命について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
3	健康づくりに関する施策	講義	健康づくりの施策について調べる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
4	生活習慣と身体活動	講義	身体活動とは何か調べる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
5	生活習慣病と運動・スポーツ①	講義	自身の生活習慣について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
6	生活習慣病と運動・スポーツ②	講義	生活習慣病について調べる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。

7	精神的健康と運動・スポーツ	講義	精神的健康について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
8	健康と体力	講義	体力とは何か調べる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
9	健康維持・改善のための運動トレーニング①	講義	健康と運動・スポーツの関わりについて考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
10	健康維持・改善のための運動トレーニング②	講義	健康について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
11	スポーツに関する施策	講義	スポーツに関する施策について調べる。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
12	地域におけるスポーツ環境の整備とスポーツ振興の財源	講義	地域におけるスポーツの役割について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
13	スポーツ国際競技大会 (オリンピックを中心に)	講義	オリンピックの意義について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
14	競技スポーツにおける日本の現状と国際競技力向上	講義	オリンピックにおけるメダル獲得の意義について考える。 e-learning を利用して講義内容を復習する。
15	講義のまとめ	講義（授業の振り返りを行う）	レポートを作成し、提出する。
備考	毎回講義内容に対するコメントを記入し、自身の意見を述べる機会を設ける。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	健康科学実習Ⅰ			単位	1
科目名（英語）	Health and Physical EducationⅠ			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種、幼一種		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	中原雄一・池田孝博				
授業概要	<p>健康でいきいきとした大学生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。健康科学実習Ⅰでは、健康の維持・増進と関係の深い身体機能および運動能力に関する正しい知識を学習し、健康的な生活を営むための態度を身につける。</p> <p>本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。なお、本実習は体力差や人数等を考慮し、男女別に実施する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>運動のできる服装、体育館シューズ、屋外用のスポーツシューズを用意すること。</p> <p>また、夏季（11～14回）には、水泳・水中運動を実施するので、水着と水泳用キャップを用意すること（詳細は授業内にて説明）。</p>				
テキスト	特になし				
参考図書 ・教材等	適宜指示する				
実務経験を 生かした授業					授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	必要に応じて随時対応する				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	・自らの健康の維持・増進を図るための方法がわかる
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	・基本的な運動技能およびスポーツ活動を実施する上でのマナーを修得し、生涯にわたりスポーツに親しんでいくことができる ・各種のスポーツ活動を通して、人間関係の改善・向上を図ることができる
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
グループで協力し、お互いに教え合いながらスポーツ活動を行うことができ、基本的な運動技能を身に付けることができる。また、体力テストの意義を知り、自身の体力について客観的に評価することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
スポーツ活動に主体的に取り組み、安全に実施することができる。また、体力テストの結果をもとに、レポートを作成することができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20			80	100
知識・理解	(DP1)		○			○	
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)					○	
	(DP10)						
備考	本授業では「授業態度や授業中の取り組み」を重視する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（中原・池田）	講義（授業の概要及び成績評価の方法などについて説明する）	翌週からの実習に向け、必要な用具等の準備をする。また、体調管理をしっかり行う。
2	体力テスト（中原・池田）	実習	文部科学省の新体力テストの内容について調べる。また、体力テストの意義について考える。
3			
4	ニュースポーツ①（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
5	ニュースポーツ②（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。

6	ニュースポーツ③ (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
7	ニュースポーツ④ (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
8	ニュースポーツ⑤ (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
9	ニュースポーツ⑥ (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
10	健康科学におけるデータ解析 (池田・中原)	講義 (体力テストの結果の解析方法について説明する)	体力テストの結果の解析および考察を行う。
11	水泳・水中運動 (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
12	水泳・水中運動 (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
13	水泳・水中運動 (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
14	水泳・水中運動 (池田・中原)	実習	活動に向け、心と体の準備をする。疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
15	まとめ (中原・池田)	講義 (授業の振り返りを行う)	レポートを作成し、提出する。
備考	ニュースポーツでは、主にフライングディスクやインディアカ等を予定しているが、受講人数や天候、グラウンドの状況などによって変更する可能性がある。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容				実技中心で授業を進める。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	健康科学実習 II		単位	1
科目名（英語）	Health and Physical Education II		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中一種、高一種、幼一種	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	中原雄一・池田孝博			
授業概要	<p>健康でいきいきとした大学生生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。健康科学実習 II では、スポーツ種目の対抗戦を実施することで、各スポーツ種目の技術向上を図るとともに、メンタルヘルスやコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。なお、本実習は体力差や人数等を考慮し、男女別を実施する。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	健康科学実習 I を履修していること。 運動のできる服装（特に防寒対策）、体育館シューズ、屋外用のスポーツシューズを用意すること。			
テキスト	特になし			
参考図書・教材等	適宜指示する			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	必要に応じて随時対応する			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	・スポーツ活動への参加による自らの体力の変化について、客観的に評価することができる
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	・基本的な運動技能およびスポーツ活動を実施する上でのマナーを修得し、生涯にわたりスポーツに親しんでいくことができる ・種々のスポーツ活動を通して、人間関係の改善・向上を図ることができる
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
スポーツ活動を通してコミュニケーションを図ることができ、スポーツ種目の特性および心身の健康に及ぼす影響について理解することができる。また、1年間の体力の変化について客観的に評価し、考察を加えることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
スポーツ活動に主体的に取り組み、安全に実施することができる。また、体力テストの結果をもとに、1年間の体力の変化について客観的に評価することができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				20			80	100
知識・理解	(DP1)			○				
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)						○	
	(DP10)							
備考		本授業では「授業態度や授業中の取り組み」を重視する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	スポーツ実習①（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
2	スポーツ実習②（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
3	スポーツ実習③（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
4	スポーツ実習④（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
5	スポーツ実習⑤（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。

6	スポーツ実習⑥（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
7	スポーツ実習⑦（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
8	スポーツ実習⑧（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
9	スポーツ実習⑨（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
10	スポーツ実習⑩（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
11	スポーツ実習⑪（池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
12	健康のための運動の実際 （池田・中原）	実習	活動に向け、心と体の準備をする。 疲れを残さないよう、アフターケアを行う。
13	体力テスト（中原・池田）	実習	健康科学実習Ⅰで測定した体力テストの結果と比較し、考察を行う。
14			
15	まとめ（中原・池田）	講義（授業の振り返りを行う）	レポートを作成し、提出する。
備考	スポーツ実習では、主にゴール型スポーツ（バスケットボール、サッカー等）やラケットスポーツ（ソフトボール、バドミントン等）を中心に実施する予定であるが、受講人数や天候、グラウンドの状況などによって、これらの種目以外のスポーツ活動も実施する可能性がある。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			実技中心で授業を進める。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	教養演習	単位	1
科目名（英語）	General Studies Seminar	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	前期
担当教員	人間社会学部教員・看護学部教員		
授業概要	教えられたことを記憶するのとは異なり、主体的に思考し、行動し、判断し、表現する大学教育の基本となる学習法の基礎を学びます。自分たちの研究テーマを決め、資料を探し、答えを考え、レポートを作成し、プレゼンテーションを行います。そのプロセスの中で、情報収集や情報の見分け方、レポート作成やプレゼンテーションの方法についての知識を学んでいきます。なお、授業の内容については、担当する教員毎に若干の変更や、学習する順番が変わることがあります。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし		
テキスト	「旅する大学生のガイドブック－レポートの書き方」福岡県立大学教養演習テキスト出版会		
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	必要に応じて随時対応します。また、授業中に積極的に質問し、助言を求めてください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	妥当な情報に基づいて論理的に考察するための方法を知っている
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	妥当な資料やデータを選び、それに基づき考察することができる
		(DP 4)	論理的に記述し、発表することができる
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
グループでの課題研究（課題発見、問題解決）に取り組み、レポート作成やプレゼンテーションができる。また、主体的に学習するための基礎を身に付けている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身に付ける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
グループで協力しながら課題発見や問題解決ができる。また、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を身に付けている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
グループでの課題研究（課題発見、問題解決）において、主体性をもって積極的に行うことができる。また、レポート作成やプレゼンテーションの基礎が十分に身につけており、レポート作成やプレゼンテーションの方法について他者に説明することができる。さらに、独自の課題を設定し、主体的に学ぶ基礎を身に付けている。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
グループでの課題研究（課題発見、問題解決）において、主体性をもって積極的に行うことができ、レポート作成やプレゼンテーションの基礎が十分に身につけている。また、主体的に学習するための基礎を身に付けている。	
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
グループで協力しながら課題発見や問題解決ができる。また、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を身に付けている。	
C : 60~69	到達目標を達成している。
グループで協力しながら課題発見や問題解決ができる。また、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を最低限身に付けている。	
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
グループで協力しながら課題発見や問題解決ができない。また、レポート作成やプレゼンテーションの基礎が身に付いていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			10		10		80	100
知識・理解	(DP1)		○		○		○	
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)		○		○			
	(DP4)		○		○			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		本授業では、「授業態度や授業中の課題への参加度」を重視します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（教養演習とは何か）	講義（全体）と演習（グループ）	テキストの「はじめに」を読む（45分）
2	情報収集の方法1（図書館オリエンテーション、教員とのメールのやり取りの仕方）	図書館と教室での演習	図書館で興味のある書籍を検索する（45分）
3	情報収集の方法2（webサイトの利用について）	テキストを用いた演習	テキストの該当ページを読む（45分）
4	グループ設定	演習	テキストの「コラム」を読む（45分）
5	テーマ設定	テキストを用いた演習	テーマについて調べる（45分）
6	テーマについて文献読解	グループ活動	テーマについての資料を収集する（45分）

7	プレゼンテーション資料作成1	テキストを用いた演習 グループ活動	テキストの該当ページを読む (45分)
8	プレゼンテーション資料作成2	グループ活動	プレゼンテーション資料の作成(45分)
9	プレゼンテーションの技法	テキストを用いた演習	プレゼンテーションの練習の実施 (45分)
10	プレゼンテーション	グループ活動	プレゼンテーションの振り返りを行う (45分)
11	レポートの技法	テキストを用いた演習	テキストの該当ページを読む (45分)
12	レポート執筆1	グループ活動	レポートの作成 (45分)
13	レポート執筆2	グループ活動	レポートの作成 (45分)
14	レポートの加筆修正	グループ活動	レポートの作成 (45分)
15	まとめ	講義	グループでレポートを仕上げ提出 (45分)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				問題解決学習やグループ・ディスカッション、グループ・ワークを適宜行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会人基礎力演習			単位	1
科目名（英語）	Fundamental Competencies for Working Persons			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2	開講時期	前期		
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子				
授業概要	大学から職業社会への移行準備として、働くうえで基礎となる知識やスキルを身につける。本講義はアクティブラーニング型講義を行うため、積極的な発言やグループワークへの能動的な取り組みが必要になる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	学生同士のディスカッションやパワーポイント作成の作業が必要になります。				
テキスト	必要な資料を提供します				
参考図書・教材等	講義の中で紹介します				
実務経験を生かした授業	企業や行政にマネジメントや人材育成について助言アドバイスをしている教員が諸経験を活かし、社会で活躍するために必要になる基礎的能力育成を行う。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	課題に対して、自身又は他者が取るべき行動を発見し、可視化する基礎的能力が身についている。
		(DP4)	職業生活において、他者に情報を伝達する基礎的能力が身についている。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	職業生活において必要となる情報の収集、分析に関する基礎的能力が身についている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
職業社会の移り変わりなどの環境変化と、それに対応して身につける必要がある能力やスキルを実践的に学ぶ。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
大学から職業社会への移行準備として、働くうえで基礎となる知識やスキルを身につける。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30		60		10	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)		10		20			
	(DP 4)		10		20			
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)		10		20		10	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション	単位履修や講義の進め方などについて	
2	私達を取り巻く職業社会の移り変わり	講義・アクティブラーニング	受講生のニーズや理解度に応じてシラバスの内容は変更になることがあります。振り返りコメントの作成(毎回)。事前課題については、適宜指示します。
3	社会人マナー(携帯電話やメールのマナー、正しい敬語など)	講義・アクティブラーニング	
4	タイムマネジメント、スケジュールマネジメント	講義・アクティブラーニング	
5	仕事の見える化	講義・アクティブラーニング	
6	ビジネスリーディング、ライティングスキル	講義・アクティブラーニング	
7	課題発見能力	講義・アクティブラーニング	
8	論理的、批判的思考能力	講義・アクティブラーニング	
9	ビジネス倫理	講義・アクティブラーニング	
10	コミュニケーション対話力	講義・アクティブラーニング	
11	リーダーシップ、フォロワー	講義・アクティブラーニング	

	シッブ	
12	グループディスカッション	講義・アクティブラーニング
13	プレゼンテーション技法	講義・アクティブラーニング
14	プレゼンテーション実践	講義・アクティブラーニング
15	まとめ	
備考	グループ学習を軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容				グループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	Advanced English Achievement		単位	1
科目名（英語）	Advanced English Achievement		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	Stuart Gale			
授業概要	This an advanced course for students interested in developing the English-language skills and study techniques necessary to qualify for and then participate in university courses in English-speaking countries. The course will focus on improving the students' skills in three main areas: critical thinking, academic writing, and test taking.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	The course is especially suitable for students who are interested in travelling, studying or working abroad and / or students who have participated in Stuart Gale's "Introduction to studying in English" seminar or the UK Summer Programme (海外語学実習).			
テキスト	All materials will be the teacher's own (no textbook is necessary).			
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業	The course teacher is a native English speaker with an academic background in the humanities and linguistics.		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	Students are encouraged to ask questions during class. Students are also welcome to visit the teacher in his office. No appointment is necessary.			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	Will develop their critical thinking skills
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	Will exhibit a proactive and engaging communicative style.
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	Will improve their English-language communicative ability.
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 Able to individually compose and present a superior, fully-referenced argumentative essay.		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 Able to individually compose and present an adequate, fully-referenced argumentative essay.		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 Able to individually compose and present a superior, fully-referenced argumentative essay.			
A：80～89 履修目標を達成している。 Able to individually compose and present a very good, fully-referenced argumentative essay.			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

Able to individually compose and present a good, fully-referenced argumentative essay.
C : 60~69 到達目標を達成している。
Able to individually compose and present an adequate, fully-referenced argumentative essay.
不可 : ~59 到達目標を達成できていない。
Unable to individually compose and present an adequate, fully-referenced argumentative essay.

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		33	33	34			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)	○	○	○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	Students who are absent more than 5 times may fail the course because the teacher will have insufficient data to evaluate their performance.						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	Strategies for exam taking (IELTS)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises
2	Strategies for critical thinking and critical writing	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay structure / referencing review
3	Critical thinking practice: Topic#1 (Manga)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
4	Critical thinking practice: Topic#2 (Company culture)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
5	Critical thinking practice: Topic#3 (Japanese food)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
6	Critical thinking practice: Topic#4 (Regional tensions)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
7	Critical thinking practice: Topic#5 (Social misfits)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
8	Critical thinking practice: Topic#6 (Anime)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
9	Critical thinking practice: Topic#7 (Superstitions)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
10	Critical thinking practice: Topic#8 (Gambling)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
11	Critical thinking practice: Topic#9 (Otaku culture)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition

12	Critical thinking practice: Topic#10 (J-pop companies)	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
13	Strategies for making an oral presentation	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition
14	Making an oral presentation (using PowerPoint [1])	Seminar (lecture); Q&A; critical thinking tasks / discussion	IELTS practice exercises; essay composition; PowerPoint composition
15	Making an oral presentation (using PowerPoint [2])	Individual presentation; Q&A; evaluation	Acting upon suggestions for further self-study
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他 ()																		
内容				The course will incorporate task-based communicative activities and critical thinking.														

I. 科目情報

科目名（日本語）	不登校・ひきこもり援助論		単位	2単位	
科目名（英語）	Support Theory for School Refusal and Social Withdrawal		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	1年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：小嶋秀幹・四戸智昭・奥村賢一・原田直樹・増満 誠・小山憲一郎・梶原由紀子				
授業概要	不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について学ぶ。とりわけ県大子どもサポーターとして、学生のボランティア活動における支援のあり方や意義について学び、ボランティアとしての自主性や社会性・公共性、問題意識等を醸成し、将来の不登校・ひきこもりへの援助者としての主体性を高めるために必要な知識を習得することを目標とする。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件/なし				
テキスト					
参考図書・教材等	参考文献：授業の中で適宜紹介する。				
実務経験を生かした授業	福岡県の不登校支援の施策等を行ってきた福岡県教育庁の指導主事を特別講師として招聘し、学生に対して学校教育における支援とは何かということを実践的な視点で解説いただく。			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時、不登校・ひきこもりサポートセンターでは随時受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	不登校・ひきこもりの子どもたちの課題について知る。
		(DP2)	不登校・ひきこもりの子どもたちへの様々な支援方法について知る。
	思考・判断・表現	(DP3)	不登校・ひきこもりの問題解決に必要な支援について、文章にまとめることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	不登校・ひきこもりの問題解決に向けて、意欲的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について理解した上で、自分なりの不登校・ひきこもり支援への参画のあり方について考え、ボランティアとして実践するなど、主体的な態度で学び、取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について理解した上で、自分なりの不登校・ひきこもり支援への参画のあり方について考え、述べることができる。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			100				100
知識・理解	(DP1)		30				30
	(DP2)		30				30
思考・判断・表現	(DP3)		30				30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		10				10
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション （松浦・原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】自身の不登校児童生徒のイメージをまとめておく。 【事後】自身のイメージと講義の事例中の不登校児童生徒との違いを整理しておく。
2	不登校・ひきこもりに関する問題と課題（総論） （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】文部科学省のホームページ等から不登校の定義、動向等を調べておく。 【事後】不登校支援に係る課題を整理しておく。
3	不登校・ひきこもりの援助 （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】不登校支援にはどのようなものがあるかを調べておく。 【事後】講義で紹介された支援の方法を整理しておく。
4	不登校・ひきこもりの子どもの心理と関わり方－具体的対応方法について－ （小山）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】文部科学省のホームページ等からスクールカウンセラー等活用事業の概要について調べておく。 【事後】不登校支援におけるカウンセラーの役割や、具体的対応方法を整理しておく。
5	福岡県の不登校・ひきこもりの動向と支援の制度 （松浦・原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】福岡県のホームページ等から、県教育庁の不登校支援施策を調べておく。 【事後】教育現場における不登校対応の方策等を整理しておく。
6	子どもにとっての「遊び」を考える （原田）	講義、グループワーク	【事前】子どもの遊びの要素について調べておく。 【事後】講義で紹介された遊びの要素や注意点を整理しておく。
7	ボランティア活動ルールとマナー－県子どもサポーターへの参加について－	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】これまでの資料や見学から不登校支援のボランティア活動のイメージを整理しておく。 【事後】ボランティアが不登校支援に果たす意義

	(原田・松浦)		を考える。
8	不登校解消に向けた校内外連携によるシステムづくり－スクールソーシャルワーカーの役割を中心に－ (奥村)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】文部科学省のホームページ等から学校ソーシャルワーカー活用事業の概要について調べておく。 【事後】不登校支援におけるスクールソーシャルワーカーの役割を整理しておく。
9	不登校の子どもと学校内の居場所づくり－保健室登校を中心に－ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】保健室登校とはどのようなものかを調べておく。 【事後】保健室登校で果たす養護教諭の役割や居場所確保の重要性を整理しておく。
10	遊び・非行の子どもと不登校 (松浦・原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】少年非行や遊び・非行型不登校について調べておく。 【事後】少年サポートセンターによる非行少年支援の方策等を整理しておく。
11	フリースクールにおける不登校の子どもへの支援 (松浦・原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】複数のフリースクールのホームページ等から、活動内容を調べておく。 【事後】紹介されたフリースクールの活動内容と不登校支援におけるフリースクールの意義を整理しておく。
12	不登校・ひきこもりと精神医学 (小嶋)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】子どもの精神疾患について調べておく。 【事後】不登校と精神疾患との関連や支援方法について整理しておく。
13	不登校の子どもを抱える家族とその支援 (四戸)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】書籍やインターネットから、不登校の子どもを抱える家族の思いを調べておく。 【事後】家族支援の意義や方法を整理しておく。
14	不登校の子どもから見た、求められる支援のあり方 (増満)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】書籍やインターネットから、不登校の子ども自身の思いを調べておく。 【事後】子どもの状態に合わせた支援の方法について整理しておく。
15	発達障害の子どもと不登校授業のまとめ (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】発達障害にはどのようなものがあるか調べておく。 【事後】発達障害と不登校の関連について整理しておく。また、本授業全体を振り返り、今後の不登校支援への参加に役立てることができようようにしておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク									○									
その他（ ）																		
内容				グループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	子供学習支援論		単位	1 単位
科目名（英語）	Support for Children's Learning		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	1 年次	開講時期	後期	
担当教員	松浦賢長・奥村賢一・原田直樹・小山憲一郎・梶原由紀子			
授業概要	子供にとっての学習の意義や学力低下の状況、学習支援の具体的方法等について学ぶ。受講にあわせ、実際に子供への学習支援を体験することを前提とし、これにより机上の学びと実践を取り結び、経済的困窮や養育環境等、子供をめぐる社会的環境に潜む問題点や課題点について学ぶ。本講義は、将来の子供を支援する実践者としての主体形成に必要な、問題意識醸成につながる基礎的知識を習得することを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件/なし			
テキスト				
参考図書 ・教材等	参考文献：授業の中で適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業	福岡県の学力の現状や学力向上に向けての施策等を行ってきた福岡県教育庁の指導主事を特別講師として招聘し、学生に対して学校教育における支援とは何かということを実践的な視点で解説いただく。		授業中の撮影	有
学習相談 ・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に相談助言を行う。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	学習の意義や学力低下の状況、学習支援の具体的方法等を理解する。
		(DP 2)	経済的困窮や養育環境等、子供をめぐる社会的環境に潜む問題点や課題点を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	実際に子供への学習支援を体験することを前提とし、これにより机上の学びと実践を取り結ぶことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福岡県内の子どもの学力の状況や学力低下の要因などに関する基礎的な知識と学習支援の方法について理解した上で、自分なりの学習支援への参画のあり方について考え、ボランティアとして実践するなど、主体的な態度で学び、取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
子どもにとっての学力や学力低下の要因などに関する基礎的な知識と学習支援の方法について理解した上で、自分なりの不登校・ひきこもり支援への参画のあり方について考え、述べることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			100				100
知識・理解	(DP1)		40				40
	(DP2)		40				40
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		20				20
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション～筑豊の子供と学習支援の必要性～（松浦・原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】学習支援にはどのようなものがあるかについて、3つキーワードを調べておく。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
2	学力テストから見た子供求められる「能力」とは（原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】PISAについて調べ、日本の子供たちの学力の現状に関する要点をまとめておく 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
3	学習支援のノウハウ～子供の特長と支援の方法～（原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】仙台市のホームページの「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」を参照し、自分なりに要点をまとめておく。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
4	子供の発達とモチベーション喚起（小山）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前】講義内容を振り返り、次回の講義までに要点を整理する。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。

5	福岡県の学力の状況と学力向上施策 (松浦・原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	【事前】全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査 調査結果報告書等を参照し、福岡県の学力の状況についてまとめておく。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
6	SSW から見た子供の学力低下の要因とその対応 (奥村)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	【事前】学力低下の要因について、自分なりに要点をまとめておく。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
7	子供の命を守る心肺蘇生法 (松浦・梶原)	体験形式	【事前】厚生労働省「救急蘇生法の指針2015」Ⅱ・Ⅲをよんでおく。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
8	対話的で主体的で深い学びとは (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	【事前】文部科学省「学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」をよみ、キーワードを3つ調べておく。 【事後】授業でとったノートや資料を見返し、授業中に提示されたポイントについて一度確認しておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習							○										
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容	体験を通して理解を深める。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	プレ・インターンシップ	単位	1
科目名（英語）	Orientation to Internships	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1	開講時期	前期
担当教員	井上奈美子・中村晋介・松岡佐智		
授業概要	<p>医療・福祉施設、企業、教育機関、自治体、NPO などでの就業体験を通して、働くことの意義について理解を深める。就業体験を通して、多様な価値観を持った社会人と出会い、コミュニケーションの重要性に気づき、自己理解や他者理解を深める。</p> <p>事業所への派遣に向けては事前・事後学習を行う。事後学習では体験の振り返りを行うことで、学生自身がさらなる成長を目指した学習計画の立案に取り組む。尚、事前事後学習と体験発表会への出席は単位履修の必須要件となる。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>プレ・インターンシップに参加することを理由に「必修科目、選択必修科目、その他卒業、資格・免許取得に関わる科目」の授業や実習、試験が受けられない場合、その補講や追実習、追試験は実施されない。インターンシップを理由に講義を欠席することは認められない。</p> <p>履修にあたり、保険（自賠責・生命）加入必須。</p>		
テキスト	<p>テキスト『マイキャリアハンドブック』を1人に1冊配布。</p> <p>その他必要な資料等は都度配布。</p>		
参考図書 ・教材等	講義の中で紹介します。		
実務経験を 生かした授業	実務経験のある教員が研修を担当します。	授業中の 撮影	○
学習相談 ・助言体制	担当教員と就業力向上支援室の職員が随時相談を受け助言する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	コミュニケーションの重要性に気づき、その向上にむけての自己の課題を把握できる。 キャリア形成における自己の課題に気づき、今後の学習計画を立てることができる。
		(DP4)	就業体験を通して働くことの意義について理解し、説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	保健・福祉はじめ各業界の増進に寄与するために主体的・意欲的に活動することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
就業体験を通して、働くことの意義について理解を深める。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

多様な価値観を持った社会人と出会い、コミュニケーションの重要性に気づき、自己理解や他者理解を深める。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		10	20			
	(DP4)		10	20			
関心・意欲・態度	(DP5)		10	30			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	提出物の遅延や各研修の遅刻・欠席は成績評価に影響しますのでご注意ください。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション		スケジュールは変動的なので、随時担当教員に確認してください。
2	事前研修①（受入事業所による講話）	講義・アクティブラーニング	
3	事前研修②（体験先リサーチ、自己紹介書作成等指導）	講義・アクティブラーニング	
4	事前研修③（マナー研修）	講義・アクティブラーニング	
5	事前研修④（事前訪問）	アクティブラーニング	
6	事前研修⑤（ポスターセッション指導）	講義・アクティブラーニング	
7	事前研修⑥（ブロック研修）	講義・アクティブラーニング	
8	インターンシップ体験1日目	アクティブラーニング	
9	インターンシップ体験2日目	アクティブラーニング	

10	インターンシップ体験3日目	アクティブラーニング
11	インターンシップ体験4日目	アクティブラーニング
12	インターンシップ体験5日目	アクティブラーニング
13	事後研修（体験の振り返り、ブ ロック研修）	講義・アクティブラーニング
14	体験報告会準備・リハーサル	アクティブラーニング
15	体験報告会（企画、推進、プ レゼン発表）	アクティブラーニング
備考	5回以上欠席したものは単位を取得できません。 上記以外に自己紹介書及び体験報告会資料の添削指導、個別面談（随時）も行います。	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習								1			1	1	1	1	1		1	1	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1		1	1						1			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	専門職連携入門		単位	1
科目名（英語）	Introduction to Professional Cooperation		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	人間社会学部教員・看護学部教員			
授業概要	<p>児童虐待、いじめ、ひきこもり、不登校などの子どもに関する課題、障がい者支援、高齢者介護分野での地域包括ケアシステムの構築など様々な領域で専門職連携が求められている。</p> <p>保健・医療・福祉の現場の専門職の活動と相互の連携を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>人間社会学部及び看護学部両学部で養成する様々な専門職種の実践活動と連携の実際を知ること、多職種への理解を深め、多職種間の連携の重要性を理解するとともに、専門職をめざして学習する動機づけとする。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	テキストは特に指定しない。参考文献は、適宜、紹介する。			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。参考文献は、適宜、紹介する。			
実務経験を生かした授業	保健・医療・福祉の現場の専門職者が、各専門職の実践活動と他の専門職との連携について講義する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	他職種の専門性と多職種間の連携の必要性について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	専門職業人となることをイメージして、主体的に学習できる。
		(DP6)	問題解決のため他の専門職と連携して仕事に取り組む意欲がある。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
専門職業人となることをイメージして、主体的に学習することができる。他職種の専門性と多職種間の連携の必要性を理解し、問題解決のため他の専門職と連携して仕事に取り組む意欲がある。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
他職種の専門性と多職種間の連携の必要性を理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			
A：80～89 履修目標を達成している			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			60			40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		◎			◎	
	(DP6)		◎			◎	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション・保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携①	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
2	保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携②	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
3	保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携③	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
4	保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携④	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
5	保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携⑤	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
6	保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携⑥	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
7	保健・医療・福祉の専門職の実践活動と多職種連携⑦	講義（外部講師）	授業について的小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。
8	まとめとディスカッション	グループ・ディスカッション	それぞれの専門職種の実践活動と他の専門職との連携の重要性について整理する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし									
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8
発見学習／問題解決学習											
体験学習／調査学習											
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク											○
その他（ ）											
内容				第8回：少人数のグループに分かれて7回の講義内容について振り返りを行い、学んだことを整理し、発表する。							

I. 科目情報

科目名（日本語）	データベース論		単位	2
科目名（英語）	Database Studies		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	世の中にある多くの情報システムにおいてデータベースはデータ管理の中核となっている。本講義では、情報システム設計の基本となるデータベースについて、役割と仕組み、構築とデータ管理について学習する。また、Microsoft Access を利用して実際にデータベースの構築を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	e ラーニングで資料配布します。 Access の操作については、『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦（オーム社）を使用			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	情報システムにおけるデータベースの役割・機能について理解している。 データベースの仕組みに関する基礎知識を修得している。 SQL の記法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実事象を適切にモデル化することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	データベースの設計・構築を行うことができる。 SQL を使ってデータベースから必要な情報を抽出することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題・ レポート	授業態度・ 参加度	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	データベースとは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	データベース管理システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	関係データベース（1）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
4	関係データベース（2）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	関係代数	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

6	Access の操作演習	Access による DB 検索演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
7	SQL (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	SQL (2)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
9	SQL (3)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	データベースの設計(1)三層スキーマ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	データベースの設計(2)E-Rモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	データベースの設計(3)正規化1	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	データベースの設計(4)正規化2	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
14	データベース設計演習(1)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	データベース設計演習(2)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報ネットワーク論			単位	2
科目名（英語）	Information Network Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができない。パソコンやスマートフォンで日常的に利用しているネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。 本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	eラーニングで資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ネットワークシステムの構成について理解している。 ネットワーク技術に関する専門用語や基礎知識を理解している。 ネットワークセキュリティの基礎知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ネットワークシステムを構築する各機器の役割について理解する。ネットワーク技術に関する数学的知識を身につける。ネットワークセキュリティに関する基盤技術について理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。ネットワークセキュリティについて理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60		20	20			100
知識・理解	(DP1)	○		○				
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)	○		○				
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	コンピュータネットワークの基礎	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	インターネットの技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
3	OSI基本参照モデルとTCP/IPモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	プロトコル技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
5	LANシステムの構成	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	IP アドレス	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	サーバー (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	サーバー (2)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	ルーター	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
10	スイッチと VLAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	ファイアーウォール	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	ネットワーク攻撃とセキュリティ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
13	暗号化、ユーザ認証	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	無線 LAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	音声、動画の通信	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	問題解決演習		単位	1
科目名（英語）	Problem Solving		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子			
授業概要	<p>現代社会では、個人の能力を発揮することによって、地域社会が発展することが重要視されています。授業では、地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。</p> <p>授業の中では、具体的な社会課題を考えるため可能な限り身近な課題を扱う予定です。これまでは、めんべい、博多座、西部ガスなどの企業から提供された課題を解決することに挑戦しました。授業時間には限りがあるため、授業内容を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度、チームでの協同作業への主体的な取り組みが求められます。なお、授業の連続性が高く学外の方との協同作業も含まれるため、毎回の授業出席は重要になります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	前向きな姿勢でグループワークに参加し、授業を欠席しないよう努めること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	企業や行政にマネジメントや人材育成について助言アドバイスをしている教員が諸経験を活かし、社会で活躍するために必要になる基礎的能力育成を目指して講義する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
		(DP3)	
	思考・判断・表現	(DP4)	チームの内部及び外部の者に対して、問題の設定や解決に関する情報を的確に伝達できる。
		(DP5)	
	関心・意欲・態度	(DP6)	地域社会に存在する問題を発見し、自らその解決に向けて具体的に活動することができる。
		(DP7)	
	技能	(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	問題の発見、解決に必要なとなる情報の収集、分析を適切に行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	与えられた課題を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度をはぐくみます。また、チームでの協同作業への主体的な取り組み姿勢を身に着けます。パワーポイントを作成し、社会人を相手にプレゼンする力を身に着けます。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30		60		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		10		20			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		10		20			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		10		20		10	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	多様な地域課題の背景と課題間の関係性について考える	講義・アクティブラーニング	本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあいます。課題を提供していただくのは、民間企業や行政機関となります。1・2回は現場を見学する予定です。土曜日に見学訪問を行う可能性が高いです。課題の内容や活動の状況によっては、予定を変更することがあ
3	地域課題の抽出、チームビジョンの共有、チームリーダー決定	講義・アクティブラーニング	
4	企業分析のためのツールや分析方法について	講義・アクティブラーニング	
5	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	

6	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	ります。
7	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
8	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
9	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
10	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
11	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
12	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
13	変課題解決案の発表会の準備	講義・アクティブラーニング	
14	プレゼンテーション	アクティブラーニング	
15	振り返り	プレゼンテーション	
備考	5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	<input type="radio"/>	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
その他（ ）																	
内容	グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語ライティング		単位	1
科目名（英語）	Practical Japanese writing		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	読者と目的を明確に設定し、適切な語彙と表現を選択して、筋道を立てて、「見えるように」、簡潔に日本語を書くための基礎スキルを身につける。そのために、ビジネス・ライティングに必須の要約、論理的構造化、キーワード設定のスキルを訓練する。また、就職試験のエントリーシートやビジネス現場の電子メールなどを書く実践的なトレーニングも行う。民間企業、行政機関、医療機関などで実際に使われている文書や、新聞、雑誌などのニュース記事を教材として使用する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	なし。			
参考図書・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	読者と目的を明確に設定し、筋道立てて、「見えるように」、簡潔に日本語を書くための基礎スキルが身についている。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	各自の専門分野において、説得力のある文章を書くための基礎スキルが身についている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
読者と目的を明確に設定し、適切な語彙と表現を選択して、筋道を立てて、「見えるように」、簡潔に日本語を書くための基礎スキルを身につけている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
読者と目的を明確に設定し、適切な語彙と表現を選択して、筋道を立てて、「見えるように」、簡潔に日本語を書くことの必要性が理解できている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○				
備考		各人の成長度合いを重視する。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス	授業プランの説明	「日本語ライティングオリジナルテキスト」により授業内容を復習すること。欠席した場合は、必ずその回のトレーニングを各自行うこと。
2	要約力を鍛える（1）	毎回、授業時に配付する「日本語ライティングオリジナルテキスト」にしたがい、重要事項の解説をした後、すぐに授業中に実践的トレーニングを行う。	タスク No.1 をする。
3	要約力を鍛える（2）	解説とトレーニング	
4	読者と目的で書き分ける（1）	解説とトレーニング	タスク No.2 をする。
5	読者と目的で書き分ける（2）	解説とトレーニング	
6	読者と目的で書き分ける（3）	解説とトレーニング	タスク No.3 をする。 小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。
7	「見えるように」書く（1）	解説とトレーニング 小テスト（第1回）	

8	「見えるように」書く(2)	解説とトレーニング	タスク No.4 をする。
9	「見えるように」書く(3)	解説とトレーニング	
10	シンプルに書く(1)	解説とトレーニング 小テスト(第2回)	タスク No.5 をする。
11	シンプルに書く(2)	解説とトレーニング	
12	論理的に書く(1)	解説とトレーニング	
13	論理的に書く(2)	解説とトレーニング	タスク No.6 をする。
14	添削力を鍛える	解説とトレーニング	小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。
15	まとめ	学習内容全体についての復習 小テスト(第2回)	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				毎回、自分が書いた解答を複数名で相互に検討する。														